

YAESU
The radio

VHF/UHF
DUAL BAND TRANSCEIVER
STANDARD
VX-6

取扱説明書



安全上のご注意

お使いになる前に

簡単運用

基本操作

メモリーを使う

スキャン操作

各種の便利な機能

必要に応じて使う機能

付 錄

当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しくお使いいただきために、この「取扱説明書」をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
製品の仕様・外観等は改良のため予告なく変更することがあります。
この取扱説明書に記載の社名・商品名などは、各社の商標または登録商標です。
本機を使用するためには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

目次

安全上のご注意	2	新ページヤー機能を動作させる	38
同梱品・オプション	4	特定の局を呼び出す	39
お使いになる前に	6	待ち受け時の動作	39
付属品を取り付ける	6	EAI機能	40
電池/「バッック“FNB-80Li”」を準備する	7	個別コードを設定する	41
乾電池ケースの使いかた	8	EAI用周波数を変更する	41
使用時間の目安と残量表示	8	EAI機能を動作させる	42
外部電源を接続する	9	EAI機能で探索を行う	42
各部の名称と働き	10	スマートサーチ機能	43
ディスプレイの説明	11	ARTS機能	44
簡単運用	12	トーンスケルチ機能とDCS機能	45
基本操作	14	エマージェンシー機能(緊急を知らせる)	47
電源を入れる	14	盗聴器発見機能サーチ	48
音量を調節する	14	ウェイクアップ機能	49
周波数帯(BAND)を選ぶ	14	チャンネルカウンター	50
周波数をあわせる	15	気圧を表示する	51
送信する	15	高度を表示する	51
送信出力を切り替える	16	必要に応じて使う機能	52
状態が変わらないようにロックする	16	プライオリティ機能を使う	52
スケルチのレベルを調節する	16	DTMF機能を使う	53
レビータで交信する	17	バースワード機能	54
オールリセット	17	プログラマブルキー機能	54
WIRESで交信する	18	自動的に電源をオンにする	55
メモリーを使う	20	自動的に電源をオフにする(APO)	55
メモリーに書き込む	21	RFスケルチ機能	55
メモリーを呼び出す	22	連続送信時間を制限する(TOT)	56
メモリーを消す	22	受信中に誤って送信しないようにする(BALO)	56
メモリーチューン機能	22	温度を表示する	56
ホームチャンネルを呼び出す	23	マイクゲインを調節する	56
スプリットメモリー	23	照明の点灯条件を変更する	56
メモリーチャンネルに名前を付ける	24	照明の明るさを変更する	57
ダイレクトメモリーリコール(DMR)機能	25	TX/BUSYインジケーターをライトとして使用する	57
メモリー・バンクを使う	26	ベル機能を使う	57
メモリー・バンクに登録する	26	電池(電源)電圧を表示する	57
メモリー・バンクを呼び出す	27	受信感度を下げる(ATT)	58
メモリー・バンクへの登録を解除する	27	操作音が鳴らないようにする	58
メモリー・バンクに名前を付ける	27	操作音の音量を設定する	58
スペシャル・バンクのTV専用メモリー	28	電源を入れた時の表示を変える	58
TV放送を聴く	28	マニュアルでモードを切り替える	59
スペシャル・バンクにプリセットされた		マニュアルでステップを切り替える	59
世界各地の放送、AM/FMラジオ		メモリー・オノリー・モード	59
TV放送を聴く	29	CWDの設定	60
スペシャル・バンクにプリセットされた		CWトレーニング機能	61
鉄道無線を聴く	30	セットモード番号順一覧表	62
スペシャル・バンクにプリセットされた		セットモード項目別一覧表	64
特定小電力無線を聴く	32	セットモードの動作一覧	66
スペシャル・バンクにプリセットされた		パケット通信に使う	76
ワイヤレスマイクを聴く	33	クローン操作	77
スキャナ操作	34	付録	78
VFOスキャナ	34	プリセットされている放送局周波数一覧表	78
メモリースキャナ	35	アマチュア無線局免許申請書の書きかた	82
メモリー・バンクスキャナ	36	周波数の使用区分	84
プログラマブルメモリースキャナ(PMS)	37	気圧センサユニット“SU-1”的取り付け	84
各種の便利な機能	38	故障かな?と思ったら	85
新ページヤー機能	38	索引	86
自局のコードを設定する	38	定格	88
		キー操作早見表	表3

特 徵

ダイレクトメモリーリコール(DMR)機能！ 12, 25 ページ

頻繁に使用する周波数を、キーのワンタッチ押して呼び出すことができる DMR 機能を搭載。まるで車のラジオのような感覚で、お気に入りの周波数を簡単に呼び出すことができます。

EAI(エマージェンシーオートマチック ID)！ 40 ページ

仲間との登山やハイキングの時、不慮の事故で自分の意識が無くなった時や、動けなくなったりなどに、自分の行方を仲間に探索してもらうための機能です。

世界各地の放送、AM/FMラジオ、TV放送、鉄道無線、特定小電力無線、

ワイヤレスマイクなどをスペシャルバンクで簡単受信！ 28～33 ページ

専用プリセットメモリーにより、世界各地の主な放送局、AM/FMラジオ放送局、TV放送局、鉄道無線、特定小電力無線、ワイヤレスマイクの音声を簡単に聞くことができます。

新ページャー機能！ 38 ページ

2つのトーンを使用した新しいページャー機能で、仲間同士で運用中に、特定の局だけを呼び出すことができます。

WiRES アクセス機能を搭載！ 18 ページ

インターネットに接続して通信距離を飛躍的に拡大する WiRES システムを利用することができます。

ウェイクアップ機能！ 49 ページ

電源をオフにしていても、自動的に信号の有無を確認します。電池の消費を大幅に少なくしながら、相手からの呼び出しを待つことができます。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止して障害の有無や程度を確認してください。

《参考》無線局運用規則 第8章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若くは、与える虞があるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。

(以下省略)

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じてお買い上げの販売店などに相談するなどして、適切な処置を行ってください。

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むづかしい場合もあります。

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟(JARL)

〒170-8073 東京都豊島区南大塚3-43-1 大塚HTビル6階

TEL 03-3988-8754

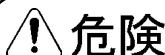
安全上のご注意

安全上のご注意（必ずお読みください）

本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた障害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

マークの種類と意味



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号の種類と意味



本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。



本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。



危険



航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では使用しないでください。電子機器や医療用電子機器に影響を与える場合があります。



自動車やバイクなどを運転しながら使用しないでください。事故の原因になります。
運転者が使用するときは、必ず安全な場所に車を止めてから使用してください。



心臓ペースメーカー等の医療機器を装着されている方は、携行した状態では送信しないでください。送信する場合は、外部アンテナを使用し、できるだけアンテナから離れて送信してください。
本機からの電波が医療機器に影響をあよぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。



心臓ペースメーカーなどの医療機器を装着している方に配慮し、混雑した場所では送信しないでください。
本機からの電波が医療機器に影響をあよぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。



電池パックや乾電池から漏れている液などに素手で触れないでください。
皮膚に付着したり、目に入ると化学火傷を起こすことがあります。この場合、直ちに医師の診断を受けてください。



電池パックや乾電池ケースの端子をハンダ付けしたり、ショートさせたりしないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。また、ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。ショートするおそれがあります。

警告

-  指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。
-  電池/パックや乾電池ケースを指定機器以外の用途に使用しないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
-  本機は“JS保護等級7種防浸形相当”的防浸構造になっておりますが、もし濡れた場合は、そのまま放置せず、乾いた布などで拭いてください。
濡れたまま放置すると、故障や感電などの原因になります。
-  外傷、変形の著しい電池/パックを使用しないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



分解や改造をしないでください。
ケガ・漏液・感電・火災・故障の原因になります。



無線機、電池/パックおよびバッテリーチャージャーから煙が出ていたり、変な臭いがするときは、電源をオフにして電池/パックを取り外し、電源コードをコンセントから抜いてください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火・故障などの原因になります。お買い上げいただきました販売店または当社カスタマーサポートにご連絡ください。



当社指定以外のバッテリーチャージャーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。



電池パックや乾電池ケースの端子はいつもきれいにしておいてください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



注意

-  アンテナを持って、本体を振り回したり投げたりしないでください。
本人や他人にあたり、ケガの原因になります。また、本体の故障や破損の原因になります。
-  人の多い場所では使用しないでください。
アンテナが他人にあたりケガの原因になります。
-  本機を直射日光のある場所や熱器具の付近に置かないでください。
変形・変色などの原因になります。
-  本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
火災や故障の原因になります。
-  送信中はできるだけ身体からアンテナを離してください。
長時間身体に電磁波を受けると、身体に悪影響をあおぼす場合があります。



長期間ご使用にならない場合には、安全のため、電源をオフにし、電池パックを外してください。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。
ケースの汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。



強い衝撃を加えたり、投げつけたりしないでください。
故障の原因になります。



磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。
キヤッショーカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。



イヤピースマイクロホン、イヤホン、ヘッドホンなどを使用するときは、音量を大きくしないでください。
聴力障害の原因になります。



注意



小さなお子さまの手の届かない場所に保管してください。
ケガなどの原因になります。



電池/パックは5°C~35°Cの温度範囲内で充電してください。
この温度範囲外で充電すると、漏液や発熱したり、電池の性能や寿命を低下させる原因になります。



付属のバッテリーチャージャーで当社指定の電池/パック以外は充電しないでください。
火災や故障の原因になります。



使用済の電池/パックは、端子にテープなどを貼って絶縁してから破棄してください。



引火性のガスの発生する場所でバッテリーチャージャーを使用しないでください。
発火事故の原因になることがあります。



バッテリーチャージャーを使用しないときは、コンセントから抜いてください。



バッテリーチャージャーの電源コードの上に重い物を載せないでください。
電源コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



バッテリーチャージャーをコンセントから外すときは、必ずバッテリーチャージャー本体を持ってください。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因になります。

同梱品

ご使用になる前に、梱包品をご確認ください。

本体(VX-6)	1
アンテナ	1
電池/パック(FNB-80L)	1
/バッテリーチャージャー(PA-48A)	1
ベルトクリップ	1

ハンドストラップ	1
取扱説明書	1
保証書	1

- 保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることを、ご確認ください。
- 不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

オプション

- ・7.4Vリチウムイオンバッテリーパック(FNB-80L)
- ・アルカリ電池用ケース(FBA-23:乾電池は含まず)
- ・チャージャースタンド(CD-15A)
- ・/バッテリーチャージャー(PA-48A)
- ・BNC-SMAアンテナ変換アダプター(CN-3)
- ・シガープラグ付外部電源アダプター(SDD-13)
- ・外部電源ケーブル(EDC-6)
- ・防水型スピーカーマイク(CMP460A)
- ・イヤピースマイク(SSM-55A)
- ・VOXヘッドセット(SSM-64A)
- ・スピーカーマイク(MH-57AB)
- ・マイクアダプター(CT-91)
- ・気圧センサユニット(SU-1)
- ・ソフトケース(CSC-91)

オプションは、当社純正品のご使用をおすすめします

本製品は、当社純正の専用オプションと組み合わせて使用した場合に、最適な性能を発揮するように設計されてありますので、当社純正オプションのご使用をおすすめいたします。
なお、当社純正品以外のオプションを使用が原因で生じた故障や事故などの損害については、弊社では一切責任を負いませんので、ご承知ください。

— 気圧センサユニット “SU-1” について —

本格的な測定を目的として製造されたものではありません。測定された値は、あくまで目安の値として使用してください。測定した値を使用して生じた二次災害や損害などについては、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご承知ください。

— 防水 “JIS 保護等級 7 種防浸形相当” について —

本機の防水性能は、付属のアンテナと電池/パックを取り付け、さらにMIC/SP 端子とEXP DC 端子のラバーキャップをしっかりと取り付けた状態で、水深 1m の水没に 30 分間耐えることができます。

この防水性能を永く確保していただくために、ご使用になる前に必ず下記の項目をご確認ください。

◎キズ、劣化、汚れなどの確認

キーヤスイッチのラバー、MIC/SP 端子とEXP DC 端子のラバーキャップ、電池/パック接合部分

◎お手入れのしかた

海水・砂・泥などがついたときは真水で洗い流し、すぐに乾いた布で拭き取ってください。

◎オーバーホールのお奨め

次のいずれかに該当する場合は、オーバーホールをお奨めいたします。なお、オーバーホール代金は有償となりますので、あらかじめご承知ください。

- ・ お買い上げから 1 年経過した場合
- ・ オーバーホールを行って 1 年経過した場合
- ・ キズ、劣化などが確認された場合

◎その他の注意

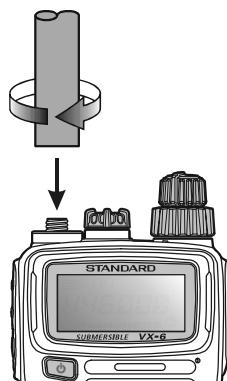
完全防水ではありませんので、水中での使用はできません。

付属品を取り付ける

■アンテナを取り付ける

アンテナのコネクターに近い部分を持って、時計方向にまわして取り付けます。

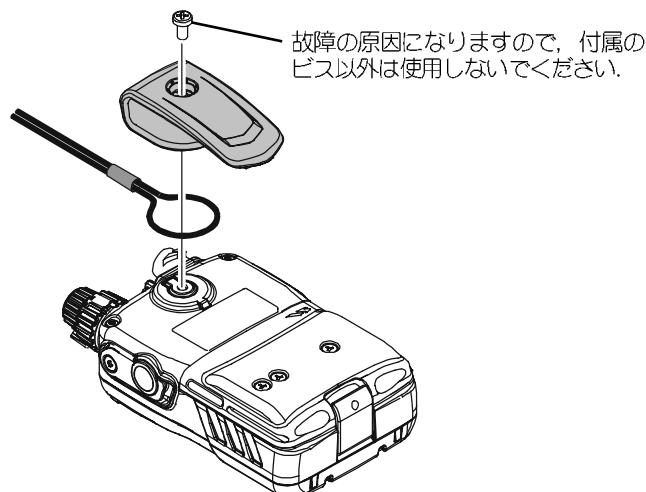
- ◎ アンテナの取り付けおよび取り外し時には、アンテナの上部を持ってまわさないでください。アンテナの内部で断線する場合があります。
- ◎ アンテナを取り付けない状態で、送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。
- ◎ 付属以外のアンテナを使用する場合や、外部のアンテナを接続する場合には、SWRが1.5以下に調整されたものを使用してください。



■ベルトクリップとハンドストラップを取り付ける

下図を参考に、ベルトクリップをハンドストラップと共に、付属のビスで取り付けます。

- ◎ ベルトクリップの固定には、必ず付属のビスを使用してください。他のビスを使用すると、しっかり固定できながつたり、本機の内部に損傷を与える場合があります。
- ◎ ベルトクリップを使用せず、ビスのみを本機に取り付けないでください。本機の内部に損傷を与える場合があります。

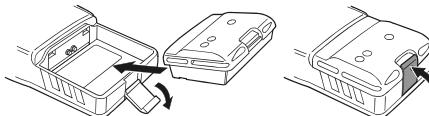


電池パック“FNB-80LI”を準備する

■電池パックを取り付ける

お買い上げ後、または長期間使用していない電池パックは、充電してからお使いください。

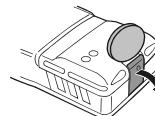
1. 本機底面のロックを下げる、電池パックを入れます。
2. 「カチッ」と音がするまで、ロックを押し上げます。



■電池パックを取り外す

防水機能を保つため、ロックは硬めに設計されています。ロックを外す時はコインなどを使って外し、指や爪などを傷めないよう、十分注意してください。

- 本機底面のロックをコインなどを使って下げ、電池パックを取り外します。



電池パック(リチウムイオン電池)について

- ◎ 電池パックは、繰り返し使用できる充電可能リチウムイオン電池(7.4V)を使用しています。
- ◎ 電池パックは、正しく充電すると約300回使用できます。
- ◎ 電池パックは消耗品です。充放電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
- ◎ VX-6に電池パックを取り付けた状態で長時間放置すると、電池パックの劣化を早める原因になります。長時間放置/保管する時は、必ずVX-6から電池パックを外してください。
- ◎ 電池パックをVX-6から外して長時間保管する場合は、バッテリーの充電容量を50%前後の状態にして保管してください。
- ◎ 高温の場所で保管すると、劣化の進行を早めることができます。なるべく低温状態で保管してください。
- ◎ 電池パックを落としたり、衝撃を与えると、破損の原因になります。

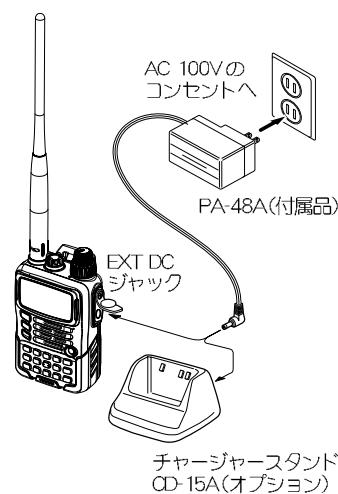
■電池パックを充電する(約5時間充電)

付属のバッテリーチャージャー“PA-48A”を、VX-6のEXT DC端子に接続して充電します。

充電中はディスプレイに充電の経過を表す棒グラフと“CHGING”が表示され、TX/BUSYインジケーターが赤色に点灯します。充電が終わると棒グラフはフルスケールになり、表示が“CHGFUL”に変わって、TX/BUSYインジケーターが緑色に点灯します。

充電が完了したら、バッテリーチャージャー“PA-48A”をEXT DC端子から抜いてください。充電したままにしておくと、電池パックを劣化させることができます。

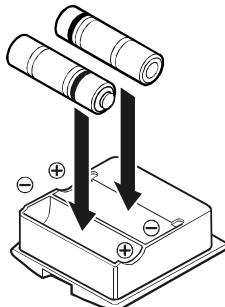
- ◎ 使用中にバッテリーチャージャーやトランシーバー本体が発熱する場合がありますが故障ではありません。
- ◎ 付属のバッテリーチャージャーでは送信することはできません。
- ◎ 充電は、周囲の温度が+5°C～+35°Cの場所で行ってください。
- ◎ 電池パックが消耗すると“”が点滅します。すみやかに充電してください。
- ◎ オプションのチャージャースタンド“CD-15A”を使用すると、約2時間半で充電することができます。
- ◎ CD-15AのLEDは、赤色の点灯(充電開始時)→赤色の速い点滅→赤色の遅い点滅→緑色の点灯(充電終了)と変化します。
- ◎ 時々、端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく使用できなければなりません。
- ◎ ウェイクアップ機能、オンタイマー機能が動作中は、充電することができません。
- ◎ 「電池パックがほぼ一杯に充電されている」または「電池パックが正しく取り付けられていない」場合、ディスプレイに“NO BAT”が表示され、TX/BUSYインジケーターがオレンジ色に点灯します。



乾電池ケースの使いかた(オプション)

オプションの乾電池ケース“FBA-23”を用意しておくと、単三形アルカリ電池2本で使用することができます。

なお、単三形アルカリ電池を使用した場合、送信出力は0.3Wと0.05Wになります。



- ◎ 乾電池が消耗すると、ディスプレイの“”が点滅します。
- ◎ 乾電池を使用しているときの送信出力は、0.3W(L2)と0.05W(L1)に切り替えることができます。
- ◎ 使用できる乾電池はアルカリ乾電池だけです。マンガン乾電池は使用できません。
- ◎ 古い電池と新しい電池を混ぜて使用すると、乾電池の寿命を短くすることがあります。
- ◎ 長時間使用しない場合は、乾電池ケース“FBA-23”から乾電池を取り外しておいてください。
- ◎ ときどき乾電池ケース“FBA-23”的端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく使用できなければかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。

使用時間の目安と残量表示

フル充電した電池/パックおよび、乾電池で使用できる時間の目安は次のとおりです。

使用/バンド	電池/パック	乾電池	アイコン表示
144MHz帯	約7時間	約6.5時間	電池/パック使用時 通常は、アイコン表示はありません.
430MHz帯	約6時間		: 残りわずかです. : 空になりました。すみやかに充電してください。
受信のみ	約15時間		乾電池使用時 : まだ使えます. : アルカリ乾電池を交換してください。

上記の使用時間の目安は、下記の使いかたの場合です。

144MHz帯、430MHz帯：ハイパワーで送信6秒、受信6秒、待ち受け48秒の繰り返し
その他の周波数帯：連続受信(定格出力の1/2において)

上記の使用時間は目安です。実際に使用できる時間は、充電状態や使いかた、温度などによって異なります。

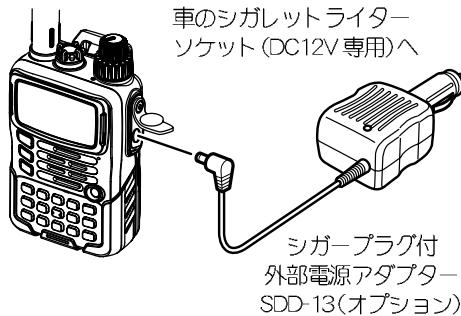
外部電源を接続する

オプションのシガープラグ付外部電源アダプター（SDD-13）または、外部電源コード（E-DC-6）を使用すると、充電しながら送受信を行うことができます。オプションの取扱説明書もあわせてご覧ください。

- ◎ VX-6の電源をオフにした状態での充電時間は、約5時間です。なお、VX-6の電源をオンにして充電すると、充電時間は多少長くなります。
- ◎ 周囲の温度が+5°C～+35°Cの場所で充電を行ってください。
- ◎ 時々、端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく充電できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。
- ◎ “SDD-13”はDC12V車専用ですので、バスやトラックなどのDC24V車では使用することはできません。
- ◎ 市販の安定化電源に、外部電源ケーブル“E-DC-6”を接続して使用する場合は、次の点にご注意ください。
 - ・電源電圧が12V～14Vの範囲であること(14Vを超えると高電圧プロテクトが動作し、ハイパワーで送信できなくなります。自動的にLOW3(2.5W)になります)。
 - ・“E-DC-6”的赤黒線または白黒線をプラス(+)に、黒線をマイナス(-)に接続すること。
 - ・電流容量に十分余裕があるもの(3A以上)をご使用ください。
 - ・付属のアンテナを接続して使用すると、安定化電源が誤作動を起こし、故障の原因になります。市販の外部アンテナを接続して、VX-6を安定化電源から十分な距離をおいてください。
- ◎ 満充電の状態で繰り返し充電を行うと、電池パックの寿命を短くすることがありますので、外部電源で運用するときは、十分ご注意ください。

■シガレットライターに接続する

1. VX-6の電源を“オフ”にします。
2. オプションのシガープラグ付外部電源アダプター“SDD-13”的プラグを、VX-6のEXT DC端子に接続します。
3. シガープラグ付外部電源アダプター“SDD-13”的シガープラグを、車のシガレットライターソケットに接続します。

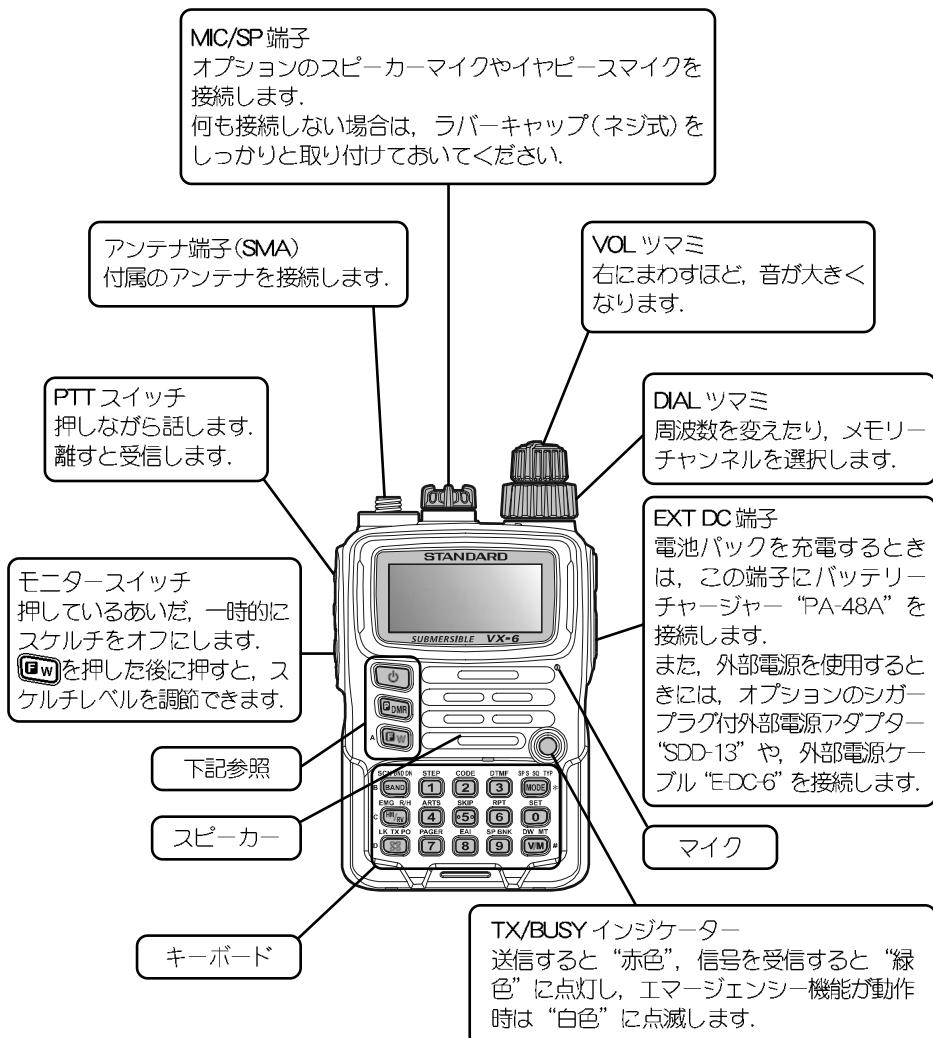


■市販の安定化電源を接続する

1. VX-6の電源を“オフ”にします。
2. オプションの外部電源ケーブル“E-DC-6”的“赤黒線”または“白黒線”を安定化電源のプラス(+)端子に、“黒線”をマイナス(-)端子に接続します。
3. 外部電源ケーブル“E-DC-6”的プラグを、VX-6のEXT DC端子に接続します。



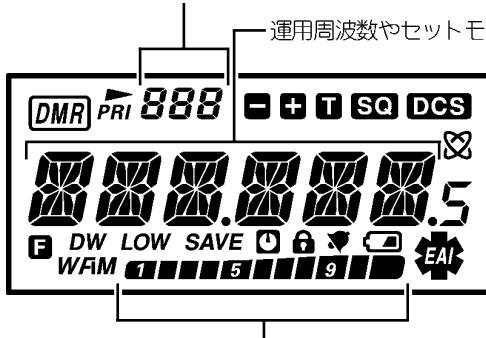
各部の名称と働き



	電源スイッチ 1秒以上押して電源オン。 再度1秒以上押すと電源がオフになります。
	DMRキー ◎2秒以上押すとダイレクトメモリーコール機能(25ページ参照)が動作します。 ◎よく使用するセットモードの動作を登録することができます(54ページ参照)。
	ファンクションキー ファンクションモードになります。

ディスプレイの説明

メモリーチャンネル番号を表示



運用周波数やセットモード設定項目を表示

受信している信号の強弱を表示(Sメーター)
送信時は、送信出力を棒グラフで表示(POメーター)



アイコン	動作説明
	ダイレクトメモリーリコールが動作中に表示
	スキップメモリーや特定メモリーが指定されたメモリーチャンネルを呼び出し中に表示
	プライオリティチャンネルを表示中に表示
	運用モードを表示 FM : モードが "FM" の時に表示 AM : モードが "AM" の時に表示 WFM : モードが "WFM" の時に表示
	ファンクションモード時に表示
	ロック機能が動作時に表示
	送信出力が "LOW" パワーの時に表示
	バッテリーセーブ機能が動作中(セーブ中)に表示
	ベル機能が動作中に表示
	WIREなどのインターネット通信時に表示
	EAI機能が動作中に点灯

アイコン	動作説明
	オートパワーオフ機能が動作時に表示
	プライオリティ機能が動作時に表示
	レピーター運用時にシフト方向を表示
	トーンスケルチ・DCS 運用時に表示
	: トーンエンコーダーがオンの時に点灯
	T SQ : トーンスケルチがオンの時に点灯 DCS : DCSがオンのときに点灯
	バッテリーの状態を表示 なし : ほぼ一杯に充電されています : 残りわずかです : すぐに充電してください (点滅) (アルカリ電池使用時は、新しいアルカリ電池に交換してください)

VX-6には、車のラジオのように簡単に操作できる“簡単モード”と“通常モード”的2つのモードがあります。

簡単モード(DMRモード)

車のラジオを操作する感覚で、ボタン一つで好きな周波数をすぐに呼び出すことができます。

- ① 画面に **DMR** が表示されるまで、約2秒間 **PDMR** を押し続けます。
- ② **0** ~ **9** のいずれかのボタンを押すだけで呼び出せます。



0 ~ **9** には、あらかじめ以下の周波数が登録されています。

1: 144.80MHz, **2**: 145.00MHz, **3**: 145.50MHz, **4**: 433.00MHz, **5**: 433.50MHz,
6: 439.00MHz, **7**: 540kHz, **8**: 7.00MHz, **9**: 76.00MHz, **0**: 120.00MHz

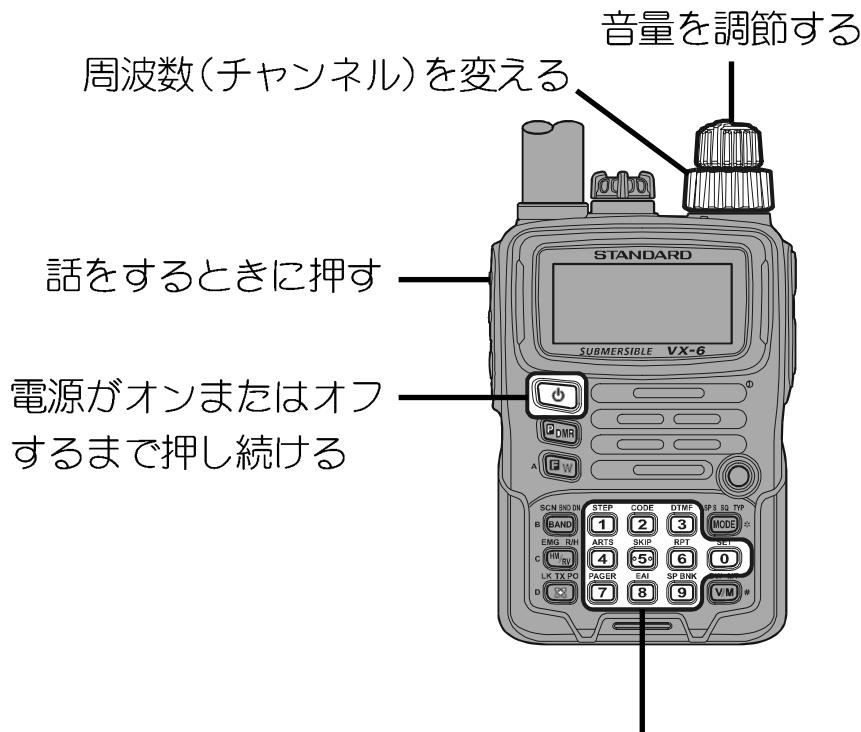
登録されている周波数を変更したいとき

新しく登録したい周波数にあわせ、登録したいボタン(**0** ~ **9** のいずれか)を約2秒以上押し続けると、登録周波数を変更することができます。

通常モード

VX-6には便利な機能が沢山ありますが、とりあえず交信できればいい場合は、下記の動作をマスターするだけで使用することができます。

簡単モード(DMRモード)から通常モードに移るときは、画面の **DMR** が消えるまで、約2秒間 **P DMR** を押し続けてください。



① ~ ⑨ のボタンで周波数をあわせる
例：439.700MHzにあわせる場合

④ → ③ → ⑨ → ⑦ → ①

基本操作

電源を入れる

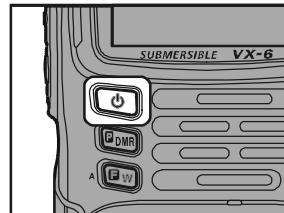
① を1秒以上押すと、電源がオンになります。

電源をオンにすると、下図のように電源電圧を表示した後、周波数を表示し受信します。



工場出荷時には 145.000MHz の周波数がセットされています。

再度① を1秒以上押すと、電源がオフになります。

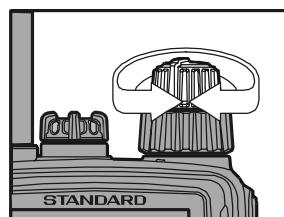


- 電源を入れたときに、コールサインなどのメッセージを表示させることもできます(58ページ参照)。
- 信号を受信していない時の消費電流を少なくすることができます。バッテリーセーブ機能が搭載されており、セーブ中は“SAVE”的表示が点滅します。なお、セットモード [53:RXSAVE] により、セーブ時間を変更することもできます(72ページ参照)。

音量を調節する

VOL ツマミをまわして、受信音を調節します。

音量を調節するときに、スピーカーから何も聞こえていない場合は、モニタースイッチを押して“ザ”という雑音を聞きながら VOL ツマミをまわしてください。

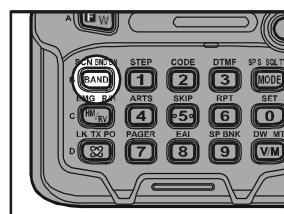


周波数帯(BAND)を選ぶ

BAND を押して周波数帯を選びます。

F/W を押してから **BAND** を押すと、反対方向に切り替わります。

- 144MHz 帯 \Rightarrow TV-VHF 放送帯 2 \Rightarrow 情報無線帯 1 \Rightarrow
- 430MHz 帯 \Rightarrow TV-UHF 放送帯 \Rightarrow 情報無線帯 2 \Rightarrow
- 中波帯 \Rightarrow 短波帯 \Rightarrow 60MHz 帯 \Rightarrow FM ラジオ放送帯 \Rightarrow
- TV-VHF 放送帯 1 \Rightarrow 航空無線帯 \Rightarrow



- 周波数帯と受信周波数の関係は、下表のような関係になります。なお、現在どの周波数帯を選択しているかを、ディスプレイに [1] ~ [c] で表示します(下表参照)。
- BAND** を押すと、現在選択されている周波数帯のホームチャンネルが呼び出されます(23ページ参照)。
- 自動的に、周波数帯に適したモードに切り替わる“AUTO(オートモード)”に設定されていますが、**MODE** を押すたびに AUTO, FM, AM, WFM に設定することができます(59ページ参照)。

周波数帯	受信周波数	周波数帯	受信周波数
144MHz 帯 [7]	137.000 ~ 173.995MHz	中波帯 [1]	504 ~ 1.791MHz
V-VHF 放送帯 2 [8]	174.000 ~ 221.995MHz	短波帯 [2]	1.800 ~ 29.995MHz
情報無線帯 1 [9]	222.000 ~ 419.995MHz	60MHz 带 [3]	30.000 ~ 75.995MHz
430MHz 帯 [a]	420.000 ~ 469.995MHz	FM ラジオ放送帯 [4]	76.000 ~ 89.995MHz
TV-UHF 放送帯 [b]	470.000 ~ 769.990MHz	TV-VHF 放送帯 [5]	90.000 ~ 107.995MHz
情報無線帯 2 [c]	770.000 ~ 998.990MHz	航空無線帯 [6]	108.000 ~ 136.995MHz

周波数をあわせる

DIAL ツマミまたはテンキーで周波数をあわせます。

DIAL ツマミを右にまわすと周波数は高くなり、左にまわすと低くなります。

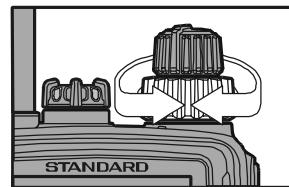
テンキーであわせる場合は、100MHz の桁から指定します。

例：433.160MHz にあわせる場合

④ → ③ → ③ → ① → ⑥

80.000MHz などの場合は、**V/M** を押すことで入力を省略することができます。

① → ⑧ → **V/M**



- ◎ **W** を押した後に DIAL ツマミをまわすと、1MHz 単位で変化します。
- ◎ セットモード [61 : STEP] により、DIAL ツマミをまわしたときの、周波数変化量を変更することができます (73 ページ参照)。
- ◎ セットモード [71 : VFO MD] の設定を “BAND” にすると、周波数帯のエッジに達してさらに DIAL ツマミをまわすと、現在の周波数帯の他端になるように設定することもできます (75 ページ参照)。
- ◎ 下記の周波数帯は受信することができません。

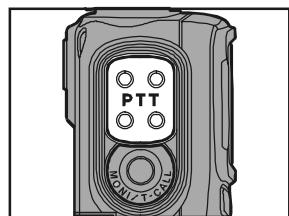
253 ~ 276MHz, 380 ~ 383MHz, 412 ~ 416MHz, 810 ~ 846MHz, 860 ~ 901MHz, 915 ~ 961MHz

送信する

1. PTT スイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

マイクと口元の間隔は、5 cm くらいが適当で、普通の声で話してください。

2. PTT スイッチを離すと、受信に戻ります。

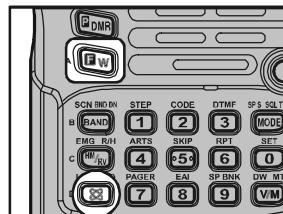


- ◎ セットモード [70 : TXSAVE] の設定を “ON” にすると、相手局の信号強度が強いとき、送信出力が自動的に下がりますので、バッテリーの消耗を抑えることができます (75 ページ参照)。
- ◎ セットモード [6 : BCLO] の設定を “ON” にすると、信号を受信中に送信しようとした際、送信を禁止することができます (67 ページ参照)。
- ◎ 長時間送信し続けると、過熱防止回路が働き送信出力が自動的にローバーになります。また、過熱防止回路が働いているときにさらに送信を続けると、「ビビッ」と警告音とディスプレイに “...HEAT...” を表示し、強制的に受信状態に戻ります。セット内部の温度が下がるまで本機をよく休ませてから送信してください。
- ◎ アンテナを取り付けない状態で送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。
- ◎ 受信モードを AM, WFM に設定していても、送信時は FM モードで送信されます。

送信出力を切り替える

VX-6の最大送信出力は5Wですが、距離の近い相手と交信するときや、バッテリーの消耗を抑えるときには、送信出力を下げることができます。

1. **[Fw]**を押し、ディスプレイに“**F**”が点灯している間に**[S2]**を押します。
2. **[S2]**を押すたびに送信出力が変わりますので、希望の送信出力を選択してください。



	運用時のディスプレイの表示	送信出力	送信時のメーター
HIGH	無し	約5.0W	
LOW3		約2.5W	
LOW2	LOW	約1.0W	
LOW1		約0.05W	

- ◎ お買い上げ時は「ハイパワー(5W)」に設定されています。
- ◎ 144MHz帯と430MHz帯のそれぞれに、送信出力を設定することができます。
- ◎ バッテリーの消耗を抑えるためにも、必要最低限の送信出力で使用してください。
- ◎ 送信出力を下げているときでも、**[Fw]**を押した後にPTTスイッチを押すと、一時的にハイパワーで送信することができます。
- ◎ セットモード [70 : TXSAVE] の設定を“ON”にすると、相手局の信号強度が強いときは、送信出力が自動的に下がりますので、バッテリーの消耗を抑えることができます(75ページ参照)。

状態が変わらないようにロックする

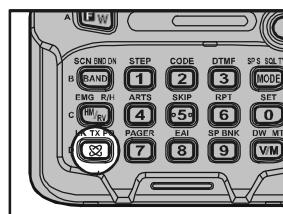
誤って周波数などが変わってしまったりしないように、キーをマミをロックすることができます。

1. **[S2]**を“**LOCK**”が点灯するまで押し続けます。

ディスプレイに“**LOCK**”が点灯してロックが動作します。

ロックを解除するときは、“**LOCK**”が消えるまで**[S2]**を押し続けます。

- ◎ セットモード [35 : LOCK] の設定を変えることにより、ロックする動作状態を変更(PTTスイッチもロックさせるなど)することができます(70ページ参照)。



スケルチのレベルを調節する

信号が入感していない時の、耳障りなノイズを消すことができます。

1. **[Fw]**を押し、続けてモニタースイッチを押します。

2. DIAL ツマミでレベルを調節します。

FM/AMモードのときは“LVL0～15”，WFMモードのときは“LVL0～8”まで調節することができます。

3. PTTスイッチを押して終了です。

- ◎ セットモードの [59 : SQL] でも、スケルチレベルを設定することができます(73ページ参照)。

レピータで交信する

ARS(Automatic Repeater Shift)機能により、受信周波数をレピータの周波数(439MHz帯)にあわせるだけで、自動的にレピータを使った交信ができます。

1. 受信周波数をレピータの周波数にあわせます。

ディスプレイに “■ T” が点灯します。



2. PTTスイッチを押しながら話します。

送信時は、88.5Hzのトーン信号を伴いながら、受信周波数より5MHz低い周波数で電波が発射されます。



- ◎ レピータ運用時 [F W] → [W/RV] と押すと、ディスプレイの “■” が点滅し、一時的に送信周波数と受信周波数を入れ替えることができます(リバース)。リバースを解除するには、もう一度 [F W] → [W/RV] と押します。
- ◎ 430MHz帯において、トーンスケルチやDCSの機能が動作しているときは、トーンスケルチやDCSの機能が優先され、ARS機能は自動的に“オフ”になります。レピータで交信する際は、430MHz帯のトーンスケルチやDCSの機能をオフにしてください(45ページ参照)。
- ◎ セットモードの [56 : SHIFT] により、レピータのシフト幅を変更することができます(73ページ参照)。
- ◎ [F W] → [6] または、セットモードの [51 : RPT] により、レピータのシフト方向を設定することができます(72ページ参照)。
- ◎ セットモードの [4 : ARS] により、ARS機能の動作をオフにすることができます(66ページ参照)。

オールリセット

すべての設定やメモリーをクリアして、お買い上げ時の状態に戻すことができます。

1. [MODE] [D] [W] のキーを同時に押しながら電源をオンにします。
2. [F W] を押すと、オールリセットは終了します。

リセット操作を中止したい場合は、PTTスイッチを押してください。

! オールリセットを行うと、メモリーした内容は全て消去されます。
メモリー内容は必ず紙などに控えておくようにしてください。

- ◎ セットモードの設定値だけを、工場出荷時の値に戻すことができます(セットモードリセット: 66ページ)。

WiRES で交信する

以下の操作方法で、簡単に WiRES 局を利用したインターネット通信を行なうことができます。あらかじめ、お近くの WiRES 局のアクセスコードや周波数を、八重洲無線のホームページ (<http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html>) などでご確認ください。

■ローカルの WiRES 局をアクセスする(SRG 方式)

SRG 方式の WiRES 局をアクセスするには、ローカルの WiRES 局に対して、インターネットを介して接続したい WiRES 局のアクセスコード（1桁の DTMF 信号）を送出することでアクセスすることができます。あらかじめ、WiRES 局に周波数とアクセスコードを確認してください。

1. セットモード (Fw → 0) にして、DIAL ツマミで『30 : INT MD』にあわせて 0 を押します。
2. DIAL ツマミで、"SRG" を選び 0 を押します。
3. DIAL ツマミで『29 : INT CD』にあわせて 0 を押します。
4. DIAL ツマミで送出したいアクセスコード (DTMF コード "DTMF 0~9", "DTMF A~F") を表示させ、PTT スイッチを押して確定させます。

◎ DTMF コードの "*" は "E", "#" は "F" と表示されます。

5. () を押します。
ディスプレイの右上に " " が表示します。
6. ローカルの WiRES 局の周波数にあわせます。
7. PTT スイッチを押してアクセスコードを送出後、PTT スイッチを押したままマイクに向かって話します。
PTT スイッチを押すと、自動的にアクセスコードが送出されます。
8. PTT スイッチを押すたびに、手順 4. でセットしたアクセスコードが送出され、インターネットを介して WiRES 局をアクセスすることができます。
9. インターネットモードをオフにするには () を押します。
ディスプレイの右上にある " " の表示が消えます。



DTMF コマンド

WiRES のソフトウェアは、受信した DTMF 信号により、以下のような動作を行います。

#6666D #66666	ID コマンド	他の WiRES 局との接続状況を知らせるコマンドです。
#7777D #77777	CQ コマンド	オンラインリスト表示している中から、ランダムに選択した WiRES 局の ID へ接続します。
#8888D #88888	RECONNECT コマンド	直前に接続していた WiRES 局の ID へ再接続します。
#9999D #99999	DISCONNECT コマンド	接続を切断するときのコマンドです。

詳しくは八重洲無線のホームページ (<http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html>) をご覧ください。

■ローカルのWiRES局をアクセスする(FRG方式)

FRG方式のWiRES局をアクセスするには、ローカルのWiRES局に対して、インターネットを介して接続したいWiRES局のアクセスコード(6桁のDTMF信号)を送出することでアクセスすることができます。アクセスコード(6桁のDTMF信号)は八重洲無線のホームページ等で一般利用者向けに「WiRES ID リスト」として公開されてあります。

あらかじめ、WiRES局に周波数とアクセスコードを確認してください。

1. あらかじめアクセスコードと切断コード (F99999 または、F9999D) を「WiRES ID メモリー」に登録しておきます。

- ◎ DTMFコードの“*”は“E”，“#”は“F”と表示されます。
F99999の場合、実際のコードは#99999となります。
- ◎ コードは、以下の方法で登録することができます。
 1. セットモード( )にして、DIALツマミで [32 : INT.SET] にあわせて  を押します。
 2. DIALツマミでコードを登録したいチャンネル(F0～F63)を選び  を押します。
 3. 希望のコード(最大8桁)をキーで入力します(“B”と“*”はDIALツマミで選択し  を押してください)。
 -  を押すと、一桁前のコードを入力し直すことができます。また、 を約2秒以上押すと、カーソル以降(カーソルのある桁を含む)のコードを消去できます。
 4. 登録したコードには、コールサインなどの名前を付ける(最大6文字)ことができ、名前を付けると、コード選択時に「コード」と「名前」を交互に表示するようになります。
 - 名前を付ける必要がない場合は、PTTスイッチを押すと、コード登録は終了します。
 5. 操作3. が終了後、チャンネル番号が点滅するまで、 または  を何度も押します。
 6.  に続けて  を押します。
 7. DIALツマミで、一文字目の文字を選択します。
 8.  を押すと、次の桁の文字を選択することができます。
 9. 操作7.～8.を繰り返して、希望の名前を入力します(最大6桁)。
 10. PTTスイッチを押すと、登録は終了します。

2. セットモード()にして、DIALツマミで『30 : INT MD』にあわせて を押します。

3. DIALツマミで、“FRG”を選びPTTスイッチを押します。

4. を押します。

ディスプレイの右上に“”が表示します。

5. ローカルのWiRES局の周波数にあわせます。

6. を押したままDIALツマミをまわすと、送出したいアクセスコードを選択することができるようになりますので、希望のチャンネル(“F0”～“F63”)を選択してください。



- ◎ チャンネルに名前を付けている場合は、「コード」と「名前」を交互に表示します。
- ◎  を押すと、周波数表示に戻ります。

7. PTTスイッチを押すと選択したアクセスコードが送出されますので、PTTスイッチを押したままマイクに向かって話します。

インターネットを介してWiRES局をアクセスすることができるので、あとは、一般的の交信と同様に行ないます。

8. 交信が終了したら、 を押したままDIALツマミをまわし、切断コード (#99999 または #9999D)を登録したメモリーを呼び出し、そのコードを送出します。

- ◎ 登録されているコードを、送信中に選択して送出することもできます。

1. 送信しながら  を押し、DIALツマミで希望のコードを選択します。
2. 再度  を押すと、選択したコードを送出します。

多彩なメモリー機能

VX-6には、通常のメモリーチャンネル(メモリーパン号1～900)の他に、

- **ホームチャンネル** 23 ページ
各周波数帯ごとに独立した、ワンタッチ呼び出し可能なメモリー
- **TV専用のプリセットメモリー** 28 ページ
各地域に合わせて受信できるチャンネルを選択できるメモリー
- **AM/FMラジオやTV放送、世界各地の主な放送などの周波数や放送局名が、あらかじめ登録されているプリセットメモリー** 29 ページ
- **鉄道無線のプリセットメモリー** 30 ページ
鉄道無線のチャンネルと周波数が、あらかじめ登録されているメモリー
- **特定小電力無線のプリセットメモリー** 32 ページ
特定小電力無線のチャンネルと周波数が、あらかじめ登録されているメモリー
- **ワイヤレスマイクバンドのプリセットメモリー** 33 ページ
主なワイヤレスマイクの周波数が、あらかじめ登録されているメモリー
- **スキップサーチメモリー** 34 ページ
受信したくない周波数を VFO スキャン中にスキップさせるメモリー
- **50組のプログラマブルメモリースキャン (PMS) 用メモリーチャンネル** 37 ページ

を搭載しております。

なお、通常のメモリーチャンネルとホームチャンネルおよびPMSメモリーチャンネルには、各チャンネルごとに個別に、運用周波数の他に、運用モード(電波型式)やその他の運用情報などのデータも同時にメモリーすることができます。

- **運用周波数**
- **運用モード**
- **メモリータグ**
- **レピータ情報**
- **トーン情報**
- **DCS 情報**
- **送信出力**
- **空線スケルチ情報**
- **ページャー情報**
- **メモリースキップ情報**

また、上記で紹介しましたメモリーを使用目的ごとのバンクに分けて整理することができます。VX-6では24種類のメモリーバンクに分けておくことができ、1つのメモリーバンクには最大100個のメモリーチャンネルを登録することができます(26ページ参照)。

メモリーに書き込む

よく使用する周波数を記憶させることができるメモリーチャンネルが 900 チャンネル(メモリー番号 1 ~ 900)あります。

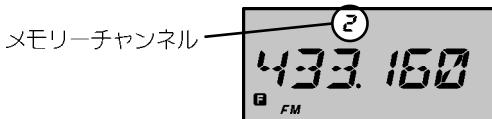
1. VFO モードで、記憶させたい周波数にあわせます。

2. **[M/W]** を 0.5 秒以上押します。

前回メモリーしたチャンネルの、次のチャンネル番号が点滅します。

◎ セットモード [38 : MW MD] により、何もメモリーされていない最も小さい番号のメモリーチャンネルが点滅するように変更することもできます(70 ページ参照)。

◎ すでにメモリーされているメモリーチャンネル番号は点滅しません。



3. 希望のメモリーチャンネルに書き込む場合は、DIAL ツマミをまわして希望するメモリーチャンネル番号を選択します。

4. **[M/W]** を押すと、メモリーに書き込まれます(もとの周波数表示に戻ります)。

◎ メモリーチャンネルが点滅中に PTT スイッチを押すか、何の操作もせずに約 5 秒間放置すると、書き込み操作を中止します。

◎ メモリーチャンネルを選択中に **[P/D/R]** を押すと、メモリーチャンネル番号の百の位を早送りすることができます。

◎ メモリーチャンネルを直接指定することができます。

希望のメモリーチャンネルをキーで入力し、続けて **[V/M]** を押します。

例: 123 チャンネルにメモリーしたいとき

[1] → **[2]** → **[3]** → **[V/M]**

◎ 同じメモリーチャンネルに、送受信別の周波数をメモリーすることができます(スプリットメモリー: 23 ページ参照)。

◎ メモリーチャンネルを、使用目的ごとのバンク(グループ)に分けて整理することができます(メモリー/バンクを使う: 26 ページ参照)。

メモリーを使う

注 意

メモリーした内容は、誤操作や静電気または電気的雑音を受けたときに消失する場合があります。また、故障や修理の際にも消失する場合がありますので、メモリーした内容は、必ず紙などに控えておくようにしてください。

メモリーを呼び出す

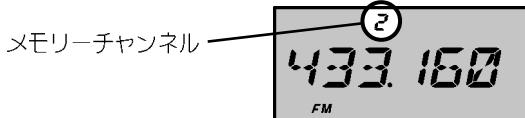
【V/M】を押してメモリーモードにし、DIAL ツマミで希望のメモリーチャンネルを選びます。

再度【V/M】を押すと、VFO モードに戻ることができます。

テンキーを使用して、指定のメモリーチャンネルを呼び出すこともできます。

例：メモリーチャンネル “123” を呼び出す場合

① → ② → ③ → 【V/M】



- ◎ メモリーモードのときに【F/w】に続けて【V/M】を押してからDIAL ツマミをまわすと、メモリーの内容を一時的に変更することができます（下記：メモリーチューン機能）。
- ◎ メモリーモードのときに【F/w】を押してDIAL ツマミをまわすと、登録されているメモリーチャンネルを10桁単位で変更することができます。
- ◎ メモリーに名前を付けたときには、周波数の変わりに名前を表示します。周波数を確認したいときは、モニタースイッチを押すことにより、一時的に周波数を確認することができます（スクルチが開きます）。
- ◎ セットモードの [39:NAME] を “FREQ” に切り換えると周波数表示にすることができます（70ページ参照）。
- ◎ メモリーモードだけで運用することができます（メモリーオンリーモード：59ページ参照）。

メモリーを消す

メモリーを使う

1. メモリーモードにします。
2. 【F/w】を0.5秒以上押した後、消したいメモリーチャンネルを選択します。
3. 【E】を押すと、メモリーが消去されます（メモリーチャンネル 1 が表示されます）。

- ◎ 消したメモリーチャンネルに周波数などを新たに書き込む前であれば、もう一度上記のメモリー消去の操作を行うことにより、消去した内容を復活できます。
- ◎ メモリーチャンネル 1 は消去できません。

メモリーチューン機能

呼び出したメモリーチャンネルの内容を一時的に変更することができます。

1. メモリーモードで、【F/w】に続けて【V/M】押すと、メモリーチューン機能が動作します。
ディスプレイに “tun” が表示されます。
2. DIAL ツマミ（またはキー）で、一時的に周波数を変更することができます。
3. 【V/M】を押すと、メモリーチューン機能が動作する前のチャンネルに戻ります。



- ◎ メモリーチューンのときに【F/w】を0.5秒以上押し、続けて【V/M】を押すと、呼び出しているメモリーチャンネルの周波数がVFOにコピーされ、VFOモードで運用することができます。
- ◎ メモリーチャンネル “901～999”，“EAI” では、動作しません。

ホームチャンネルを呼び出す

よく使用する周波数を記憶させることができ、ワンタッチで呼び出すことができる“ホームチャンネル”が、各バンドにそれぞれ1チャンネルずつ(合計12チャンネル)あります。

1. **[BAND]** を押して、運用したい周波数帯に切り替えます。

各周波数帯のホームチャンネルは下表を参照してください。

2. **[FM/RV]** を押します。

再び **[FM/RV]** を押すと、ホームチャンネルに移る前の周波数(またはメモリーチャンネル)に戻ります。

- ◎ ホームチャンネルを呼び出し中に、DIAL ツマミをまわす(またはキー)と、ホームチャンネルの周波数がVFOにコピーされ、VFOモードで運用することができます。

ホームチャンネル呼び出し中に点灯



周波数帯	周波数
144MHz	145.000MHz
V-VHF 放送帯2	175.750MHz
情報無線帯1	379.000MHz
430MHz	433.000MHz

周波数帯	周波数
TV-UHF 放送帯	481.750MHz
情報無線帯2	859.000MHz
中波帯	540kHz
短波帯	1.800MHz

周波数帯	周波数
60MHz帯	60.000MHz
FMラジオ放送帯	76.000MHz
TV-VHF 放送帯	95.750MHz
航空無線帯	108.000MHz

■ホームチャンネルの周波数を変える

1. VFOモードで、記憶させたい周波数にあわせます。

2. **[B_W]** を0.5秒以上押します。

3. **[FM/RV]** を押して終了です。

スプリットメモリー

同じメモリーチャンネルに送受信別の周波数を記憶させることができます。

1. VFOモードで、記憶させたい受信周波数にあわせます。

2. **[B_W]** を0.5秒以上押すと、空チャンネルが表示され点滅します。

- ◎ メモリーチャンネルが点滅中にPTTスイッチを押すか、何の操作もせず約5秒間放置すると、書き込み操作を中止します。
- ◎ DIALツマミ(またはキー)で、希望のメモリーチャンネルを選択することができます。
- ◎ メモリーチャンネルを選択中に**[DMR]**を押すと、メモリーチャンネル番号の百の位を早送りすることができます。

3. 希望のメモリーチャンネルに書き込む場合は、DIALツマミをまわして、希望するメモリーチャンネル番号を選択します。

4. **[B_W]** を押します。

5. 送信周波数をあわせます。

6. **[B_W]** を0.5秒以上押し、DIALツマミ(またはキー)で、受信周波数をメモリーしたチャンネルにあわせます。

7. PTTスイッチを押しながら**[B_W]**を押して終了です。

- ◎ スプリットメモリーチャンネルを呼び出したときは、ディスプレイに“■+■”が表示されます。
- ◎ **[B_W]** ➔ **[FM/RV]**と押すと、一時的に送信周波数と受信周波数を入れ換えるリバースが動作します。動作中はディスプレイの“■+■”が点滅します。解除するには、もう一度**[B_W]** ➔ **[FM/RV]**と押します。

メモリーチャンネルに名前を付ける

メモリーチャンネル、ホームチャンネル、スキップサーチメモリーチャンネルには、コールサインや放送局名などの名前(メモリータグ)をつけることができます(最大6文字)。

入力できる文字(文字種)は、英字、数字、記号があります。

1. 名前を付けたいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. セットモード([] → [])にして、DIAL ツマミで『40 : NM SET』にあわせて [] を押します。
3. DIAL ツマミをまわして、メモリーチャンネルに付けたい名前を表示させます。

使用できる文字・記号は、下表を参照してください。

- ◎ [] を押すとカーソルの位置を一字送ることができます。
- ◎ [] を押すとカーソルの位置を一字前に戻すことができます。

4. [] を押すと、次の桁の文字を選択することができます。
5. 操作3. ~4. を繰り返して、名前を入力します(最大6文字)。
6. PTTスイッチを押して終了です。

- ◎ メモリーに名前を付けたときには、周波数の変わりに名前を表示します。周波数を確認したいときは、モニタースイッチを押すことにより、一時的に周波数を確認することができます(スクルチが開きます)。
- ◎ セットモードの [39 : NAME] を “FREQ” に切り換えると周波数表示にすることができます(70ページ参照)。
- ◎ 文字を選択中に [] を押すと、表示されている文字(6文字)をコピーすることができます、 [] を押すとペースト(貼り付け)することができます。なお、コピーした文字は、電源をオフにするまで記憶しています。

メモリーチャンネルにつけることができる文字・記号														
R	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	
O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z		スペース	+
..	/	ア	シ	コ	レ	-	ア	ム	ア	ム	ウ	エ	ツ	
♪	♫	♪	%	♪	♪	*	*	,	!	：	、	□	■	
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	/	/	/	/	

ダイレクトメモリーコール(DMR)機能

ダイレクトメモリーコール(DMR)機能とは、車のラジオのような感覚で使用できる10個のメモリーで、**①**～**⑨**の「ボタン一つの操作」でお気に入りの周波数を呼び出すことができます。

なお、**①**～**⑨**には、あらかじめ下記の周波数が登録されています。

DMR チャンネル	周波数	DMR チャンネル	周波数
1	144.80MHz	6	439.00MHz
2	145.00MHz	7	540kHz
3	145.50MHz	8	7.00MHz
4	433.00MHz	9	76.00MHz
5	433.50MHz	0	120.00MHz

■**①**～**⑨**で周波数を呼び出す

1. **DMR** が表示されるまで **DMR** を押し続けます。
2. 呼び出したい周波数が登録されているキー (**①**～**⑨** のいずれか) を押します。

DMR を再び押し続けると、DMR機能を動作させる前の状態に戻ります。



◎ 呼出し後、周波数や各種の設定を一時的に変更することができます。

ただし、変更した状態は保存されません。

◎ DMR機能が動作中は、下記の機能やキーは動作しなくなります。

- ・メモリーに関する機能
- ・スキャンに関する機能
- ・ARTS機能
- ・チャンネルカウンター
- ・スマートサーチ
- ・盗聴器発見機能サーチ
- ・**BAND** / **FM/RV** / **V/M** のキー

メモリーを使う

■登録されている周波数を変える

1. 新たに登録したい周波数にあわせます。
2. 登録したいキー **①**～**⑨** を “DMR CH” が表示されるまで押し続けます。
3. “DMR CH” が表示されたら登録は終了です。

◎ セットモード [20 : DMR.WRT] により、登録されている周波数を変更できないようにすることができます (68ページ参照)。

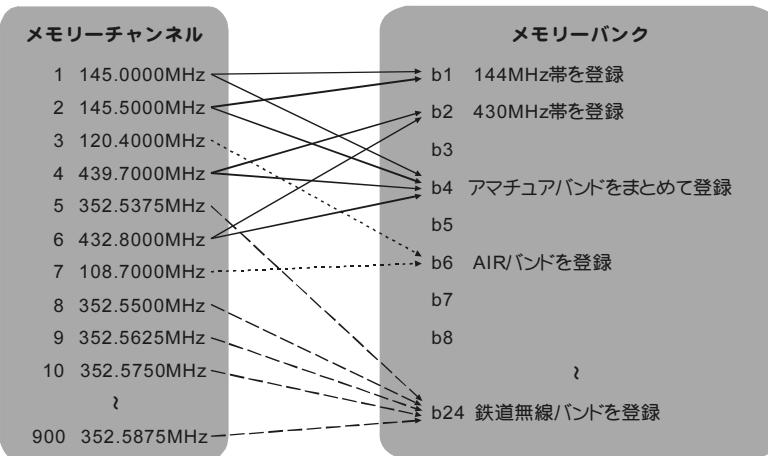
メモリーバンクを使う

メモリーチャンネルを、使用目的ごとのバンク(グループ)に分けて整理することができます。

メモリーバンクは24バンクあり、1つのメモリーバンクには、最大100チャンネルのメモリーチャンネルを登録することができます。

また、メモリーチャンネルを複数のメモリーバンクに登録することもできます。

メモリーバンクに登録したメモリーチャンネルを変更または更新すると、メモリーバンク内のメモリーチャンネルの内容も変更されます。



メモリーを使う

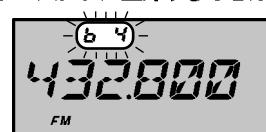
■メモリーバンクに登録する

1. 登録したいメモリーチャンネルを呼び出します。

メモリーチャンネル“901～999”“EAI”“L1～U50”は、メモリーバンクに登録することができません(MCHERRが表示されます)。

2. **[B/W]** を0.5秒以上押すと、メモリーチャンネル番号が点滅します。

3. DIAL ツマミをまわしてメモリーバンク(b1～b24)を選びます。同じメモリーバンクには登録することができません(REGBNKが表示されます)。



- ◎ メモリーバンク選択時は、「メモリーチャンネル」「スキップサーチメモリーチャンネル」「EAIメモリーチャンネル」「プログラマブルメモリーチャンネル」も表示されます。メモリーバンクは「プログラマブルメモリーチャンネル(L1/U1～L50/U50)」の次に表示されます。
- ◎ メモリーバンク選択中に、何の操作もせずに約5秒間放置すると、登録操作を解除します。
- ◎ メモリーバンク番号を直接指定することができます。
[B/W] を0.5秒以上押し、**[1] → [1]** に続けて希望のメモリーバンク番号を入力します。
例：メモリーバンク“16”を指定したいとき。
[B/W] を0.5秒以上押し、続けて**[1] → [1] → [1] → [6]** と押します。

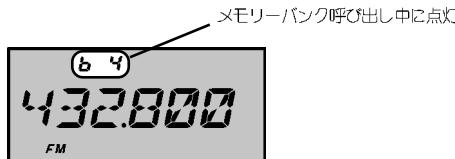
4. **[B/W]** を押します。

選んだメモリーバンクに、メモリーチャンネルが登録されます。

同じメモリーチャンネルを、他のメモリーバンクにも登録したい場合は、再び操作2.～3.を行ってください。

■メモリー/バンクを呼び出す

1. メモリーモードで **[BAND]** を押すと、現在のメモリー/バンクが呼び出されます。
2. **[BAND]** に続けて **[BAND]** を押します。
3. DIAL ツマミで、希望のメモリー/バンクを選びます。
4. **[BAND]** を押すと、選んだメモリー/バンクが呼び出されます。



- ◎呼び出したメモリー/バンクに登録されたメモリーチャンネルだけを、DIAL ツマミで選択することができます。
- ◎ **[BAND]** を押すと、通常のメモリーモードに戻ります。

■メモリー/バンクへの登録を解除する

1. 上記“メモリー/バンクを呼び出す”を参考に、登録を解除したいメモリーチャンネルが登録されているメモリー/バンクを呼び出します。
 2. DIAL ツマミで、登録を解除したいメモリーチャンネルを選びます。
 3. **[BAND]** を 0.5 秒以上押し、続けて **[BAND]** を押します。
- メモリー/バンクへの登録が解除され、操作 1. で呼び出したメモリー/バンクの状態に戻ります。なお、登録を解除したことにより、メモリー/バンクが“空”になる場合は、バンク番号の最も小さなメモリー/バンクに戻ります。

■メモリー/バンクに名前を付ける

メモリー/バンクにコールサインなどの名前を付けることができます（最大 6 文字）。

入力できる文字（文字種）は、英字、数字、記号があります。

1. セットモード（**[BAND]** → **[①]**）にして、DIAL ツマミで『10 : BNK NM』にあわせて **[①]** を押します。
 2. DIAL ツマミをまわして、名前を付けたいメモリー/バンクを表示させ **[MODE]** を押します。
 3. DIAL ツマミをまわして、メモリー/バンクに付けたい名前を表示させます。
- 使用できる文字・記号は、24 ページを参照してください。

- ◎ **[MODE]** を押すとカーソルの位置を一文字送ることができます。
- ◎ **[BAND]** を押すとカーソルの位置を一文字前に戻すことができます。

4. **[MODE]** を押すと、次の桁の文字を選択することができます。
5. 操作 3. ～4. を繰り返して、名前を入力します（最大 6 文字）。
6. PTT を押すと終了します。

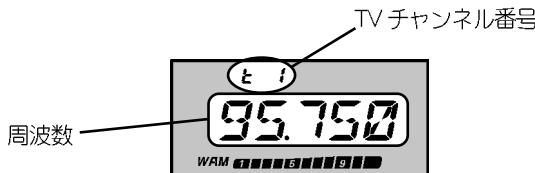
スペシャル/パンクにプリセットされたTV専用メモリーでTV放送を聞く

TV専用のスペシャル/パンクを呼び出すとTV放送の音声を簡単な操作で聞くことができます。ディスプレイにはTV放送の周波数とチャンネルが同時に表示されますので簡単に選択できます。また、現在いる場所で受信できるTV放送だけを自動的にスキャンし、選択することができます。

TV放送の受信について

本機で受信できるテレビ放送(音声)は、アナログテレビ放送の音声で、デジタル放送の音声を聞くことはできません。

アナログテレビ放送は2011年7月24日に終了しましたのでテレビ音声を聞くことはできません。



■ TV放送をチャンネル番号で選択する

1. **[F/W]** を押した後に **[9]** を押します。

スペシャルパンクになります。

2. **[BAND]** を数回押して「TV CH」を選択します。

選択後プリセットされているTVチャンネル番号と周波数を表示します。

3. DIAL ツマミをまわし、聴きたいTVチャンネルを選択します。

4. TV放送の受信を終了するときには、**[9]** を押します。

メモリーを使う

■ 現在いる場所で受信できるTVチャンネルを選択する

次の操作を行うと、現在いる場所で受信できるTV放送だけを選択できるようになります。

1. **[F/W]** を押した後に **[9]** を押します。

スペシャルパンクになります。

2. **[BAND]** を数回押して「TV CH」を選択します。

3. **[BAND]** を1秒以上押して「TV CH」が表示されたら **[BAND]** を離します。

TV放送のすべてのチャンネルをスキャンした後自動的にスキャンは停止し、受信信号のなかったチャンネルは表示しないように設定されます。

- ◎ 全チャンネルを受信できる状態(工場出荷時と同じ状態)に戻すには、モニタースイッチを押しながら、操作3. を行ってください(スキャンが終わるまで、モニタースイッチは押し続けてください)。
- ◎ 放送のないチャンネルが表示される場合は、スクルチレベル(16ページ参照)を上げてからもう一度上記の操作を行ってください。
- ◎ 受信する地域が変わった場合は、上記の操作を繰り返して設定しなおしてください。
- ◎ TV放送のチャンネルを選択しているときに、**[F/W]** を1秒以上押した後 **[9]** を押すと、そのチャンネルを表示しない(受信しない)ようにすることができます。また、チャンネルを復活させる場合は、**[F/W]** を1秒以上押した後、DIAL ツマミで復活させたいTVチャンネルにあわせ、**[9]** を押してください。
- ◎ よく聞くTV放送局をメモリー/パンクに登録することができます(メモリー/パンクに登録する:26ページ参照)。

スペシャルバンクにプリセットされた世界各地の放送、AM/FMラジオ、TV放送を聞く

放送局専用のスペシャルバンクでは、世界各地の主な放送、AM/FMラジオ放送、TV放送を聞くことができます（合計273チャンネル）。

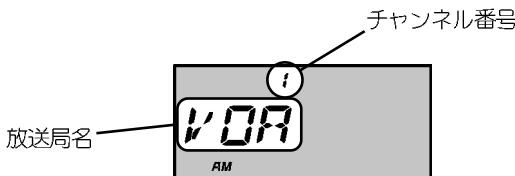
よく聞く放送局をメモリーバンクに登録することができ、周波数だけでなく放送局名も同時に登録されます。

スペシャルバンクに登録されている周波数は、“プリセットされている放送局周波数一覧表”を参照してください（78ページ参照）。

TV放送の受信について

本機で受信できるテレビ放送（音声）は、アナログテレビ放送の音声で、デジタル放送の音声を聞くことはできません。

アナログテレビ放送は2011年7月24日に終了しましたのでテレビ音声を聞くことはできません。



■ 聴きたい放送局を選択する

1. **[W]**を押した後に**[9]**を押します。

スペシャルバンクになります。

2. **[BAND]**を数回押して「RADIO」を選択します。

選択後、登録されている放送局のリストチャンネルと放送局名を表示します。

◎ 放送局名が表示されているときにモニタースイッチを押すことにより、一時的に周波数を確認することができます（スケルチが開きます）。

3. DIALツマミをまわして聞きたい放送局を選択します。

4. 放送局の受信を中止するときは、**[9]**を押します。

◎ スペシャルバンクは他の周波数のデータに書き換えることはできません。

◎ **[BAND]**を1秒以上押して離すと、スペシャルバンクに登録されている放送局のチャンネルをスキャンします。

スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。

セットモード [49:RESUME] により、スキャンが停止したときの動作を設定することができます（72ページ参照）

◎ 本機はAM用のバーアンテナを内蔵していませんので、ラジオ放送のバンドを受信するときは、市販の外部アンテナの取り付けをおすすめします。

◎ 受信する時間帯や電波の状態が悪いときは、受信できない場合があります。

◎ 各放送局は78ページに示す一覧表以外にも受信できる周波数があります。詳しくは市販されている周波数帳などを参考にしてください。

◎ よく聞く放送局をメモリーバンクに登録することができます（メモリーバンクに登録する：26ページ参照）。

スペシャルバンクにプリセットされた鉄道無線を聴く

主要なJR鉄道無線のチャンネルがあらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。よく聴くJR鉄道無線のチャンネルをメモリーバンクに登録することができます。また、2280Hzの空線信号の音を消して、待ち受け受信することができます。

デジタル通信に移行している地域では、受信することができません。



■ JR鉄道無線のチャンネルを選ぶ

1. **[W]** を押した後に **[9]** を押します。
スペシャルバンクになります。
2. **[BAND]** を数回押して「JR CH」を選択します。
3. DIAL ツマミをまわして希望のJR鉄道無線の周波数を選択します(下表参照)。
4. 鉄道無線の受信を中止するときは、**[9]** を押します。

チャンネル	周波数(MHz)	チャンネル	周波数(MHz)	チャンネル	周波数(MHz)	チャンネル	周波数(MHz)
1	352.5375	5	352.5625	9	352.5875	13	352.6125
2	336.0375	6	336.0625	10	336.0875	14	336.1125
3	352.5500	7	352.5750	11	352.6000	15	352.6250
4	336.0500	8	336.0750	12	336.1000	16	336.1250

- ◎ スペシャルバンクは、他の周波数のデータに書き換えることはできません。
- ◎ **[BAND]** を1秒以上押して離すとスペシャルバンクに登録されているJR鉄道無線のチャンネルをスキヤンします。
スキヤン中に信号を受信するとスキヤンは5秒間停止し、その周波数を受信します。
セットモード [49:RESUME] により、スキヤンが停止したときの動作を設定することができます(72ページ参照)。
- ◎ よく聴くJR鉄道無線をメモリーバンクに登録することができます(メモリーバンクに登録する:26ページ参照)。

△ 注意 △

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と定められています。

他人の会話を聞いて、これを漏らしたり窃用することは法律で禁止されていますのでご注意ください。

■ JRの空線信号音を消す(空線スケルチ機能)

通話が行なわれていないときに聴こえる、「ピー」という2280Hzの空線信号音を消すことができます。

1. スペシャルパンクにより、聴きたいJR鉄道無線の周波数を選択します。

2. セットモード( )にします。

3. DIALツマミをまわして『73:TR SQL』を選択してを押します。

4. DIALツマミをまわして『JR FRQ』を選択します。

5. PTTスイッチを押して確定させます。

ディスプレイの右上に“”が点灯します。

空線スケルチを解除するには、上記の操作を繰り返し、操作4.

で“OFF”を選択してPTTスイッチを押します。



◎ 2280Hzの空線信号を受信すると、スケルチが動作し空線信号音を消します。

また、2280Hzの空線信号がなくなるとスケルチが解除されます。

◎ トーンスケルチ/DCS機能が動作中は、トーンスケルチ/DCS機能が優先されるため、空線スケルチ機能は動作しません。

◎ 信号が弱いときやノイズが多いときなどは、動作しないことがあります。

■ JR以外の空線信号音を消す(可変型空線スケルチ機能)

300Hz～3000Hzの空線スケルチの周波数を100Hzステップで設定することができます。

1. VFOモードまたはメモリーモードにより、聴きたい鉄道無線の周波数を選択します。

2. セットモード( )にします。

3. DIALツマミをまわして『73:TR SQL』を選択してを押します。

4. DIALツマミをまわして『PR FRQ』を選択してを押します。

5. DIALツマミをまわして空線信号が消える周波数に選択します。

300Hz～3000Hzの空線スケルチの周波数を100Hzステップで設定することができます(工場出荷時:1600Hz)。

6. PTTスイッチを押して確定させます。

ディスプレイの右上に“”が点灯します。

空線スケルチを解除するには、上記の操作を繰り返し、操作4.

で“OFF”を選択してPTTスイッチを押します。



◎ 設定した周波数の空線信号を受信すると、スケルチが動作し空線信号音を消します。

また、設定した周波数の空線信号がなくなるとスケルチが解除されます。

◎ トーンスケルチ/DCS機能が動作中は、トーンスケルチ/DCS機能が優先されるため、空線スケルチ機能は動作しません。

◎ 信号が弱いときやノイズが多いときなどは、動作しないことがあります。

スペシャルバンクにプリセットされた特定小電力無線を聞く

特定小電力トランシーバーで使われている周波数が、あらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。



1. **[W]** を押した後に **[9]** を押します。

スペシャルバンクになります。

2. **[BAND]** を数回押して「UHF CB」を選択します。

3. DIAL ツマミをまわして希望のチャンネルを選択します(下表参照)。

◎ 「COM-XX」のチャンネルは、主に業務用として使用されており、「REG-XX」のチャンネルは、主にレジャー用として使用されています。

4. 特定小電力トランシーバーの受信を中止するときは、**[9]** を押します。

チャンネル	周波数(MHz)	チャンネル	周波数(MHz)	チャンネル	周波数(MHz)	チャンネル	周波数(MHz)
COM-1	422.0500	COM-6	422.1125	COM-11	422.1750	REG-5	422.2500
COM-2	422.0625	COM-7	422.1250	REG-1	422.2000	REG-6	422.2625
COM-3	422.0750	COM-8	422.1375	REG-2	422.2125	REG-7	422.2750
COM-4	422.0875	COM-9	422.1500	REG-3	422.2250	REG-8	422.2875
COM-5	422.1000	COM-10	422.1625	REG-4	422.2375	REG-9	422.3000

- ◎ チャンネルが表示されているときにモニタースイッチを押すことにより、一時的に周波数を確認することができます(スケルチが開きます)。
◎ 希望のチャンネルをメモリー/バンクに登録することができます(メモリー/バンクに登録する: 26 ページ参照)。

⚠ 注意 ⚠

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と定められています。

他人の会話を聞いて、これを漏らしたり窃用することは法律で禁止されていますのでご注意ください。

スペシャルバンクにプリセットされたワイヤレスマイクを聞く

主要なワイヤレスマイクロホンで使われている周波数が、あらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。

1. **[W]** を押した後に **[9]** を押します。

スペシャルバンクになります。

2. **[BAND]** を数回押して「WLM-AB」または「WLM-C」を選択します。

3. DIAL ツマミをまわして希望の周波数を選択します。

- ◎ 「WLM-AB」には、779.125MHz～809.750MHzの周波数を125kHzステップで172チャンネル、「WLM-C」には、322.025MHz～322.400MHzの周波数を25kHzステップで13チャンネル登録されています。
- ◎ 付属のアンテナは、144MHz帯と430MHz帯での使用を前提に調節されており、さらにワイヤレスマイクの電波は非常に弱いため、距離や周りの状況などにより、良好に受信できない場合があります。
良好に受信できない場合は、上記の周波数に対応した市販のアンテナを使用してください。

4. ワイヤレスマイクロホンの受信を中止するときは、**[9]** を押します。

- ◎ 希望の周波数をメモリーバンクに登録することができます（メモリーバンクに登録する：26ページ参照）。

⚠ 注意 ⚠

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と定められています。

他人の会話を聞いて、これを漏らしたり窃用することは法律で禁止されていますのでご注意ください。

スキャン操作

VFOスキャン

VFOモードで信号がある周波数を自動的に探します。

1.  を0.5秒以上押し続けます。
2.  を押したままの状態で、DIALツマミで希望のスキャン動作を選びます(下表参照)。

表示	動作
± 1MHz	スキャンを開始した周波数を中心に、上下1MHzの範囲(合計2MHzの範囲)をスキャンします。
± 2MHz	スキャンを開始した周波数を中心に、上下2MHzの範囲(合計4MHzの範囲)をスキャンします。
± 5MHz	スキャンを開始した周波数を中心に、上下5MHzの範囲(合計10MHzの範囲)をスキャンします。
BAND	スキャンを開始した時の周波数帯だけをスキャンします。
ALL	全ての周波数帯をスキャンします。
PMS*	“PMS(37ページ)”が登録されている場合は、そのPMSに登録された周波数間をスキャンします(スキャン終了後は  を押して、PMS動作を解除してください)。

* PMSメモリーチャンネルのLxxに名前をついている場合は、その名前が表示されます(37ページ参照)。

3.  を離すと、選択された条件でスキャンを開始します。
4.  またはPTTスイッチ押すと、スキャンを中止します。

- ◎ スキャン中にDIALツマミを左(右)方向にまわすと、周波数の低(高)い方にスキャンします。
- ◎ スキャン停止中は、ディスプレイのデジタルポイントが点滅します。
- ◎ セットモード【49:RESUME】により、スキャンが一時停止後、再びスキャンが開始する条件を設定することができます(72ページ参照)。

■スキャンしたくない周波数をスキップする

スキャンしたくない周波数をあらかじめ指定しておくことで、スキャン中にその周波数はスキャンしない(受信しない)ようにすることができます。この指定をする専用のメモリーを“スキップサーチメモリー”といい、99チャンネル(メモリーパン号901～999)あります。

1. スキャンしたくない周波数にあわせます。
2.  を0.5秒以上押し、DIALツマミをまわして希望するスキップサーチメモリーチャンネル番号(901～999)を選択します。
3.  を押すと、スキップサーチメモリーに書き込まれます(もとの周波数表示に戻ります)。

- ◎ スキップサーチメモリーチャンネル番号を選択中にを押すと、メモリーチャンネル番号の百の位を早送りすることができます。
- ◎ スキップサーチメモリーチャンネル番号を直接指定することができます。
希望のメモリーチャンネルをキーで入力し、続けてを押します。
例: 916チャンネルにメモリーしたいとき

- ◎ スキャン中に、受信したくない周波数を設定することができます。
 1. VFOスキャンを開始します。
 2. 受信したくない周波数でスキャンが停止したら、を0.5秒以上押します。
何も書き込まれていない最も小さい番号のスキップサーチメモリーチャンネルが点滅します。
DIALツマミをまわすと、スキップサーチメモリーチャンネルを指定することができます。
 3. を押します。
スキップサーチメモリーへの書き込みが完了します。

メモリースキャン

メモリー モードで信号があるメモリー チャンネルを自動的に探します。

- 1. [BAND] を 0.5 秒以上押し続けます。**
- 2. [BAND] を押したままの状態で、DIAL ツマミで希望のスキャン動作を選びます (下表参照)。**

表示	動作
TRG1	名前を付けたメモリー チャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1 文字目に同じ文字を使用しているメモリー チャンネルだけをスキャンします。
TRG2	名前を付けたメモリー チャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1 文字目と 2 文字目に同じ文字を使用しているメモリー チャンネルだけをスキャンします。
BAND	スキャンを開始した時の周波数帯だけをスキャンします。
ALL CH	全てのメモリー チャンネルをスキャンします (901 ~ 999, EAI, L1 ~ U50 を除く)。
PMS*	“PMS (37 ページ)” が登録されている場合は、その PMS に登録された周波数間をスキャンします (スキャン終了後は [W] を押して、PMS 動作を解除してください)。

* PMS メモリー チャンネルの Lxx に名前をついている場合は、その名前が表示されます (37 ページ参照)。

- 3. [BAND] を離すと、選択された条件でスキャンを開始します。**
- 4. [BAND] または PTT スイッチ押すと、スキャンを中止します。**

- ◎ スキャン中に DIAL ツマミを左(右)方向にまわすと、メモリー チャンネルの低(高)い方にスキャンします。
- ◎ スキャン停止中は、ディスプレイのデシマルポイントが点滅します。
- ◎ セットモード [49 : RESUME] により、スキャンが一時停止後、再びスキャンが開始する条件を設定することができます (72 ページ参照)。
- ◎ メモリー チャンネル “901 ~ 999”, “EAI”, “L1 ~ L50”, “U1 ~ U50” からスキャンを開始することはできません (MCHEER が表示されます)

■スキャンスキップ設定

スキャンしたくないメモリー チャンネルを指定することができます。

- 1. スキャンしたくないメモリー チャンネルを呼び出します。**
- 2. [W] に続けて [5] を押します。**
メモリー チャンネル番号の左に “▶” が表示されます。



- ◎ スキップ指定を解除するには、[W] → [5] → [W] → [5] と押してください (“▶” 表示を消す)。
- ◎ スキャン中にスキャンしたくないメモリー チャンネルでスキャンが停止した場合も、[W] → [5] の操作で指定することができます。
- ◎ セットモード [57 : SKIP] でも設定することができます (73 ページ参照)。

■指定メモリースキャン設定

スキャンしたいメモリー チャンネルだけをスキャンすることができます。

- 1. スキャンしたいメモリー チャンネルを呼び出します。**
- 2. [W] → [5] → [W] → [5] と押します。**
メモリー チャンネル番号の左に “▶” が点滅します。
- 3. スキャンしたいメモリー チャンネルのいずれかを呼び出してからスキャンをスタートさせると、指定したメモリー チャンネルだけをスキャンします。**



- ◎ 指定を解除するには、[W] に続けて [5] を押してください (“▶” 表示を消す)。
- ◎ スキャン中にスキャンしたいメモリー チャンネルでスキャンが停止した場合も、[W] → [5] → [W] → [5] と押すことにより、指定することができます。
- ◎ メモリー チャンネル “901 ~ 999”, “EAI”, “L1 ~ L50”, “U1 ~ U50” をスキャンすることはできません。
- ◎ セットモード [57 : SKIP] でも設定することができます (73 ページ参照)。

メモリー/バンクスキャン

呼び出したメモリー/バンクに登録されているメモリーだけをスキャンします。

1. メモリーモードで **BAND** を押し、メモリー/バンクを呼び出します。
2. **[F/W]** に続けて **BAND** を押し、DIAL ツマミでスキャンしたいメモリー/バンクを選び **BAND** を押します。
3. **BAND** を 0.5 秒以上押し、押したままの状態で、DIAL ツマミで希望のスキャン動作を選びます（下表参照）。

表示	動作
TRG 1	選択したメモリー/バンク内にある、名前を付けたメモリーチャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1 文字目と同じ文字を使用しているメモリーチャンネルだけをスキャンします。
TRG 2	選択したメモリー/バンク内にある、名前を付けたメモリーチャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1 文字目と 2 文字目同じ文字を使用しているメモリーチャンネルだけをスキャンします。
BAND	選択したメモリー/バンク内の、スキャンを開始した時の周波数帯だけをスキャンします。
ALL CH	選択したメモリー/バンク内にある、全てのメモリーチャンネルをスキャンします。
PMS*	“PMS(37 ページ)” が登録されている場合は、その PMS に登録された周波数帯をスキャンします（スキャン終了後は V/M を押して、PMS 動作を解除してください）。

* PMS メモリーチャンネルの Lxx に名前をついている場合は、その名前が表示されます（37 ページ参照）。

4. **BAND** を離すと、選択された条件でスキャンを開始します。
5. **BAND** を押すと、スキャンを中止します。

PTT スイッチを押してもスキャンを中止することができます。

■メモリー/バンクリンクスキャン

通常は、呼び出したメモリー/バンクに登録されているメモリーチャンネルだけをスキャンしますが、続けて他のメモリー/バンクをスキャンすることもできます。

ス
キ
ヤ
ン
操
作

1. メモリーモードで **BAND** を押し、メモリー/バンクを呼び出します。
2. **[F/W]** に続けて **BAND** を押し、DIAL ツマミでスキャンしたいメモリー/バンクを選び **V/M** を押します。
メモリー/バンク番号の左側に “▶” が点滅します。
3. DIAL ツマミで、スキャンしたい他のメモリー/バンクを選び **V/M** を押します。
4. 操作 3. を繰り返し、スキャンしたいメモリー/バンクを指定して **BAND** を押します。
5. **BAND** を 0.5 秒以上押し、押したままの状態で、DIAL ツマミで希望のスキャン動作を選びます（上表参照）。
6. **BAND** を離すと、選択された条件でスキャンを開始します。
7. **BAND** を押すと、スキャンを中止します。

PTT スイッチを押してもスキャンを中止することができます。



プログラマブルメモリースキヤン(PMS)

希望する周波数間だけをスキヤンすることができます。

- 希望の下限周波数を **L*** (1 ~ 50) に、上限周波数を **U*** (Lと同じ数字) にメモリーします (21 ページ参照)。

◎ 上限周波数と下限周波数は、必ず同じバンド内の周波数を同じ周波数ステップでメモリーしてください。

- 操作 1. でメモリーしたチャンネル (L1 ~ L50/U1 ~ U50 のいずれか) を呼び出します。

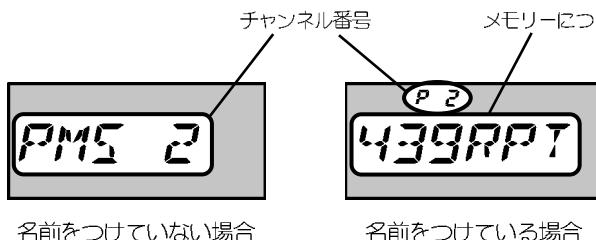
- BAND** に続けて **VFO** を押します。

メモリーチャンネル番号部の “Lxx/Uxx” が “Pxx” に変わります。

◎ **BAND** を押すたびに、登録されている全てのPMSチャンネルの下限周波数を確認することができます。

- BAND** を 0.5 秒以上押し、DIAL ツマミでスキヤンを行いたい PMS チャンネルを選択します。

PMS チャンネルの Lxx に名前をついている場合は、その名前が表示されます。



- BAND** を離すとスキヤンを開始します。

スキヤン中に **BAND** を押すと、プログラマブルメモリースキヤンが停止し、メモリーチューンの状態 (PMS 設定の下限周波数～上限周波数間) になります。

VFO を押すとメモリーチューンは解除され、メモリーモードに戻り、メモリーチャンネル番号部の “Pxx” が “Lxx/Uxx” に変わります。

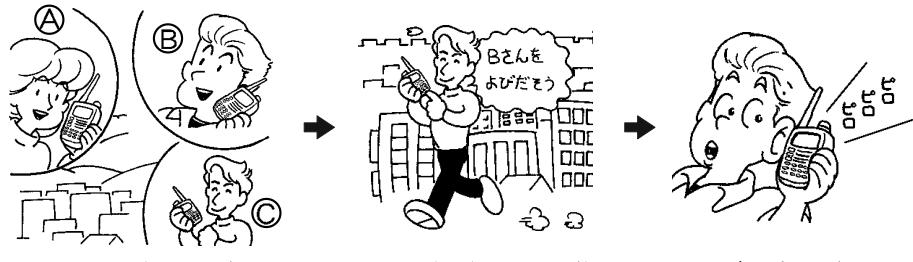
- ◎ セットモード [49 : RESUME] により、スキヤンが一時停止後、再びスキヤンが開始する条件を設定することができます (72 ページ参照)。
- ◎ すでに L1/U1 ~ L50/U50 にメモリーされている場合は、VFO モード時に **BAND** を 0.5 秒以上押し、DIAL ツマミで希望の PMS チャンネルを選択することにより、上記の 1. ~ 3. の操作をショートカットして簡単に PMS スキヤンを行うことができます。

各種の便利な機能

新ページャー機能

仲間同士で運用時、それぞれ個別コード(2つのCTCSSトーンを使用したコード)を設定することにより、特定の局だけを呼び出しがすることができます。

なお、呼び出された局は、呼び出しがあったときに無線機から離れていたとしても、ディスプレイの表示などで、呼び出しがあったことを知ることもできます。



■自局のコードを設定する

自分が呼び出されるときの「個別コード(自分のコード)」を設定します。

1. セットモード(**FW** → **0**)にして、DIAL ツマミで、『45 : PAG.CDR』にあわせます。
2. **0**を押した後DIAL ツマミをまわして、1つ目のコード(01～50から選択)をあわせます。
3. **MODE**を押した後(**番**が移動します)、DIAL ツマミをまわして、2つ目のコード(01～50から選択)をあわせます。
1つ目と同じコードに設定することはできません。



- ◎工場出荷時は、“05 47”が設定されています。
- ◎2つのコードは、“05 47”と“47 05”的ように、順番が違っていても同じコードとみなします。
- ◎仲間同士が全員同じコードを設定すると“グループコード”として、グループ全員を一齊に呼び出すことができます。

4. PTTスイッチを押すと、設定は終了です。

■新ページャー機能を動作させる

ディスプレイに“**T**”“**T SQ**”“**DCS**”のいずれかが点灯または点滅しているとき(トーン機能・DCS機能が動作中)は、次の操作を行い、これらの表示を消して(動作を止めて)ください。

1. **FW**を押して、続けて**MODE**を押します。
2. DIAL ツマミで“OFF”にあわせて、PTTスイッチを押します。

■**FW**に続けて**7**を押します。

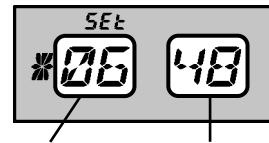
この状態で、新ページャー機能を使用した“呼び出し”や“待ち受け”を行うことができます。

なお、セットモード『43 : PAGER』でも、新ページャー機能をオンオフすることができます(71ページ参照)。



■特定の局を呼び出す

1. **[B.W]** に続けて **[7]** を押して、新ページー機能を動作させます。
2. **[B.W]** に続けて **[2]** を押します。
3. DIAL ツマミをまわして、呼び出したい相手局の 1 つ目のコード (01 ~ 50 から選択) にあわせます。
4. **[MODE]** を押した後 (端末が移動します)、DIAL ツマミをまわして、2 つ目のコード (01 ~ 50 から選択) にあわせます。
5. PTT スイッチを押すと、コードが確定します。
6. この状態で PTT スイッチを押すと、目的の相手局を呼び出すことができます。



◎ あらかじめ、セットモード [46 : PAG.CDT] で、相手局のコード設定しておくことができます (71 ページ参照)。

■待ち受け時の動作

ディスプレイの表示とベル音で、呼び出されたことを確認することができます。



1. セットモード (**[B.W]** → **[0]**) にして、DIAL ツマミで **『8 : BELL』** にあわせます。
2. **[0]** を押した後、DIAL ツマミで呼び出されたときの動作を選択します。

表示	動作
1	“PAGING”が点滅すると共に、ベルが「1回」鳴ります。
3	“PAGING”が点滅すると共に、ベルが「3回」鳴ります。
5	“PAGING”が点滅すると共に、ベルが「5回」鳴ります。
8	“PAGING”が点滅すると共に、ベルが「8回」鳴ります。
CONT	“PAGING”が点滅すると共に、ベルが鳴り続けます (トランシーバーの操作を行うと停止します)。
OFF	“PAGING”の点滅やベル音は動作しません。

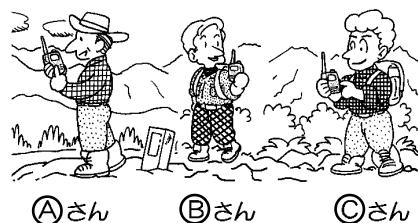
3. PTT スイッチを押すと、設定は終了です。
4. この状態で呼び出しを受けると、操作 2. で設定した動作を行います。

◎ セットモード [44 : PAG.ABK] の設定を “ON” にすると、呼び出しを受けた際、自動的に送信 (約 2.5 秒間) 状態になりますので、交信可能な状態かどうかを、相手に知らせることができます (71 ページ参照)。

EAI機能（エマージェンシーオートマチック ID）

仲間との登山やハイキングの時、不慮の事故で自分の意識が無くなったり、動けなくなったりした場合などに、自分の行方を仲間に探索してもらうための機能です。

各自が、個別にコードを登録することをおすすめしますが、工場出荷時の状態のまま、簡単にEAI機能を使用することもできます。



Ⓐさん

Ⓑさん

Ⓒさん

工場出荷時の状態のまま、
簡単に運用する場合

基本的な運用方法

3人共、個別コードを設定する。

EAI機能をオンにします。
(**FW**) → **0** → “23:EAI”を選ぶ → **0** → “ON”にする → PTTを押す。)
その後は、EAI周波数(433.300MHz)以外の周波数で通常の交信を行う。



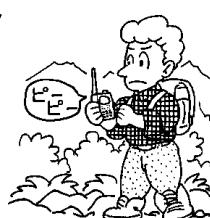
Ⓑさんが事故！

AさんまたはCさんは、**FW** → **8**と押し
(EAIメモリーの呼び出し)5秒以上送信

※工場出荷時の状態は、全員が同じコードに設定されていますので、全員の無線機が反応してしまいます。送信する人以外は、EAI機能をオフにしてください。

AさんまたはCさんは、**FW** → **8**と押し
(EAIメモリーの呼び出し)コードをBさんの個別コードにあわせて5秒以上送信

信号を受信すると自動的に“ピー”音を5分間(変更可能)
間欠送信





この機能は、不慮の事故が発生した際に、捜索活動を補助するための機能です。

この機能を使用しても、必ずしも発見に至るとは限りません。

また、相手が電波の届かない場所にいる場合、本機能は動作いたしません。

なお、本機能を使用して生じたトラブルについては、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

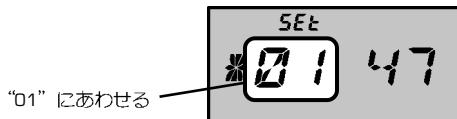
■個別コードを設定する

EAI機能時に使用する“個別コード”を仲間同士で決めておき、各個人毎に設定します。

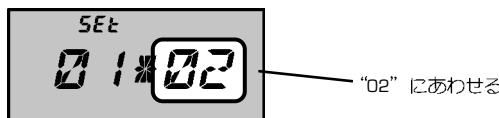
(例:Aさんは“01 02”, Bさんは“03 04”, Cさんは“05 06”など)

◎工場出荷時は、あらかじめ“05 47”が設定されていますので、簡単にEAI機能を使用したい場合は、個別コードを設定する必要はありません。

1. セットモード(**■W** → **0**)にして、DIAL ツマミで『45:PAG.CDR』にあわせます。
2. **0**を押した後、DIAL ツマミをまわして、1つ目のコード(Aさんの場合は“01”)にあわせます。



3. **MODE**を押した後(棒が移動します)、DIAL ツマミで2つ目のコード(Aさんの場合は“02”)にあわせます。



4. PTTスイッチを押すと、設定は終了です。

◎“01 01”的ように、同じコードを設定することはできません。
◎“01 02”と“02 01”などの場合、順番が違っていても、同じコードとみなします。

■EAI用周波数を変更する

EAI機能を動作させるためのメモリーチャンネル“EAI”には、あらかじめ433.300MHzがメモリーされていますが、この周波数を変更することができます。

1. 希望の周波数にあわせます。

2. **■W**を0.5秒以上押し、DIAL ツマミで“EAI”にあわせます。

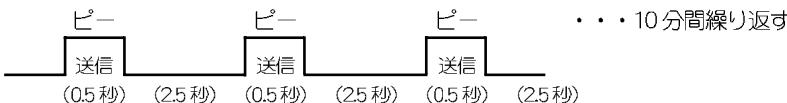
DIAL ツマミの代わりに **1** → **0** → **0** → **0** と押すと、直接“EAI”を呼び出すことができます。

3. **■W**を押すと周波数が変更されます。

◎仲間全員が、メモリーチャンネル“EAI”を同じ周波数に設定しないと、EAI機能は動作しません。

■ EAI機能を動作させる

1. セットモード (**[Fw]** → **[①]**)にして、DIAL ツマミで『24 : EAI.TMR』にあわせます。
2. **[①]** を押した後、DIAL ツマミで“EAI機能動作時の間欠送信時間”をあわせます。
例：“INT.10M”にあわせた場合は、EAI機能が動作すると「10分間」ビープ音を間欠的に送信し続けます。



3. PTTスイッチを押して、確定します。

4. セットモード (**[Fw]** → **[①]**)にして、DIAL ツマミで『23 : EAI』にあわせ **[①]** を押します。
5. DIAL ツマミで“ON”にあわせて PTTスイッチを押します。

ディスプレイに “” が点灯し、EAI機能が動作します。

以下の機能が動作しているときには、EAI機能は動作しません。EAI機能を動作させる場合は、これらの機能を“オフ”にしてください。

また、放送などの信号を受信している時、が点滅している時は、EAI機能は動作していません。

・スキャン関連 ・スマートサーチ機能 ・ARTS機能 ・プライオリティ機能

- ◎ EAI機能が動作中は、VX-6が自動的に“EAI用周波数”を監視(受信)しますので、特別な操作などは必要ありません。EAI機能が動作中も、“EAI用周波数”以外の周波数で、通常と同じ交信を行うことができます。
- ◎ 1分経過毎に、CWでコールサインなどのID(CWD)を送出することができます(60ページ参照)。

■ EAI機能で探索を行う

- ◎ 工場出荷時の状態でEAI機能を動作させる場合は、2. と3. の操作は必要ありません。

例：目的の相手のコードが“03 04”的場合。

1. **[Fw]** を押した後 **[⑧]** を押します。
メモリーチャンネル“EAI”が呼び出されます。
再度 **[Fw]** → **[⑧]** と押すと、元の状態に戻ります。
2. **[Fw]** を押した後 **[②]** を押します。
3. 目的の相手局のコード“03 04”にあわせます。
手順は、DIAL ツマミで“03”にあわせる → **[MODE]** → DIAL ツマミで“04”にあわせて、最後に **[②]** を押すと、コードが確定します。
4. PTTスイッチを押して5秒以上送信状態にし、その後受信状態にします。
※相手がウェイクアップ機能を動作させている場合は、探索時に必要な送信時間が異なります(49ページ参照)。
5. 相手がこちらの信号を受信した場合、自動的に“LOW2”パワーで送信状態(“ビー”音を間欠送信、マイク回路はオフになります)になりますので、その信号を手がかりに、探索(信号が強くなる方に向う)を行います。

- ◎ **[BAND]** を押すたびに、下記のようにアッテネーター(受信感度を下げる回路)が動作しますので、相手との距離が近づいた時には、アッテネーターを動作させることにより、探索しやすくなる場合があります。

→ RTT 1 → RTT 2 → RTTOFF → RTT 1 →
(10dB) (50dB) (OFF) (10dB)

スマートサーチ機能 -信号が入感する周波数を探して記憶する-

選択したバンド内をサーチし、信号を受信した周波数を一時的なメモリー（スマートメモリー）に書き込みます。スマートメモリーはメモリーチャンネルとは別に31個あり、スマートサーチを開始した周波数よりも高い側／低い側用に各15個ずつ使用されます。また、1個はスマートサーチを開始した周波数です。

1. VFOモードでスタートさせたい周波数にあわせます。
2. **[MODE]** を押したまま、DIAL ツマミで “S SRCH” を選択します。
3. **[BAND]** を0.5秒以上押し、ディスプレイに “S SRCH” が表示されてから **[BAND]** を離すと、スマートサーチがスタートします。
スマートサーチが終了すると、スマートサーチをスタートした周波数を表示します。
4. スマートサーチが終了後、DIAL ツマミで、スマートメモリーにメモリーした周波数を呼び出すことができます。
スマートサーチ機能を終了するときは、**[MODE]** を押します。
スタートした周波数に戻ります。

- ◎ スマートメモリーの周波数を、メモリーチャンネルに書き込むことができます（メモリーに書き込む：21ページ参照）。
- ◎ セットモード [54 : S SRCH] の設定により、スマートメモリーがいっぱいになるまで、繰り返してサーチするように変更できます（72ページ参照）。
- ◎ 再びスマートサーチを開始するときは、一度 VFO モードまたはメモリーモードに戻ってから行ってください。
- ◎ スマートメモリーを呼び出し中に電源を切ると、スマートメモリーの内容は消去されます。

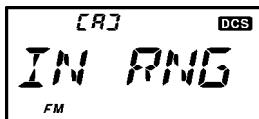
■指定した周波数の範囲をスマートサーチする

あらかじめプログラマブルメモリースキヤン(PMS)により、下限周波数と上限周波数を登録しておきます（37ページ参照）。指定した周波数の範囲をスマートサーチした場合、専用メモリーは16個（1個はスマートサーチを開始した周波数）になります。

1. メモリーチャンネル L1～L50/U1～U50 のいずれかを呼び出します。
2. **[B/W]** に続けて **[VM]** を押します。
メモリーチャンネル番号部の “Lxx/Uxx” が “Pxx” に変わります。
3. **[MODE]** を押したまま、DIAL ツマミで “S SRCH” を選択します。
4. **[BAND]** を0.5秒以上押し、ディスプレイに “S SRCH” が表示されてから **[BAND]** を離すと、スマートサーチがスタートします。
スマートサーチが終了すると、スマートサーチをスタートした周波数を表示します。
5. スマートサーチが終了後、DIAL ツマミで、スマートメモリーにメモリーした周波数を呼び出すことができます。
スマートサーチ機能を終了するときは、**[MODE]** に続けて **[VM]** を押します。
スタートしたメモリーチャンネルに戻ります。

ARTS機能 -相手局と交信できる範囲にいるかを確認する-

ARTS(アーツ)機能を搭載した相手局と、交信できる状態かどうかを自動的に調べ、交信可能・不可能を“ディスプレイの表示”と“ビープ音”で知らせる機能です。



交信可能な状態



交信不可能な状態

1. セットモード(**FW** → **①**)にして、DIAL ツマミで、『17: DCS CD』にあわせます。
2. **①**を押した後、DIAL ツマミで、相手局と同じ DCS コードを選びます。
3. **①**を押した後、DIAL ツマミで、『2: AR BEP』にあわせます。
4. **①**を押した後、DIAL ツマミで、ARTS モードを選択します(下表参照)。
5. PTT スイッチを押します。
6. **FW**に続けて**④**を押すと、ARTS 機能が動作します。

ARTS 機能を中止する場合は**④**を押します。

表示	動作
IN RNG	交信圏内に入ったとき、1回だけ「ビビ」と確認音が鳴り、ディスプレイに“ IN RNG ”を表示します(以後交信圏外に出ない限り確認音は鳴りません)。また、交信圏外に出たとき、1回だけ「ビビビ」と確認音が鳴り、ディスプレイに“ OUTRNG ”を表示します(以後、再び交信圏内に入らない限り確認音は鳴りません)。
ALWAYS	交信圏内に入ったとき、1回だけ「ビビ」と確認音が鳴りディスプレイに“ IN RNG ”を表示し、その後、交信圏内にいるときは、ARTS 信号を受信するたびに「ビビ」と確認音が鳴ります。なお、交信圏外に出たとき、1回だけ「ビビビ」と確認音が鳴り、ディスプレイに“ OUTRNG ”を表示します。
OFF	交信圏内に入ったとき、ディスプレイに“ IN RNG ”を表示し、また、交信圏外に出たとき、ディスプレイに“ OUTRNG ”を表示します。

- ◎ 約10分ごとに、モールス信号で自局のCW IDを送出することができます(CW IDの設定:60ページ参照)。
- ◎ CW IDは、設定したCW IDの前後に“DE”と“K”が自動的に追加されて送出されます。

—・・　・ “CW ID(コールサイン)” —・—
↑ ↑ ↑ ↑
D E 6文字以内のCW ID K

トーンスケルチ機能とDCS機能

トーンスケルチを使うと、こちらで設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。また、デジタルコードスケルチ(DCS)を使うと、こちらで設定しているDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

これらの機能を使うと、長時間にわたって特定の局からの呼び出しを待ち受けているときに、他局の交信にわざわざされることがなくなります。

1. **[Fw]** に続けて **[MODE]** を押します。
2. DIAL ツマミで、スケルチの種類を選択します(下表参照)。
3. PTT スイッチを押すと確定します。

表示	動作
OFF	トーン送出、スケルチ共にオフにします。
TONE	トーン送出だけを行います("T" が点灯)。
T SQ	トーンスケルチをオンにします("T SQ" が点灯)。
DCS	デジタルコードスケルチをオンにします("DCS" が点灯)。
RV TN	リバーストーンをオンにします("T SQ" が点滅)。 通話が無いときにトーン信号が含まれ、通話を始めるとトーン信号が消えるスケルチ制御方式の通話を受信するときに使用します。

- ◎ トーンスケルチやDCSは、スキャン時やスマートサーチ時にも有効です。トーンスケルチまたはDCSがオンの状態でスキャンすると、一致する周波数のトーンまたはDCSコードが含まれている信号の通話を受信したときのみスキャンが停止します。
- ◎ セットモードの [18 : DCS RV] により、極性(位相)を反転したDCSコードを受信することができます(68ページ参照)。
- ◎ セットモードの [58 : SPLIT] により、送受信で別々のスケルチタイプを設定することができます(73ページ参照)。
- ◎ セットモードの [60 : SQL.TYP] からも、スケルチタイプを設定することができます(73ページ参照)。

■トーン周波数を設定する

トーンの周波数は、67.0Hz ~ 254.1Hz の50種類から選択できます。

1. セットモード(**[Fw]** → **[①]**)にし、DIAL ツマミで『66 : TN FRQ』にあわせて **[②]** を押します。
2. DIAL ツマミで希望のトーン周波数(下表参照)を選びます。
3. **[②]** を押し、続けて PTT スイッチを押すと、トーン周波数が確定します。

選択できるトーン周波数(Hz)									
67.0	79.7	94.8	110.9	131.8	156.7	171.3	186.2	203.5	229.1
69.3	82.5	97.4	114.8	136.5	159.8	173.8	189.9	206.5	233.6
71.9	85.4	100.0	118.8	141.3	162.2	177.3	192.8	210.7	241.8
74.4	88.5	103.5	123.0	146.2	165.5	179.9	196.6	218.1	250.3
77.0	91.5	107.2	127.3	151.4	167.9	183.5	199.5	225.7	254.1

- ◎ ディスプレイに "T" または "T SQ" が表示されている時は、**[Fw]** → **[②]** の操作でも設定することができます。この場合、トーン周波数の確定は **[②]** を押してください。
- ◎ 上記の操作で設定したトーンの周波数は、トーンの送出のみを行う場合にも有効です。
- ◎ 工場出荷時(初期値)の状態では 88.5Hz に設定されています。
- ◎ 88.5Hz のトーン信号以外に設定されているレピータをアクセスする場合は、まずレピータの周波数にあわせます。次に上記の「トーンの周波数を設定する」を参考にレピータのトーン周波数を設定し交信します。レピータの周波数を変更すると、トーン周波数は初期値(88.5Hz)に戻りますので、よく使用するレピータの場合は、メモリーしておくことをおすすめします(メモリーに書き込む: 21ページ参照)。

■ DCS コードを設定する

DCS コードは、023～754 の 104 種類から選択できます。

1. セットモード (FW) → (0) にし、DIAL ツマミで、『17:DCS CD』にあわせ、(0) を押します。
2. DIAL ツマミで希望の DCS コード (下表参照) を選びます。
3. (0) を押し、続けて PTT スイッチを押すと、DCS コードが確定します。

選択できる DCS コード																
023	047	073	131	156	223	251	271	332	371	445	465	532	631	723		
025	051	074	132	162	225	252	274	343	411	446	466	546	632	731		
026	053	114	134	165	226	255	306	346	412	452	503	565	654	732		
031	054	115	143	172	243	261	311	351	413	454	506	606	662	734		
032	065	116	145	174	244	263	315	356	423	455	516	612	664	743		
036	071	122	152	205	245	265	325	364	431	462	523	624	703	754		
043	072	125	155	212	246	266	331	365	432	464	526	627	712	—		

◎ ディスプレイに “DCS” が表示されている時は、(FW) → (2) の操作でも設定することができます。この場合、DCS コードの確定は (2) を押してください。

■ トーン周波数サーチと DCS コードサーチ

—相手が使用しているトーンスケルチの周波数や DCS コードがわからないとき—

下記の操作により、トーンスケルチの周波数や DCS コードを探して表示することができます。探し出すとサーチが一時停止し、約 5 秒後に再びサーチを開始します。

1. (FW) → (MODE) と押します。
2. DIAL ツマミで、トーン周波数を探す場合は “T SQL”，DCS コードを探す場合は “DCS” を選び、PTT を押します。
3. (FW) → (2) と押します (トーンスケルチの周波数または、DCS コードが表示されます)。
4. (BAND) を 0.5 秒以上押し、ディスプレイに “T SRCH” が表示されてから (BAND) を離すと、スマートサーチがスタートします。

◎ (2) を押すと、サーチを始める前の状態に戻ります。
◎ セットモード [68 : TS MUT] で、サーチ中に受信音を聞くことができます (74 ページ参照)。
◎ セットモード [69 : TS SPO] で、サーチするスピードを変更することができます (74 ページ参照)。

エマージェンシー機能 -緊急を知らせる-

ビープ音とLEDの点滅で、緊急を知らせることができます。

[EM/EM]を0.5秒以上押すと、エマージェンシー機能が動作します。

ディスプレイに“EMGNCEY”が表示され、LEDの点滅とともに、ビープ音が鳴ります。



- ◎ 周波数は、430MHz帯のホームチャンネルが自動的に選択されます。
- ◎ PTTスイッチを押すと、エマージェンシー機能が一旦停止し、ホームチャンネルで送信することができます。送信が終了すると、約5秒後に再びエマージェンシー機能が動作します。

エマージェンシー機能を解除するには、**[EM/EM]**を0.5秒以上押すか、電源をオフにします。

430MHz帯のホームチャンネルに戻ります。

- ◎ セットモード『26:EMG S』により、エマージェンシー機能の動作を変更することができます。

BP+STR	ビープ音が鳴り、TX/BUSYインジケーターが白色で点滅します。
BEAM	TX/BUSYインジケーターが、白色で点灯し続けます。
BP+BEAM	ビープ音が鳴り、TX/BUSYインジケーターが、白色で点灯し続けます。
CW	TX/BUSYインジケーターが、モールス符号で「SOS*1」と白色で点滅します。
BP+CW	ビープ音がモールス符号で「SOS*1」と鳴り、同時に音に合わせてTX/BUSYインジケーターが白色で点滅します。
CWT	1分毎にCWD*2を送信*3し、同時に音に合わせてTX/BUSYインジケーターが白色で点滅します。
BEEEP	ビープ音が鳴ります。
STROBE	TX/BUSYインジケーターが白色で点滅します。

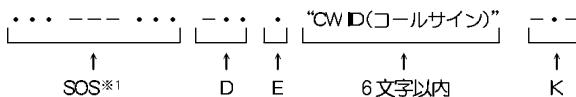
*1:「SOS」のビープ音や点滅は、他のメッセージに変更することができます。

- [EM]** ➡ **[0]**と押し、DIALツマミで『26:EMG S』にあわせて **[0]** を押します。
- [MODE]** を押し、DIALツマミで希望の文字・記号にあわせて **[MODE]** を押します。
- a, bの操作を繰り返し、希望のメッセージを設定し(最大16桁) **[0]** を押します。
- PTTスイッチを押すと、メッセージが確定されます。

- ◎ a. の操作が終了後に **[Fw]** を押すと、現在設定されているメッセージをビープ音とTX/BUSYインジケーターの点滅で確認することができます。

*2: CW IDの送出は、下記のように送出されます。

なお、CW IDは、設定(60ページ参照)されているときのみ送出されます。



*3: CW IDの送出は、430MHz帯のホームチャンネルに登録(23ページ参照)された周波数および送信出力で送出されます。

送信出力をLOWパワーで登録しておくことにより、電池の消費を少なくすることができます。

盗聴器発見機能サーチ -盗聴器を探し出す-

「盗聴器が仕掛けられているかも知れない」と困っている人がいるような場合、手助けをする機能です。盗聴で使用されていると思われる電波を自動的に探し出し、ビープ音の変化(4段階)でおおよその設置場所を発見することができます。

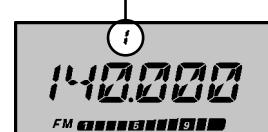
1. **[MODE]** を押したまま、DIAL ツマミで “TAP” を選択します。
2. **[MODE]** を離すと、盗聴器発見機能サーチのモードになり、盗聴周波数を表示しながらサーチします。



盗聴波と思われる電波を発見したとき・・・

最大20チャンネルある盗聴器発見機能サーチメモリーに、一番強い信号から順番に周波数を書き込み、一番強い信号の周波数を表示してサーチが止まります。

サーチが終了後、DIAL ツマミを右にまわすと盗聴器発見機能サーチメモリーに書き込まれている周波数を、信号の強かった順に呼び出すことができます。



盗聴波と思われる電波がなかったとき・・・

ディスプレイに “…NO…” が表示され、盗聴器発見機能サーチを開始する前のモードに戻ります。プライバシーを侵害する盗聴器は無いと思われます。

盗聴波と思われる電波を探し出すことができたら、次は盗聴器が設置されている場所を探し出します。

1. **[BAND]** を押します。
ディスプレイに “tAP” の点滅表示が現れ、アッテネーター(受信感度を下げる回路)と、ビープの機能が自動的に “オン” になります。
2. ビープの音が「ピー、ピー、ピー」と高い音で鳴る場所を探し出します。
「ブーッ、ブーッ、ブーッ・・・」と、低い音で鳴る場合は、盗聴器が設置されている場所から離れていることを示し、さらに離れると「ブツ、ブツ、ブツ・・・」と、短い音に変わります。
3. 盗聴器に近づくと、ビープのピー音が長く鳴りますので、再度 **[BAND]** を押します。
受信感度が更に下がります。
4. 操作2.と同じように、ビープ音の間隔が狭くなる場所を探します。
さらにVX-6が盗聴器に近づくと、VX-6のスピーカーがハウリングを起こし、盗聴器が設置されている場所を発見することができます。
5. **[MODE]** を押すと盗聴器発見機能は解除され、盗聴器発見機能サーチを終了します。



この機能は、盗聴器の発見を補助するための機能で、全ての盗聴器を探し出せるわけではありません。

また本機能を使用して生じたトラブルについては、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

ウェイクアップ機能 -電源オフ時も信号があるかを確認する-

ウェイクアップ機能を動作させることにより、電源をオフにしても、自動的に信号の有無を確認しますので、電池の消費を大幅に少なくすることができます(最長30日間^{※1}連続で動作します)。

1. セットモード(■W → ○)にして、DIAL ツマミで『72 : WAKEUP』にあわせて○を押します。
2. DIAL ツマミで、信号の有無を確認したい間隔(時間)を選び、PTTスイッチを押して確定させます。

表示	動作
5SEC	5秒毎に、電源をオフにする前の周波数を確認します※。
10SEC	10秒毎に、電源をオフにする前の周波数を確認します※。
20SEC	20秒毎に、電源をオフにする前の周波数を確認します※。
30SEC	30秒毎に、電源をオフにする前の周波数を確認します※。
EAI	5秒毎に、EAI専用メモリーチャンネルを確認します。
OFF	ウェイクアップ機能が“OFF”になります。

※EAI機能(40ページ参照)がONの場合は、EAI周波数の確認も行います。

3. 希望の周波数にあわせます。
4. 電源を“オフ”にすると、ウェイクアップ機能が動作します(“WAKEUP”が表示されます)。

ウェイクアップ機能を中止するときは、上記の操作を繰り返し、操作2. で“OFF”にあわせてください。



- ◎ ウェイクアップ機能の動作音が気になる場合は、操作1. が終了後 □を押すことにより、動作音が鳴らないようにすることができます(“SAVE”の表示が消灯します)。
ただし、ウェイクアップ機能の連続動作可能時間が短く(最長5日間^{※2})になります。
- ◎ ウェイクアップ機能が動作中(ディスプレイに“WAKEUP”が表示中)に□を押すと、ウェイクアップ機能を一時的に停止することができます。一時停止中のウェイクアップ機能は、一度電源をオンにした後、再度電源をオフにすると、再びウェイクアップ機能が動作します。
- ◎ 信号を受信中に何らかの操作を行うと、ウェイクアップ機能を一時的に停止することができます。電源をオフにすると、再びウェイクアップ機能が動作します。
- ◎ トーンスクルチ、DCS、新ページヤーなどをオンにしているときは、それぞれのトーンやコードを含む信号をだけを受信します。
- ◎ EAI機能(40ページ参照)を動作させながら、ウェイクアップ機能を動作させた場合、探索者には操作2. で設定した時間以上送信してもらわ必要があります。
- ◎ ウェイクアップ機能が動作中に電池/バッテリが消耗した場合(ディスプレイに“□”が表示)は、すみやかに充電をおこなってください。充電をおこなわずに使用を続けると、過放電により電池/バッテリの寿命が短くなることがあります。

※1: 電池/バッテリ“FNB-80Li”が満充電された状態で、動作時間を“30SEC”に設定し、動作中に一度も信号を受信しなかった場合の目安です。

“5SEC”に設定した場合は、約8日間になります。

※2: 電池/バッテリ“FNB-80Li”が満充電された状態で、動作時間を“30SEC”に設定し、動作中に一度も信号を受信しなかった場合の目安です。

“5SEC”に設定した場合は、約4日間になります。

いずれの場合も、頻繁に信号を受信した場合は、連続動作可能時間が短くなります。

また、電池/バッテリ“FNB-80Li”的充電状態や経年変化、周囲の温度などでも、連続動作可能時間は変化します。

チャンネルカウンター－周波数を調べる－

あおよその周波数しかわからないトランシーバー(たとえば特定小電力のようなチャンネル表示のトランシーバーなど)の周波数を知りたいときに、本機で周波数を調べることができます。

設定した周波数から“±5MHz”の範囲内を高速サーチし、最も強い信号を探し出して周波数を表示し、専用のチャンネルカウンターメモリーに書き込みます。

このチャンネルカウンターはあくまでも簡易的なものであり、測定した周波数は概略値です。

1. あおよその周波数にあわせ、送信しているトランシーバーに本機を近づけます。

2. **[MODE]** を押したまま、DIAL ツマミで “CH CNT” を選択します。

3. **[MODE]** を離すとチャンネルカウンターが動作し、サーチを開始します。

サーチ中は “[COUNT3]=[COUNT2]” とディスプレイに表示されます。

約50dBのアッテネーターが自動的に動作し、至近距離で発射している電波のみ受信します。

サーチ終了後、周波数を表示します。

信号を探し出せなかったときは “…NO…” が表示され、チャンネルカウンターを動作させる前の状態に戻ります。

4. チャンネルカウンターを中止するときは **[MODE]** を押します。

チャンネルカウンターメモリーに書き込まれた周波数は消去されます。

- ◎ チャンネルカウンターメモリーに書き込まれた周波数は、通常のメモリーチャンネルに書き込むことができます。
- ◎ 通常±5MHzの範囲をサーチしますが、セットモード [12:CH CNT] により、このサーチ範囲を ±5MHz、±10MHz、±50MHz、±100MHzから選択することができます(67ページ参照)。サーチ幅を狭くするほど、探し出す時間は短くなります。
- ◎ トランシーバーの送信出力が大きい場合は、VX-6が不要な電波で誤動作しないようトランシーバーとの距離を調節してください。

気圧を表示する（オプションの SU-1 が必要です）

オプションの気圧センサ - ユニット “SU-1” を取り付けている場合は、現在の気圧を表示することができます。

1. セットモード (■W → ○) にして、DIAL ツマミで『64 : SU1.SET』にあわせて ○ を押します。
2. DIAL ツマミで “BARO” を選びます。
“OFF” にすると、気圧の表示をやめることができます。
3. PTTスイッチを押すと、セットモードにする前の状態に戻り、
約5秒後に現在の気圧が表示されます。

気圧表示中に何らかの操作を行った場合は、ディスプレイの表示が通常運用の表示に変わります。何も操作を行わないと、約5秒後に再び気圧を表示します。



- ◎ 正しい気圧が表示されるまで数秒間かかります。
- ◎ 周囲の温度により、実際の気圧と異なる場合があります。
- ◎ セットモードの [63 : SU1.BRM] により、気圧表示の単位を変更することができます（74ページ参照）。
- ◎ 表示された値が実際の気圧と異なる場合は、セットモードの [63 : SU1.BRM] で補正してください（74ページ参照）。
- ◎ バーグラフの状態で、気圧の変化（10分毎）をることができます。



気圧が上昇傾向の場合



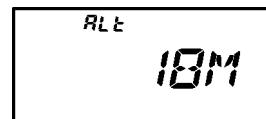
気圧が下降傾向の場合

高度を表示する（オプションの SU-1 が必要です）

オプションの気圧センサ - ユニット “SU-1” を取り付けている場合は、現在の気圧から算出された高度を表示することができます。

1. セットモード (■W → ○) にして、DIAL ツマミで『64 : SU1.SET』にあわせて ○ を押します。
2. DIAL ツマミで、 “ALTI” を選びます。
“OFF” にすると、高度の表示をやめることができます。
3. PTTスイッチを押すと、セットモードにする前の状態に戻り、
約5秒後に現在の高度が表示されます。

高度表示中に何らかの操作を行った場合は、ディスプレイの表示が通常運用の表示に変わります。何も操作を行わないと、約5秒後に再び高度を表示します。



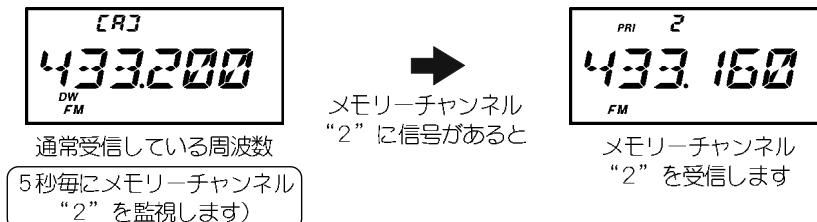
- ◎ 表示される高度は、気圧が標準気圧（1013hPa）のときに、高度が0mになるように表示されます。
- ◎ セットモードの [62 : SU1.ALT] により、高度表示の単位を変更することができます（74ページ参照）。
- ◎ 表示された値が実際の高度と異なる場合は、セットモードの [62 : SU1.ALT] で補正してください（74ページ参照）。
- ◎ 3桁または4桁で表示します（4000mくらいまでの高度を測ることができます）。

必要に応じて使う機能

プライオリティ機能を使う

約5秒間に一度、指定したメモリーチャンネルに信号があるかを確認し、信号がある場合は、指定したメモリーチャンネルの信号を受信します。

例：“433.200MHz”を受信しながら、メモリーチャンネル“2”を確認する場合



■ ダイアルプライオリティ (VFOモード ⇄ メモリーチャンネル)

VFOモードで受信中に、希望のメモリーチャンネルを確認します。

1. メモリーモードで、メモリーチャンネル番号が点滅するまで **[P/W]** を押し続けます。
2. 確認したいメモリーチャンネルを DIAL ツマミで選び、**[BAND]** を押します。
“PR”が表示されます。
3. VFOモードで、常時受信したい周波数にあわせます。
4. **[V/M]** を押し続けると、ダイアルプライオリティを開始します。
再度 **[V/M]** を押し続けると、プライオリティ機能を中止することができます。

■ メモリープライオリティ (メモリーチャンネル ⇄ メモリーチャンネル)

希望のメモリーチャンネルを受信中に、指定したメモリーチャンネルを確認します。

1. メモリーモードで、メモリーチャンネル番号が点滅するまで **[P/W]** を押し続けます。
2. 確認したいメモリーチャンネルを DIAL ツマミで選び、**[BAND]** を押します。
“PR”が表示されます。
3. 常時受信したいメモリーチャンネルにあわせます。
4. **[V/M]** を押し続けると、メモリープライオリティを開始します。
再度 **[V/M]** を押し続けると、プライオリティ機能を中止することができます。

■ HOME プライオリティ (HOME チャンネル ⇄ メモリーチャンネル)

必要に応じて使う機能

ホームチャンネルを受信中に、希望のメモリーチャンネルを確認します。

1. メモリーモードで、メモリーチャンネル番号が点滅するまで **[P/W]** を押し続けます。
2. 確認したいメモリーチャンネルを DIAL ツマミで選び、**[BAND]** を押します。
“PRI”が表示されます。
3. **[HM/VV]** を押してホームチャンネルを呼び出します。
4. **[V/M]** を押し続けると、HOME プライオリティを開始します。
再度 **[V/M]** を押し続けると、プライオリティ機能を中止することができます。

DTMF 機能を使う

DTMF とは “Dual Tone Multi Frequencies” の略語で、プッシュホーンの電話をかけたときに受話音から聞える音「ピッポッ/ツ」です。

WIRES をアクセスするための DTMF コードやフォーン/パッチから公衆回線に接続する時に使用する電話番号などを、最大 16 行の DTMF 信号で登録することができます(合計 10 チャンネル)。

■ DTMF コードの登録

1. セットモード(①)にして、DIAL ツマミで『22 : DT SET』にあわせて①を押します。
2. DIAL ツマミをまわして、メモリーしたい DTMF チャンネル(CH0 ~ CH9)を選び、②を押します。
3. 希望の DTMF コード(最大 16 行)をキーで入力します(“B”と“*”は DIAL ツマミで選択し③を押してください)。

◎「*」は“E”，“#”は“F”とディスプレイに表示されます。

4. PTT スイッチを押すと登録終了です。

- ◎ コード入力中に①を押すと、一桁前のコードを入力し直すことができます。
- ◎ コード入力中に②を約 2 秒以上押すと、カーソル以降(カーソルのある桁を含む)のコードを消去できます。
- ◎ 上記操作 2. の時、すでに DTMF コードが登録されている DTMF チャンネルを選び、①を押すと、登録してある DTMF コードを実際に鳴らして、確認することができます。

■ DTMF コードの送出

送信中にキーボードを押すことにより、DTMF 信号(0 ~ 9, A ~ D, *, #)を送出することができます(“*”は“E”，“#”は“F”とディスプレイに表示されます)。

また、下記の操作を行うことにより、上記 “DTMF コードの登録” で登録した DTMF コードを送出することができます。

1. ①を押して、続けて③を押します。
2. DIAL ツマミで“PULL”にあわせて、PTT スイッチを押します。

- ◎ 登録した DTMF を送出しない場合は、再度操作 1. ~ 2. を行い、操作 2. で“MANUAL”にあわせてください。

3. 送信しながら、送出したい DTMF コードが登録されたチャンネル(① ~ ⑨キー)を押すと、DTMF コードが送出されます。

- ◎ DTMF コード送出中は、PTT スイッチを離しても、送信状態を保持します。

パスワード機能

4桁のパスワードを設定することにより、正しいパスワードを入力しないと、電源をオンにすることができませんので、第三者の無断使用などを防ぐことができます。

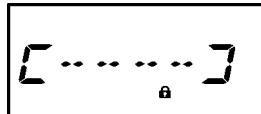
■パスワード機能を動作させる

1. セットモード( )にして、DIAL ツマミで『47:PSWD』にあわせて  を押します。
2.  を押した後、DIAL ツマミでパスワードの1桁目を選びます(0～9, A～F から選択できます)。
3.  を押して(次の桁に移る)、DIAL ツマミでパスワードを選びます。
4. 操作3. を繰り返して、4桁のパスワードを入力し、最後に  を押します。
5. DIAL ツマミで“ON”にあわせ、PTTスイッチを押すと確定します。

- ◎ パスワード機能を解除するには、上記の操作1. を行い、DIAL ツマミで“OFF”にあわせて、PTTスイッチを押してください。
- ◎ ウエイクアップ機能やオンタイマー機能が動作して電源がオンになるときは、パスワード機能は無効になります。

■パスワード機能動作時の電源の入れかた

1.  を押し続けます。
パスワード入力画面が表示されます。
2. キーボードで正しい4桁のパスワードを入力すると、電源が“オン”になります。
間違ったパスワードを入力した場合は、自動的に電源が“オフ”になります。



- ◎ パスワードの入力は、数字は  ～  、アルファベットは、A  , B  , C  , D  , E  , F  を直接押すことにより、入力することができます。

注 意

パスワードを忘れた場合は、オールリセットを行うことにより、電源を入れることができます。ただし、オールリセットを行うと、メモリーされた内容や、各種の設定値など、全ての情報がリセット(初期化)されてしまいます。
パスワードは忘れないように、紙などに控えておくようにしてください。

プログラマブルキー機能

頻繁に使用するセットモードの項目を  や  キーに登録することができます。

1. セットモード( )にして、DIAL ツマミで登録したいセットモードにあわせます。
2. ディスプレイに“PGMKEY”が表示されるまで  または、“MY KEY”が表示されるまで  を押すと登録完了です。
以後は  または  押すだけで、登録したセットモードを呼び出すことができます。

- ◎  にセットモードの項目を登録した際は、 を押しながら電源をオンにして、インターネットキーの動作を無効にしてください。インターネットキーの動作を有効にする時は、再度、 を押しながら電源をオンしてください。

自動的に電源をオンにする(オンタイマー機能)

指定した時間電源オフの状態が続くと、自動的に電源を“ON”することができます。

1. セットモード( )にして、DIAL ツマミで『41:ON TMR』にあわせて  を押します。
2. DIAL ツマミで、電源がオンになるまでの時間を選びます。
(10分単位で、10分～24時間から選択できます)。
3. PTTスイッチを押して確定します。

電源をオフにすると、自動的に電源がオンになるまでの時間を表示します。

- ◎ オンタイマー機能が動作中(ディスプレイに電源オンまでの時間が表示中)に  を押すと、オンタイマー機能を一時的に停止することができます。一度電源をオンにした後、電源をオフにすると、再びオンタイマー機能が動作します。

自動的に電源をオフにする(APO)

指定した時間何の操作も行わずにいると、電源の切り忘れと判断して自動的に電源を“OFF”にします。

1. セットモード( )にして、DIAL ツマミで『1: APO』にあわせて  を押します。
2. DIAL ツマミで、電源がオフになるまでの時間を選びます。
(30分、1時間、3時間、5時間、8時間から選択できます)。
3. PTTスイッチを押して確定します。

- ◎ オートバーフォフ機能がオンのときには“”が表示されます。
◎ 電源が切れる約3分前になると、ディスプレイの“”表示が点滅すると共に、ビープ音が鳴ります。

RFスケルチ機能

設定値以上の信号を受信した場合のみ、音声を出力させる機能です。

1. セットモード( )にして、DIAL ツマミで『50:RF SQL』にあわせて  を押します。
2. DIAL ツマミで、設定値を選びます(下表参照)。
3. PTTスイッチを押して確定します。

表示	動作状態
51	Sメーターが“1”以上の信号の音声を出力します。
52	Sメーターが“2”以上の信号の音声を出力します。
53	Sメーターが“3”以上の信号の音声を出力します。
54	Sメーターが“4”以上の信号の音声を出力します。
55	Sメーターが“5”以上の信号の音声を出力します。
56	Sメーターが“6”以上の信号の音声を出力します。
57	Sメーターが“7”以上の信号の音声を出力します。
58	Sメーターが“8”以上の信号の音声を出力します。
59	Sメーターが“9”以上の信号の音声を出力します。
59+	Sメーターが“フルスケール”以外の信号の音声は出力しません。
OFF	RFスケルチ機能が“OFF”になります。

連続送信時間を制限する(TOT)

連続送信した際に、自動的に送信を中止するまでの時間を設定することができます。

1. セットモード( にして、DIAL ツマミで『67:TOT』にあわせて を押します。
2. DIAL ツマミで、送信を中止するまでの時間を選びます。
(1分、3分、5分、10分から選択できます)。
3. PTT スイッチを押して確定します。

◎ 送信を中止する約 10 秒前になると「ピボピボピボッ」と警告音が鳴ります。

受信中に誤って送信しないようにする(BCLO)

信号を受信中に、誤って送信しないようにすることができます(ビジーチャンネルロックアウト機能)。

1. セットモード( にして、DIAL ツマミで『6:BCLO』にあわせて を押します。
2. DIAL ツマミで、"ON" にあわせます。
3. PTT スイッチを押して確定します。

◎ 信号を受信中は、PTT スイッチを押しても送信することができません。

温度を表示する

VX-6 内部の温度を表示させることができます。

1. セットモード( にして、DIAL ツマミで『65:TEMP』にあわせて を押します。
2. を押して、続けて PTT スイッチを押すと、温度を表示させる前の状態に戻ります。

◎ VX-6 内部の温度を把握する機能です。
◎ 温度上昇のない状況(待ち受け受信時など)では、外気温の目安とすることができます。
◎ 温度表示中に を押すと、温度表示の単位(C: 摂氏, F: 华氏)を変更することができます。

マイクゲインを調節する

マイク入力レベルを調節することができます。

1. セットモード( にして、DIAL ツマミで『37:MCGAIN』にあわせて を押します。
2. DIAL ツマミで、希望のマイクゲインを選びます。
LVL 1～LVL 9 から選択できます。
3. を押して、続けて PTT スイッチを押すと確定します。

照明の点灯条件を変更する

ディスプレイとキーの照明が点灯する条件を、変更することができます。

1. セットモード( にして、DIAL ツマミで『33:LAMP』にあわせて を押します。
2. DIAL ツマミで、希望の点灯条件にあわせます(下表参照)。
3. PTT スイッチを押して確定します。

表示	点灯条件
	DIAL ツマミをまわすか、またはキーを押すと、約 5 秒間点灯します。
	点灯しつづけます。
	照明は点灯しなくなります。

照明の明るさを変更する

ディスプレイとキー照明の明るさを変更することができます。

1. セットモード (■W → ○) にして、DIAL ツマミで『19:DIMMER』にあわせて ○ を押します。
2. DIAL ツマミで、希望の明るさにあわせます。
3. PTT スイッチを押して確定します。

TX/BUSY インジケーターをライトとして使用する

TX/BUSY インジケーターを白色に発光させ、簡易的なライトとして使用することができます。

1. セットモード (■W → ○) にして、DIAL ツマミで『34:LED LT』にあわせます。
2. ○ を押すと、TX/BUSY インジケーターが白色に点灯します。
3. ○ を押すとライトが消え、続けて PTT スイッチを押すと、元の状態に戻ります。

ベル機能

相手局からの呼び出しを、ベル音と “◆” の表示で知らせることができます。



1. セットモード (■W → ○) にして、DIAL ツマミで『8:BELL』にあわせて ○ を押します。
2. DIAL ツマミで、ベル音の鳴る回数をあわせます。
(1回、3回、5回、8回、CONT(連続)から選択できます)。
3. PTT スイッチを押して確定します。

- ◎ ベル機能を使用するためには、新ページヤー機能、トーンスケルチまたは DCS をオンにしてください。
- ◎ ベル機能は、レピータでは使用することができません。
- ◎ ベル機能が動作中は、ディスプレイに “◆” が点灯します。また、相手局からの信号を受信したときには “◆” の表示が点滅します。

電池(電源)電圧を表示する

電池の電圧を表示します。オプションのシガープラグ付外部電源アダプター (E-DC-5B) や、外部電源ケーブル (E-DC-6) を接続しているときは、電源電圧を表示します。

1. セットモード (■W → ○) にして、DIAL ツマミで『16:DC VLT』にあわせて ○ を押します。
2. 電圧の表示を消したいときは、○ を押して、続けて PTT スイッチを押します。

受信感度を下げる(ATT)

信号が強すぎるときや、近くに強力な信号があり、目的の信号が聞きにくい場合、アンテナーター(ATT)を動作させると、聞きやすくなることがあります。

1. セットモード( にして、DIAL ツマミで『5:ATT』にあわせて を押します。
2. DIAL ツマミで、"ON"にあわせます。
3. PTT スイッチを押して確定します。

◎アンテナーター機能が動作中は、運用モード表示が点滅します。

操作音が鳴らないようにする

キーを押したときや、信号を受信してスキャンが停止したときなどに出るビープ音を、鳴らないようにすることができます。

1. セットモード( にして、DIAL ツマミで『7:BEEP』にあわせて を押します。
2. DIAL ツマミで "OFF" を選びます。
3. PTT スイッチを押して確定します。

操作音の音量を設定する

キーを押したときや、信号を受信してスキャンが停止したときなどに出るビープ音の音量を設定することができます。

1. セットモード( にして、DIAL ツマミで『9:BP LVL』にあわせて を押します。
2. DIAL ツマミで、希望の音量を選びます。
3. PTT スイッチを押して確定します。

電源を入れたときの表示を変える(オープニングメッセージ)

電源を "オン" にしたときに表示される電源電圧を、最大 6 行のメッセージに変更することができます。

1. セットモード( にして、DIAL ツマミで『42:OPN.MSG』にあわせて を押します。
2. DIAL ツマミで "MSG" を選びます。
3. OFF を選ぶと、電源を入れたときに、電源電圧やメッセージは表示しなくなります。
4. DIAL ツマミで、希望の文字(0 ~ 9, A ~ Z, 記号)を選びます。
5. を押します(次の行に移る)。
6. 操作 4. と 5. を繰り返して、表示させたい文字を入力(最大 6 行)していきます。
7. PTT スイッチを押すと登録終了です。

マニュアルでモードを切り替える

自動的にバンド（周波数帯）に適したモードに切り換わる“AUTO（オートモード）”に設定されていますが、マニュアルでモード（電波型式）を切り替えることができます。

[MODE]を押すたびに、モードが切り換わります。

表示	動作
FM	現在選択しているバンドのみFMモードに切り替えます。
AM	現在選択しているバンドのみAMモードに切り替えます。
WFM	現在選択しているバンドのみWFMモードに切り替えます。
AUTO	現在選択しているバンドのみAUTOモードに切り替えます。

- ◎ 各周波数帯に、個別に設定することができます。
- ◎ 144MHz帯および、430MHz帯のアマチュアバンドで、AMまたはWFMモードに選択してあっても、送信時はNFMモードになります。

マニュアルでステップを切り替える

自動的に受信周波数に応じた最適なステップに切り換わる“AUTO（オートステップ）”に設定されていますが、マニュアルで周波数ステップを切り替えることができます。

1. **[W]**を押して、続けて①を押します。
2. DIALをタッチで、希望のステップを選びます。
AUTO/5/9/10/12.5/15/20/25/50/100kHzから選択できます。
通常はAUTOに設定しておくことをおすすめします。
3. PTTスイッチを押して確定します。

- ◎ 各周波数帯に、個別に設定することができます。
- ◎ 700MHz～998.999MHzの周波数には、5kHzステップと15kHzステップの設定をすることができません。
- ◎ 504kHz～1.791MHzの周波数には、9kHzステップと10kHzステップのみ選択できます。
- ◎ 9kHzステップは、504kHz～1.791MHz帯でのみ選択できます。

メモリーオンリーモード

メモリーチャンネルにメモリーした周波数だけで運用することができます。

[VIM]を押しながら電源を“オン”にします。

同じ操作を繰り返すと、メモリーオンリーモードを解除できます。

- ◎ **[BAND]**を0.5秒以上押すとメモリースキヤンが動作します（35ページ）。
- ◎ メモリーオンリーモードにすると、下記以外の機能は動作しなくなります。
 - ・メモリースキヤン
 - ・インターネットキー
 - ・受信モードの切り替え
 - ・スケルチレベルの設定
 - ・一時ハイパワー機能

CW ID の設定

CW ID を設定すると、ARTS/EAI/ エマージエンシー機能動作時に、自分のコールサインなどを自動的に送出することができます。

■ CW ID の登録

1. セットモード ( ) にして、DIAL ツマミで『14: CW ID』にあわせて  を押します。
2.  を押します。
3. DIAL ツマミで希望の英数字や記号 (0 ~ 9, A ~ Z, スペース, +, -, ?) を選びます。
4.  を押すと、次の桁に移ります。
5. 操作 3. ~ 4. を繰り返し、ID を入力します (最大 16 文字)。
6.  を押すと、ID が設定されます。
7. PTT スイッチを押して終了です。

- ◎  を押すとカーソルの位置を一文字送ることができます。
- ◎  を押すとカーソルの位置を一文字前に戻すことができます。
- ◎  を約 2 秒押すと、点滅している文字とその文字以降を削除することができます。
- ◎ 上記の操作 1. が終わった時、 を押すと、設定されている ID を実際に鳴らして、確認することができます。

■ CW ID の設定

1. セットモード ( ) にして、DIAL ツマミで『14: CW ID』にあわせて  を押します。
2. ダイアルツマミをまわして “ON” を選びます (“OFF” にすると CW ID は送出されないようになります)。
3. PTT スイッチを押して終了です。

- ◎ CW ID を送出するには F2A の免許が必要になり、第三級アマチュア無線技士以上の資格が必要になります (ただし、有線連絡ができないなど、非常通信時にはこの限りではありません)。
- 第四級アマチュア無線技士の方は “セットモード [14: CW ID] の設定は “OFF” のままでご使用ください。

CWトレーニング機能

ランダムなモールス符号をスピーカーで鳴らし、その音に合わせて TX/BUSY インジケーターが点滅します。さらに、そのモールス符号をディスプレイに表示します。

1. セットモード (■W → ○) にして、DIAL ツマミで『15 : CWTRNG』にあわせて ○ を押します。
2. DIAL ツマミで希望の送出スピード (モールス符号の速さ) を選びます。

○ 送出スピードは“200CPM～2000CPM”または“4WPM～40WPM”から選択することができます。WIM を押すたびに、“CPM”*1、“WPM”*2 が切り替わります。

※ 1 CPM(Character Per Minutes)

1分間に送出できる文字数の目安で、例えば“600CPM”なら、1分間に約60字の文字を送るスピードになります。

※ 2 WPM(Word Per Minutes)

1分間に送出する単語数の目安(ARRL で定めた “PARIS” 式「1単語=5文字」より算出)で、例えば“20WPM”なら、平均して1分間に20単語の文字を送るスピードになります。

3. MODE を押して、モールス符号の送出条件を選択します(下表参照)。

送出条件(下表参照)



表示	動作
E	アルファベットを5文字送出して、再び ■W が押されるまで一時停止します。
E_r	「アルファベットを5文字送出」を繰り返します。
n	数字を5文字送出して、再び ■W が押されるまで一時停止します。
n_r	「数字を5文字送出」を繰り返します。
En	アルファベットと数字を5文字送出して、再び ■W が押されるまで一時停止します。
En_r	「アルファベットと数字を5文字送出」を繰り返します。
j	カナ(和文)を5文字送出して、再び ■W が押されるまで一時停止します*。
j_r	「カナ(和文)を5文字送出」を繰り返します*。

* カナ(和文)は、ディスプレイにローマ字で表示されます(例：“ヤ”の場合は“YA”と表示されます)。

4. ■W を押すと、設定した条件でモールス符号が送出されます。

○ CWトレーニング機能が動作中でも、本機は受信動作をおこなっています。
○ 受信音に対し、モールス符号の音量が大きい(小さい)場合は、セットモード [9:BP LVL] で、モールス符号の音量を調節してください。
○ PTTスイッチを押すと、CWトレーニング機能を動作させる前の状態に戻ります。
○ モールス符号が送出されている途中で ■W を押すと、モールス符号の送出を中止します。
○ モールス符号が送出されていない状態で ■W を押すと、TX/BUSY インジケーターが点滅しないようになります。



“.”が消えている時は、TX/BUSY インジケーターは点滅しません。

セットモード番号順一覧表

本機に備えられた“機能”または“動作”的設定(73種類)を行うことができます。

機能	ディスプレイ表示	初期値	ページ
オートパワーオフ(APO)の設定	1 APO	OFF	66
ARTSモードの設定	2 AR BEP	IN RNG	66
ARTSチェック間隔の設定	3 AR INT	25 SEC	66
オートマチックレピータシフト(ARS)の設定	4 ARS	ON	66
アップテナーの“ON/OFF”	5 ATT	OFF	67
ビージャンナルロックアウトの“ON/OFF”	6 BCLO	OFF	67
ピープ音の“ON/OFF”	7 BEEP	ON	67
ベル呼び出し音の設定	8 BELL	OFF	67
ピープ音の音量設定	9 BP LVL	LVL 5	67
メモリーバンクに名前を付ける	10 BNK NM	—	67
BUSY LEDの“ON/OFF”	11 BSY.LED	ON	67
チャンネルカウンターのサーチ幅の設定	12 CH CNT	+ - 5M	67
クロックシフトの“ON/OFF”	13 CLK.SFT	OFF	67
CMDの“ON/OFF”およびID書き込みの設定	14 CW ID	OFF	67
CWトレーニング機能の“ON/OFF”	15 CWTRNG	OFF	67
電源電圧表示	16 DC VLT	—	68
DCSコードの設定	17 DCS CD	023	68
DCSコードの極性設定	18 DCS RV	DISABL	68
ディスプレイ、キーパッド照明の明るさ設定	19 DIMMER	LVL 7	68
DMR機組の登録周波数書き換え許可	20 DMR.WRT	ON	68
DTMFメモリーの送出設定	21 DT A/M	MANUAL	68
DTMFオートダイアラーのチャンネルおよび、コードの設定	22 DT SET	—	68
EAI機能の“ON/OFF”	23 EAI	OFF	68
EAI機組の間欠送信時間設定	24 EAI.TMR	INT. 5M	68
バンドエッジ通過時のピープ音の“ON/OFF”	25 EDG.BEP	OFF	68
エマージェンシーモードの設定	26 EMG S	BP+STR	69
送信変調レベルの設定	27 HLF.DEV	OFF	69
[HMRV]キーを[REV]キーにするかの選択	28 HMRV	HOME	69
インターネットモードで使用するDTMFコードの設定	29 INT CD	DTMF 1	69
インターネットモードの設定	30 INT MD	FRG	69
インターネットモード時のDTMFメモリーの送出設定	31 INT.A/M	MANUAL	69
インターネットモードで使用するコード設定	32 INT.SET	—	70
ディスプレイ、キーパッド照明モードの条件設定	33 LAMP	KEY	70
BUSY/TXインジケーターをライトとして使用する	34 LED LT	—	70
ロック機能の設定	35 LOCK	K+D	70
モニタースイッチ/TCALLスイッチ変更設定	36 MIT-CL	MONI	70
マイクゲインの設定	37 MCGAIN	LVL 5	70
メモリー書き込み時のオートインクリメント設定	38 MW MD	NEXT	70
メモリーの表示切り替え選択	39 NAME	FREQ	70
メモリーの名前入力	40 NM SET	—	71
オンタイマーの時間設定	41 ON TMR	OFF	71
オープニングメッセージの設定	42 OPN.MSG	DC	71
新ページヤー機能の“ON/OFF”	43 PAGER	OFF	71
ページヤーアンサーバック機能の“ON/OFF”	44 PAG.ABK	OFF	71
個別コード(受信用)の設定	45 PAG.CDR	05 47	71

個別コード(送信用)の設定	46 PAG.CDT	05 47	71
パスワード機能の“ON/OFF”	47 PSWD	OFF	71
PTTディレイタイムの設定	48 PTT.DLY	OFF	71
スキャンレジュームの設定	49 RESUME	5 SEC	72
RFスケルチの設定	50 RF SQL	OFF	72
レピータシフト方向の設定	51 RPT	SMP	72
受信モードの切り替え	52 RX MD	AUTO	72
受信セーブ時間の設定	53 RXSAVE	200MS	72
スマートサーチ動作モードの設定	54 S SRCH	SINGLE	72
スキャンストップ時のランプ点灯	55 SCN.LMP	ON	72
レピータシフト幅の設定	56 SHIFT	0MHz(430MHz帯:5MHz)	73
スキップメモリーチャンネルの選択	57 SKIP	OFF	73
送受信個別のスケルチタイプの選択	58 SPLIT	OFF	73
スケルチレベルの設定	59 SQL	LVL1,LVL2(WFM)	73
トーンスケルチ/DCSの選択	60 SQL.TYP	OFF	73
周波数ステップの設定	61 STEP	AUTO	73
高度表示の単位切り替えとオフセットの設定	62 SU1.ALT	—	74
センサー表示の選択	63 SU1.BRM	—	74
気圧表示の単位切り替え	64 SU1.SET	OFF	74
VX-6 内部の温度表示	65 TEMP	—	74
トーン周波数の設定	66 TN FRQ	88.5Hz	74
タイムアウトタイマー(TOT)の設定	67 TOT	OFF	74
トーンサーチ時の音声出力設定	68 TS MUT	ON	74
トーンサーチのサーチ速度の設定	69 TS SPD	FAST	74
送信セーブ設定	70 TXSAVE	OFF	75
VFO モード時の周波数選択範囲の設定	71 VFO MD	ALL	75
ウェイクアップ機能の“ON/OFF”	72 WAKEUP	OFF	75
鉄道無線空線スケルチの選択	73 TR SQL	OFF	75

セットモード項目別一覧表

SQL/トーンスケルチ/DCS/DTMFに関する設定項目		セットモード番号 / 表示選択できる項目
ベル呼び出し音の設定	8 BELL	OFF/1/3/5/8/CONT
DCS コードの設定	17 DCS CD	023～754(104種類)
DCS コードの極性設定	18 DCS RV	DISABL/ENABLE
DTMF メモリーの送出設定	21 DT A/M	MANUAL/AUTO
DTMF オートダイアラーのチャンネル / コードの設定	22 DT SET	—
送受信個別のスケルチタイプの選択	58 SPLIT	ON/OFF
スケルチレベルの設定	59 SQL	LVL1～LVL15(NFM, AM), LVL1～LVL8(WFM)
トーンスケルチ/DCSの選択	60 SQL.TYP	OFF/TONE/T SQL/DCS/RV TN
トーン周波数の設定	66 TN FRQ	67～88.5～254.1Hz(50トーン)
トーンサー手時の音声出力設定	68 TS MUT	ON/OFF
トーンサーチのサーチ速度の設定	69 TS SPD	FAST/SLOW
鉄道無線空線スケルチの選択	73 TR SQL	OFF/JR FRQ/PR FRQ
インターネットモード / レピーターに関する設定項目		セットモード番号 / 表示選択できる項目
オートマックレピータシフト(ARS)の設定	4 ARS	ON/OFF
インターネットモードの設定	30 INT MD	FRG/SRG
インターネットモードで使用する DTMF コード設定	29 INT CD	0～9/A～F
インターネットモード時の DTMF メモリーの送出設定	31 INT A/M	MANUAL/AUTO
インターネットモードで使用するコード設定	32 INT SET	—
レピータシフト方向の設定	51 RPT	SIMP/RPT/+RPT
レピータシフト幅の設定	56 SHIFT	0～5(430MHz 帯)～150.00MHz
メモリーに関する設定項目		セットモード番号 / 表示選択できる項目
メモリーバンクに名前を付ける	10 BNK NM	—
メモリー書き込み時のオートインクリメント設定	38 MW MD	NEXT/LOWER
メモリーの表示切り替え選択	39 NAME	FREQ/ALPHA
メモリーの名前入力	40 NM SET	—
DMR 機能の登録周波数書き換え許可の “ON/OFF”	20 DMR.WRT	ON/OFF
スキャンに関する設定項目		セットモード番号 / 表示選択できる項目
チャンネルカウンターのサーチ幅の設定	12 CH CNT	±5MHz, ±10MHz, ±50MHz, ±100MHz
スマートサーチ動作モードの設定	54 S SRCH	SINGLE/CONT
スキャンレジュームの設定	49 RESUME	3, 5, 10SEC/BUSY/HOLD
スキップメモリー/チャンネルの選択	57 SKIP	OFF/SKIP/ONLY
スキャンストップ時のランプ点灯	55 SONLMP	ON/OFF
SAVEに関する設定項目		セットモード番号 / 表示選択できる項目
ウェイクアップ機能の “ON/OFF”	72 WAKEUP	OFF/5, 10, 20, 30MIN/AI
オートパワーオフ(APO)の設定	1 APO	OFF/0.5H, 1H, 3H, 5H, 8H
タイムアウトタイマー(TOT)の設定	67 TOT	OFF/1, 3, 5, 10MIN
受信セーブ時間の設定	53 RXSAVE	OFF/200MS/300MS/500MS/1SEC/2SEC
送信セーブ設定	70 TXSAVE	ON/OFF

新ページャー/EAI/ARTSに関する設定項目

- ARTSモードの設定
- ARTSチェック間隔の設定
- EAI機能の“ON/OFF”
- EAI機能の間欠送信時間設定
- CMDの“ON/OFF”およびID書き込みの設定
- 新ページャー機能の“ON/OFF”
- ページャー/アンサー/バック機能の“ON/OFF”
- 個別コード(受信用)の設定
- 個別コード(送信用)の設定

照明に関する設定項目

- ディスプレイ、キーパッド照明の明るさ設定
- ディスプレイ、キーパッド照明モードの条件設定
- BUSY/TXインジケーターをライトとして使用する
- BUSY LEDの“ON/OFF”

キー/スイッチに関する設定項目

- ビープ音の“ON/OFF”
- ビープ音の音量設定
- バンドエッジ通過時のビープ音の“ON/OFF”
- [HM/RV]キーを[REV]キーにするかの選択
- ロック機能の設定
- モニタースイッチ/T-CALLスイッチ変更設定

受信に関する設定項目

- アッテネーターの“ON/OFF”
- RFスケルチの設定
- 受信モードの切り替え
- VFOモード時の周波数選択範囲の設定
- 周波数ステップの設定

その他の設定項目

- エマージェンシーモードの設定
- クロックシフトの“ON/OFF”
- 送信変調レベルの設定
- 電源電圧表示
- マイクゲインの設定
- オンタイマーの時間設定
- オープニングメッセージの設定
- パスワード機能の“ON/OFF”
- ビジーチャンネルロックアウトの“ON/OFF”
- CWトレーニング機能の“ON/OFF”
- PTTディレイタイムの設定
- VX-6内部の温度表示
- 高度表示の単位切り替えとオフセットの設定
- センサー表示の選択
- 気圧表示の単位切り替え

セットモード番号/表示選択できる項目

- | | |
|------------|-------------------------|
| 2 AR BEEP | IN/PNG/ALWAYS/OFF |
| 3 AR INT | 25/15 (SEC) |
| 23 EAI | ON/OFF |
| 24 EAI/TMR | 1~10/15/20/30/40/50 (M) |
| 14 CW ID | ON/OFF |
| 43 PAGER | ON/OFF |
| 44 PAGABK | ON/OFF |
| 45 PAGODR | 05 47 |
| 46 PAGODT | 05 47 |

セットモード番号/表示選択できる項目

- | | |
|-----------|--------------|
| 19 DIMMER | LVL 0~12 |
| 33 LAMP | KEY/CONT/OFF |
| 34 LED LT | — |
| 11 BSYLED | ON/OFF |

セットモード番号/表示選択できる項目

- | | |
|------------|------------------------------|
| 7 BEEP | ON/OFF |
| 9 BP LVL | LVL 1~9 |
| 25 EDGBEEP | ON/OFF |
| 28 HM/RV | HOME/REV |
| 35 LOCK | K+D/PTT/K+P/D+P/ALL/KEY/DIAL |
| 36 M/T-CL | MON/T-CALL |

セットモード番号/表示選択できる項目

- | | |
|-----------|--|
| 5 ATT | ON/OFF |
| 50 RF SQL | OFF/S1/S2/S3/S4/S5/S6/S8/S9+ |
| 52 RX MD | AUTO/NFM/AM/WFM |
| 71 VFO MD | ALL/BAND |
| 61 STEP | AUTO/5.0/10.0/12.5/15.0/20.0/25.0/50.0/100 (kHz) |

セットモード番号/表示選択できる項目

- | | |
|------------|---|
| 26 EMG S | BP+STR/BEAM/BP+BEM/CW/BP+CW/CWT/BEEP/STROBE |
| 13 CLKSFT | ON/OFF |
| 27 HLFDEV | ON/OFF |
| 16 DC VLT | — |
| 37 BP LVL | LVL 1~9 |
| 41 ON TMR | OFF/10M~24H |
| 42 OPNMSG | DC/MSG/OFF |
| 47 PSWD | ON/OFF |
| 6 BCLO | ON/OFF |
| 15 CWTRNG | OFF |
| 48 PTT.DLY | OFF/20, 50, 100, 200MS |
| 65 TEMP | — |
| 62 SU1.ALT | M/F, -512~+512 |
| 63 SU1.BRM | HP/MB/HG/IC, -512~+512 |
| 64 SU1.SET | OFF/BARO/ALTI |

セットモードの動作一覧

操作のしかた

- ① [W] を押して、続けて ② を押します。
- DIAL ツマミをまわして設定したい “機能” を選択します。
- ③ を押します。
- DIAL ツマミで、 “設定値” を選択します。
- ④ を押して確定します。
- PTT スイッチを押して終了です。



◎ 頻繁に使用するセットモードを、③ [DMM] に登録することにより、上記1. ~3の操作を省略することができま (プログラマブルキー機能: 54 参照)。

セットモードリセット

セットモードの設定だけを、工場出荷時の状態に戻すことができます。

ただし、次の項目はオールリセット(17ページ)をしない限り、リセットされません。

10 : BNK NM	13 : CLK SFT	14 : CW ID	17 : DCS CD	22 : DT SET	26 : EMG S
27 : HLF DEV	29 : INT CD	32 : INT SET	39 : NAME	40 : NM SET	43 : PAGER
45 : PAG.CDR	46 : PAG.CDT	51 : RPT	56 : SHIFT	57 : SKIP	60 : SQL.TYP
66 : TN FRQ					

- ① [MODE] ② [V/M] のキーを同時に押しながら電源をオンにします。
- ③ [W] を押すと、セットモードリセットは終了します。

リセット操作を中止したい場合は、PTT スイッチを押してください。

1 APO

オートパワーオフ (APO) の設定

設定項目 : OFF/30MIN/1, 3, 5, 8 HOUR

工場出荷時 : OFF

解説 : APO 時間(一定時間何も操作しないと、自動的に電源をオフにする時間)を設定します。APO 時間が設定されているときは、ディスプレイに “①” が表示されます。

ALWAYS : はじめて交信可能範囲内にいることが確認されたときおよび、はじめて交信可能範囲外になったときに、ビープ音を鳴らします。さらに、ARTS 信号を受信したときも、ビープ音が鳴ります。

2 AR BEP

ARTS モードの設定

設定項目 : IN RNG/ALWAYS/OFF

工場出荷時 : IN RNG

解説 :

OFF : ARTS動作時のビープ音をオフにします。

IN RNG : はじめて交信可能範囲内にいることが確認されたときおよび、はじめて交信可能範囲外になったときだけ、ビープ音を鳴らします。

3 AR INT

ARTS チェック間隔の設定

設定項目 : 25SEC/15SEC

工場出荷時 : 25SEC

解説 : ARTS動作時の、チェック間隔を設定します。

4 ARS

オートマチックレピータシフト (ARS) の設定

設定項目 : ON/OFF

工場出荷時 : ON

解説 : ARS(レピータの周波数に合わせるだけで自動的にレピータを使える状態になる)機能の動作を ON/OFF することができます。

5 ATT

アッテネーターの設定

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：受信感度を下げるアッテネーター(減衰量：10dB)をON/OFFすることができます。

6 BCLO

ビージーチャンネルロックアウトの設定

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：ビージーチャンネルロックアウト(BCLO：すでに使われている周波数での送信禁止)をON/OFFすることができます。

7 BEEP

ビープ音の“ON/OFF”

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：ON

解説：キー操作時などに鳴るビープ音をON/OFFすることができます。

8 BELL

ベル呼び出し音の設定

設定項目：OFF/1/3/5/8/CONT

工場出荷時：OFF

解説：ベル機能動作時の、呼び出し音が鳴る回数を設定します。

設定が“OFF”以外に設定されているときは“◆”が表示されます。

9 BP LVL

ビープ音の音量設定

設定項目：LVL 1～LVL 10

工場出荷時：LVL 5

解説：キー操作時などに鳴るビープ音の音量を設定します。

10 BNK NM

メモリーバンクに名前を付ける

解説：メモリーバンクに最大6桁の名前を付けることができます。名前の付けかたは、27ページを参照してください。

11 BSY.LED

BUSY LED の“ON/OFF”

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：ON

解説：受信時に点灯するBUSY インジケーター(BUSY LED)をON/OFFすることができます。

12 CH CNT

チャンネルカウンターのサーチ幅の設定

設定項目：± 5MHz / ± 10MHz / ± 50MHz / ± 100MHz

工場出荷時：± 5MHz

解説：チャンネルカウンターのサーチ幅を選択します。

13 CLK.SFT

クロックシフトの“ON/OFF”

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：マイコンのクロックを高調波による内部スプリアスとして受信された時は“ON”になります。

通常は“OFF”で使用してください。

14 CW ID

CWID の“ON/OFF”およびID書き込みの設定

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：ARTS/EA/エマージェンシー機能などを使用しているときに動作する、CWによるID送出を設定します。

CW IDの設定方法は60ページの“CW IDの設定”を参照してください。

CWでIDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2Aの電波型式の免許が必要です。

15 CWTRNG

CWトレーニング機能

解説：ランダムなモールス符号をスピーカーで鳴らし、その音に合わせてTX/BUSY インジケーターが点滅しさらに、そのモールス符号をディスプレイに表示させることができます。CWトレーニング機能の設定を行います。

CWトレーニング機能については61ページを参照してください。

16 DC VLT

電源電圧表示

解説：ディスプレイに電源電圧を表示します。

17 DCS CD

DCS コードの設定

設定項目：023～754(104種類)

工場出荷時：023

解説：104種類の中から選択することができます。

選択できるDCS コード							
023	071	143	225	266	356	452	532
025	072	145	226	271	364	454	546
026	073	152	243	274	365	455	565
031	074	155	244	306	371	462	606
032	114	156	245	311	411	464	612
036	115	162	246	315	412	465	624
043	116	165	251	325	413	466	627
047	122	172	252	331	423	503	631
051	125	174	255	332	431	506	632
053	131	205	261	343	432	516	654
054	132	212	263	346	445	523	662
065	134	223	265	351	446	526	664

18 DCS RV

DCS 反転コード受信の許可 / 禁止

設定項目：DISABL(禁止) / ENABLE(許可)

工場出荷時：DISABL

解説：ENABLEを選択すると、位相の反転したDCSコードを受信することができます。

19 DIMMER

バックライト，キー照明の輝度調整

設定項目：LVL 0～LVL 12

工場出荷時：LVL 7

解説：ディスプレイのバックライトとキーパッド照明の輝度を調節します。

20 DMR.WRT

DMR 登録周波数変更の許可 / 禁止

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：ON

解説：OFFにすると、ダイレクトメモリーコール機能の登録周波数を変更できなくなります。

21 DT A/M

DTMFメモリーの送出設定

設定項目：MANUAL/AUTO

工場出荷時：MANUAL

解説：

MANUAL：マニュアルでDTMFコードを送出します。送出方法は53ページを参照してください。

AUTO：セットモード『22 DT SET』にて、DTMFメモリー(全10チャンネル)にDTMFコード登録しておくことにより、オートでDTMFコードを送出することができます。送出方法は53ページを参照してください。

22 DT SET

DTMFオートダイラーのチャンネルおよび、コード(16桁)の設定

解説：DTMFコード(16桁以内)をDTMFメモリーCH0～CH9に登録します。

登録方法は53ページを参照してください。

23 EAI

EAI機能の“ON/OFF”

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：EAI機能をON/OFFすることができます。

24 EAI.TMR

EAI機能の間欠送信時間設定

設定項目：1～10/15/20/30/40/50(M)

工場出荷時：5M

解説：EAI機能の間欠送信時間を設定します。

25 EDG.BEP

バンドエッジ通過時のビープ音設定

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：DIAL ツマミで周波数選択時およびメモリースキヤン時に、バンドエッジやメモリーチャンネル1を通過したときのビープ音をON/OFFすることができます。

26 EMG S

エマージェンシーモードの設定

設定項目 : BP+STR/BEAM/BP+BEM/CW/
BP+CW(SOS)/CWT/BP+CWT(SOS)/BEEP/
STROBE

工場出荷時 : BP+STR

解説 : エマージェンシーモード動作時の、ビープ音とストロボ動作の設定を変更することができます。

BP+STR : ビープ音が鳴り、TX/BUSY インジケーターが白色で点滅します。

BEAM : TX/BUSY インジケーターが、白色で点灯し続けます。

BP+BEM : ビープ音が鳴り、TX/BUSY インジケーターが、白色で点灯し続けます。

CW : TX/BUSY インジケーターが、モールス符号で「SOS*」と白色で点滅します。

BP+CW : ビープ音がモールス符号で「SOS*」と鳴り、同時に音に合わせて TX/BUSY インジケーターが白色で点滅します。

CWT : 1分毎にCWIDを送信し、同時に音に合わせて TX/BUSY インジケーターが白色で点滅します。

BEEP : ビープ音が鳴ります。

STROBE : TX/BUSY インジケーターが白色で点滅します。

※SOSのメッセージは、希望のメッセージに変更することができます(47ページ参照)。

27 HLF.DEV

送信変調レベルの設定

設定項目 : ON/OFF

工場出荷時 : OFF

解説 : 送信変調度が通常の約半分になります。通常は“OFF”的まで使用してください。

28 HM/RV

[HM/RV]キーを[REV]キーにするかの選択

設定項目 : HOME/REV

工場出荷時 : HOME

解説 :

HOME : ホームチャンネルの呼び出しとして動作します。

REV : リバース設定として動作します。

29 INT CD

インターネットモードで使用するDTMFコードの設定

設定項目 : DTMF 0～9, A～F

工場出荷時 : DTMF 1

解説 : WiRES の SRG 方式で使用する DTMF コードを指定します。インターネットモードの時に PTT を押すと、ここで指定した DTMF コードが送出されます。

30 INT MD

インターネットモードの設定

設定項目 : SRG/FRG

工場出荷時 : FRG

解説 :

SRG : WiRES の SRG 方式を使用するときに選択します。

FRG : WiRES の FRG 方式を使用するときに選択します。

31 INT.A/M

インターネットモード時のDTMFメモリーの送出設定

設定項目 : MANUAL/AUTO

工場出荷時 : MANUAL

解説 :

MANUAL : マニュアルで DTMF コードを送出します。送出方法は 53 ページを参照してください。

AUTO : セットモード『32 INT.SET』にて、WiRES 専用 DTMF コードメモリー(全 64 チャンネル)に DTMF コード登録してあくことにより、オートで DTMF コードを送出することができます。送出方法は 19 ページを参照してください。

32 INT.SET

インターネットモードで使用するコード設定

設定項目 : F 0 ~ F 63

工場出荷時 : F 1

解説 : インターネットモード時、送信開始時に出力されるコードを設定することができます。

33 LAMP

ディスプレイ、キーパッド照明モードの設定

設定項目 : KEY/CONT/OFF

工場出荷時 : KEY

解説 :

KEY : キーやDIAL を操作をすると自動的に点灯し、キーやDIAL の操作を終了すると、約 5 秒後に自動的に消灯します。

CONT : 連続点灯します。

OFF : 照明の点灯をオフにします。

34 LED LT

BUSY/TX インジケーターをライトとして使用する

解説 : BUSY/TX インジケーターを白色に点灯させることができます。

35 LOCK

ロック機能の設定

設定項目 : KEY/DIAL/K+D/PTT/K+P/D+P/

ALL

工場出荷時 : K+D

解説 :

KEY : キーボードの動作をロックします。

DIAL : DIAL ツマミの動作をロックします。

K+D : キーボードと DIAL ツマミの動作をロックします。

PTT : PTT スイッチをロックして、送信禁止にします。

K+P : PTT スイッチとキーボードの動作をロックします。

D+P : PTT スイッチと DIAL ツマミの動作をロックします。

ALL : PTT スイッチ、キーボード、DIAL ツマミの動作をロックします。

36 M/T-CL

モニタースイッチ / T-CALL スイッチ変更設定

設定項目 : MONI/T-CALL

工場出荷時 : MONI

解説 :

MONI : モニターとして動作します。

T-CALL : トーンコールとして動作します。

37 MCGAIN

マイク入力レベルを調節することができます。

設定項目 : LVL 1 ~ 9

工場出荷時 : LVL 5

解説 : マイクの感度を設定することができます。数字が大きくなるほど、高感度になります。

38 MW MD

メモリー書き込み時のオートインクリメント 設定

設定項目 : NEXT / LOWER

工場出荷時 : NEXT

解説 :

NEXT : 以前書き込んだメモリー番号の次の番号を表示します。メモリーチャンネルを最小チャンネルから順番にメモリーしてないときや、メモリーパンクを利用してメモリーしてある場合に便利です。

LOWER : メモリーを最小チャンネルから順番に書き込んだとき、未書き込みの最小チャンネルを表示します。

39 NAME

メモリーの表示切り替え選択

設定項目 : ALPHA/FREQ

工場出荷時 : FREQ

解説 :

ALPHA : メモリーチャンネルにつけた名前を表示します。

FREQ : メモリーチャンネルの周波数を表示します。

40 NM SET

メモリーに名前をつける

解説：メモリーチャンネルに、最大 6 枠の名前をつけることができます。

1. 名前をつけたいメモリーを呼び出す。
2. セットモード「40:NM SET」を呼び出して **[0]** を押す。
3. DIAL ツマミで文字を選ぶ。
4. **[MODE]** で次の桁に移る。
5. 3. ～4. を繰り返す。
6. PTT スイッチを押して終了。

41 ON TMR

オンタイマー機能の設定

設定項目：OFF/10M～24H

工場出荷時：OFF

解説：指定した時間電源オフの状態が続くと、自動的に電源を“オン”にすることができます。

42 OPN.MSG

オープニングメッセージの設定

設定項目：DC/MSG/OFF

工場出荷時：DC

解説：

DC：電源電圧を表示します。

MSG：6 枠のメッセージを表示することができます。メッセージの登録は下記の方法で行なってください。

OFF：電源電圧またはメッセージの表示を OFF にします。

メッセージの登録方法

1. セットモード「42:OPN.MSG」を呼び出して **[0]** を押す。
2. DIAL ツマミで “MSG” にあわせて **[MODE]** を押す。
3. DIAL ツマミで文字を選ぶ。
4. **[MODE]** で次の桁に移る。
5. 3. ～4. を繰り返す(最大 6 文字)。
6. PTT スイッチを押して終了。

43 PAGER

新ページャー機能の“ON/OFF”

設定項目：OFF/ON

工場出荷時：OFF

解説：新ページャー機能や EAI 機能を動作させるときにオンにします。

44 PAG.ABK

ページャーアンサーバック機能の“ON/OFF”

設定項目：OFF/ON

工場出荷時：OFF

解説：新ページャー機能動作時、呼び出しを受けたときに、自動的に約2.5秒間送信することができます。

45 PAG.CDR

個別コード(受信用)の設定

設定項目：01～50

工場出荷時：05 47

解説：新ページャー機能や EAI 機能を使用する際の個別コードを設定します。

46 PAG.CDT

個別コード(送信用)の設定

設定項目：01～50

工場出荷時：05 47

解説：新ページャー機能や EAI 機能を使用する際、呼び出したい相手局の個別コードを設定します。

47 PSWD

パスワード機能の“ON/OFF”

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：正しいパスワードを入力しないと、電源をオンにすることができない“パスワード機能”を ON/OFF します。

詳細は、54 ページを参照してください。

48 PTT.DLY

PTT ディレイタイムの設定

設定項目：OFF/20MS/50MS/100MS/200MS

工場出荷時：OFF

解説：PTT スイッチを押してから、実際に電波が送信されるまでの時間を設定します。

49 RESUME

スキャンレジュームの設定

設定項目：3SEC/5SEC/10SEC/BUSY/HOLD

工場出荷時：5SEC

解説：

3SEC：スキャン停止後、約3秒経過すると

スキャンを再開します。

5SEC：スキャン停止後、約5秒経過すると

スキャンを再開します。

10SEC：スキャン停止後、約10秒経過すると

スキャンを再開します。

BUSY：信号がなくなるまで受信し、信号が

なくなるとスキャンを再開します。

HOLD：スキャンを中止して、その周波数を

受信し続けます。

50 RF SQL

RFスケルチの設定

設定項目：OFF/S1/S2/S3/S4/S5/S6/S8/S9+

工場出荷時：OFF

解説：

S1： Sメーターが“1”以上の信号の音声を出力します。

S2： Sメーターが“2”以上の信号の音声を出力します。

S3： Sメーターが“3”以上の信号の音声を出力します。

S4： Sメーターが“4”以上の信号の音声を出力します。

S5： Sメーターが“5”以上の信号の音声を出力します。

S6： Sメーターが“6”以上の信号の音声を出力します。

S7： Sメーターが“7”以上の信号の音声を出力します。

S8： Sメーターが“8”以上の信号の音声を出力します。

S9： Sメーターが“9”以上の信号の音声を出力します。

S9+： Sメーターが“フルスケール”以外の信号の音声は出力しません。

OFF： RFスケルチ機能はオフになります。

51 RPT

レピータシフト方向の設定

設定項目：SIMP/ -RPT/ +RPT

工場出荷時：SIMP

解説：

SIMP： シフト無し

-RPT：マイナス方向

+RPT：プラス方向

52 RX MOD

受信モードの切り替え

設定項目：AUTO/N-FM/AM/W-FM

工場出荷時：AUTO

解説：モード(電波型式)を変更することができます。AUTOに設定しておくと、自動的に周波数帯に適したモードに切り換わります。

53 RXSAVE

受信セーブ時間の設定

設定項目：OFF/200MS/300MS/500MS/1S/2S

工場出荷時：200MS

解説：受信セーブのときは“SAVE”が点滅します(信号受信中は点灯)。

200MS(1:1)： 0.2秒受信して0.2秒セーブ

300MS(1:1.5)： 0.2秒受信して0.3秒セーブ

500MS(1:2.5)： 0.2秒受信して0.5秒セーブ

1S(1:5)： 0.2秒受信して1秒セーブ

2S(1:10)： 0.2秒受信して2秒セーブ

OFF： 受信セーブはオフになります。

54 S SRCH

スマートサーチ動作モードの設定

設定項目：SINGLE/CONT

工場出荷時：SINGLE

解説：

SINGLE：1回だけサーチします

CONT：スマートメモリーがいっぱいになるまで、繰り返しサーチします。

55 SCN.LMP

スキャンストップ時のランプ点灯

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：ON

解説：スキャンがストップしたときの照明の点灯をON/OFFすることができます。

56 SHIFT

レピータシフト幅の設定

設定項目：0～150.00M

工場出荷時：5MHz(430MHz帯)

解説：レピータのシフト幅を設定します。
430MHz帯以外の周波数帯は0MHzに設定してあります。

57 SKIP

スキップメモリーチャンネルの選択

設定項目：OFF/SKIP/ONLY

工場出荷時：OFF

解説：

SKIP：メモリースキャン時に、スキヤンする必要のないメモリーチャンネルを指定します。

ONLY：メモリースキャン時に、スキヤンしないメモリーチャンネルを指定します。

OFF：スキップメモリーまたは特定メモリーをオフにします。

58 SPLIT

送受信個別のスケルチタイプの選択

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：送信と受信で別々のスケルチタイプを設定することができます。ONにするとセットモード“60:SQL.TYP”に、D CODE, T DCS, D TONE の設定項目が追加されます。

D CODE：送信のみDCSコードを送出します（“DCS”が点滅）。

T DCS：送信時にトーン信号を出し、受信時にDCSコードで待ち受けします（“T”が点滅“DCS”が点灯）。

D TONE：送信時にDCSコードを出し、受信時にトーン信号で待ち受けします（“T SQ”が点灯“DCS”が点滅）。

59 SQL

FM/AM/WFMのスケルチレベル設定

設定項目：FM/AM；LVL 0～LVL 15

WFM；LVL 0～LVL 8

工場出荷時：FM/AM；LVL 1

WFM；LVL 2

解説：受信しているモードのスケルチレベルを設定します。数字が大きくなるほどスケルチが深くなります。

60 SQL.TYP

トーンスケルチ/DCSの選択

設定項目：OFF/TONE/TSQ/DCS/RV TN

工場出荷時：OFF

解説：

OFF：トーン送出、スケルチともにオフにします。

TONE：トーン送出のみを行います（“T”が点灯）。

TSQ：トーンスケルチをオンにします。こちらで設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます（“T SQ”が点灯）。

DCS：デジタルコードスケルチをオンにします。こちらで設定しているDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます（“DCS”が点灯）。

RV TN：リバーストーン動作をオンにします。通話がないときにトーン信号が含まれ、通話を始めるとトーン信号が消えるスケルチ制御方式の通信を受信するときに使用します（“T SQ”が点滅）。

61 STEP

周波数ステップの設定

設定項目：AUTO/5.0/6.25/9.10/12.5/15/20/25/50/100 (kHz)

工場出荷時：AUTO

解説：ステップ幅(DIAL ツマミで周波数選択時に1クリックで変化する周波数とVFOスキャン時の周波数変化量)を設定します。工場出荷時の状態では周波数帯ごとに最適値が設定されていますので、通常はそのままお使いいただけます。

504kHz～1.791MHzは“9kHz”または“10kHz”的み選択できます。また“9kHz”ステップは504kHz～1.791MHzのみ選択できます。

700MHz～999.990MHzの周波数には、5kHzステップと15kHzステップの設定をすることができます。

62 SU1.ALT

高度表示の単位切り替えとオフセットの設定

設定項目：M(メートル)/F(フィート)

オフセットは、-512～+512

※SU-1が装着されていないときは、OFFが表示され、設定を行うことはできません。

工場出荷時：M(メートル)、オフセットは“0”

解説：[MODE] を押すたびに、高度の表示単位をM(メートル)またはF(フィート)に切り替えることができます。

また、表示された値が実際の高度と異なる場合は、[FW] を押した後にDIAL ツマミをまわすことにより“-512～+512”の範囲で補正することができます。

63 SU1.BRM

気圧表示の単位切り替え

設定項目：HP(ヘクトパスカル)/MB(ミリバール)/HG(mmHg)/IC(インチ)

オフセットは-512～+512

※SU-1が装着されていないときは、OFFが表示され、設定を行うことはできません。

工場出荷時：HP、オフセットは“0”

解説：[MODE] を押すたびに、気圧表示の単位を切り替えることができます。

また、表示された値が実際の気圧と異なる場合は、[FW] を押した後にDIAL ツマミをまわすことにより“-512～+512”の範囲で補正することができます。

64 SU1.SET

センサー表示の選択

設定項目：OFF/BARO/ALTI

工場出荷時：OFF

解説：

OFF：センサー表示をオフにします。

BARO：気圧を表示します*。

ALTI：高度を表示します*。

* オプションの気圧センサユニット“SU-1”を取り付けると表示されます。

65 TEMP

温度表示

解説：VX-6 内部の温度を表示します。

温度上昇のない状況(待ち受け受信時など)では、外気温の目安とすることができます。

66 TN FRQ

トーン周波数の設定

設定項目：67.0～254.1Hz(50種類)

工場出荷時：88.5Hz

解説：50種類のトーン周波数から選択することができます(下表参照)。

選択できるトーン周波数(1Hz)							
67.0	85.4	107.2	136.5	165.5	186.2	210.7	254.1
69.3	88.5	110.9	141.3	167.9	189.9	218.1	—
71.9	91.5	114.8	146.2	171.3	192.8	225.7	—
74.4	94.8	118.8	151.4	173.8	196.6	229.1	—
77.0	97.4	123.0	156.7	177.3	199.5	233.6	—
79.7	100.0	127.3	159.8	179.9	203.5	241.8	—
82.5	103.5	131.8	162.2	183.5	206.5	250.3	—

67 TOT

タイムアウトタイマー(TOT)の設定

設定項目：OFF/1, 3, 5, 10MIN

工場出荷時：OFF

解説：タイムアウトタイマー(TOT：連続送信時間の制限)の時間を設定します。

68 TS MUT

トーンサーチ時の音声出力設定

設定項目：OFF/ON

工場出荷時：ON

解説：

ON：トーン周波数が一致したときだけ音声を出力させます。

OFF：トーンサーチ中は、トーン周波数に関係なく音声を出力させます。

69 TS SPD

トーンサーチ時のサーチスピードの設定

設定項目：SLOW/FAST

工場出荷時：FAST

解説：トーン周波数をサーチするスピードを切り替えることができます。

FAST：速い

SLOW：遅い

70 TXSAVE

送信セーブ設定

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：送信セーブ機能をONにすると、相手局の信号強度がフルスケールの場合、自動的に送信出力が下がります(HIGHとLOW3パワーのときはLOW2パワーに、LOW2パワーのときはLOW1パワーに下がります)。

71 VFO MD

VFO モード時の周波数選択範囲の設定

設定項目：BAND/ALL

工場出荷時：ALL

解説：VFO モード時の周波数選択範囲を設定します。

ALL： バンドエッジに達すると、次のバンドに切り替わります。

BAND： バンドエッジに達すると、現在のバンドの他端に移ります。

72 WAKEUP

ウェイクアップ機能時の信号確認時間の設定

設定項目：OFF/5, 10, 20, 30SEC/EAI

工場出荷時：OFF

解説：自動的に信号の有無を確認する間隔(時間)を設定することができます。

OFF： ウェイクアップ機能の動作はオフになります。

5SEC： 5秒毎に信号の有無を確認します。

10SEC： 10秒毎に信号の有無を確認します。

20SEC： 20秒毎に信号の有無を確認します。

30SEC： 30秒毎に信号の有無を確認します。

EAI： 5秒毎にEAI専用メモリーチャンネルの信号の有無を確認します。

73 TR SQL

鉄道無線空線スケルチの選択

設定項目：OFF/JR FRQ/PR FRQ

工場出荷時：OFF

解説：JRとJR以外の空線スケルチを選択することができます。

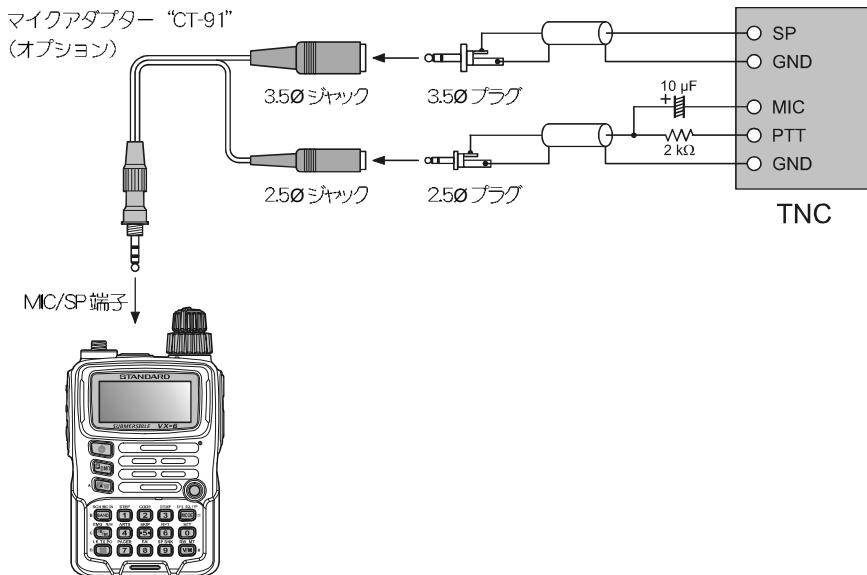
JR： 2280Hzの空線信号を含んだJR鉄道無線を受信するときに、設定します。

PR FRQ： 空線信号の周波数を100Hzステップで300Hz～3000Hzまで設定することができます(工場出荷時は1600Hz)。周波数の設定方法は31ページを参照してください。

OFF： 空線スケルチ機能をオフにします。

パケット通信を使う

オプションのマイクアダプター(CT-91)を使用すると、お手持ちのTNC(ターミナルノードコントローラー)を接続してパケット通信を行うことができます。



接続後、VOL ツマミをまわして、VX-6 から TNC への出力レベルを調節してください。

また、TNC から VX-6 への入力レベル調節は、TNC 側の出力レベル調節用ボリュームまたは、セットモード [37 : MCGAIN] (70 ページ参照) で調節してください。

- ◎ 大量のデータを転送するときには送信時間が長くなり、本機の発熱が大きくなります。
長時間送信し続けると、過熱防止回路が作動して送信出力が下がります。さらに送信を続けると、過熱による故障を防ぐために、送信が中止されて受信状態になります。
過熱防止回路が作動して受信状態になったときには、電源をオフまたは受信状態のまま、温度が下がるまでお待ちください。
- ◎ パケット通信時には受信セーブ機能はオフに設定してください (セットモードの [53 : RXSAVE] 72 ページ参照)。
- ◎ パーソナルコンピューターで発生する雑音によって、受信が妨害される場合があります。
正常に受信できない場合は、パーソナルコンピューターを VX-6 から離し、フォトカプラーやノイズフィルターを介して接続してください。
- ◎ TNC とパーソナルコンピューターの接続方法については、ご使用になる TNC の取扱説明書等をご覧ください。

クローン操作

VX-6 同士を接続することにより、メモリー内容や各種設定内容をコピーすることができます。

1. 2台のVX-6 の電源をオフにします。
2. 自作のクローンケーブル(下図参照)を、オプションのマイクアダプター“CT-91”を使って、MIC/SP 端子に差し込み、VX-6 同士を接続します(下図参照)。
3. **[W]** を押しながら電源をオンにします。

ディスプレイに “CLONE” が表示され、クローンモードになります。

4. 受け側の **[VM]** を押します。

ディスプレイに “...W~~R~~IT...” が表示されます。

5. 続いて送り側の **[EAND]** を押します。

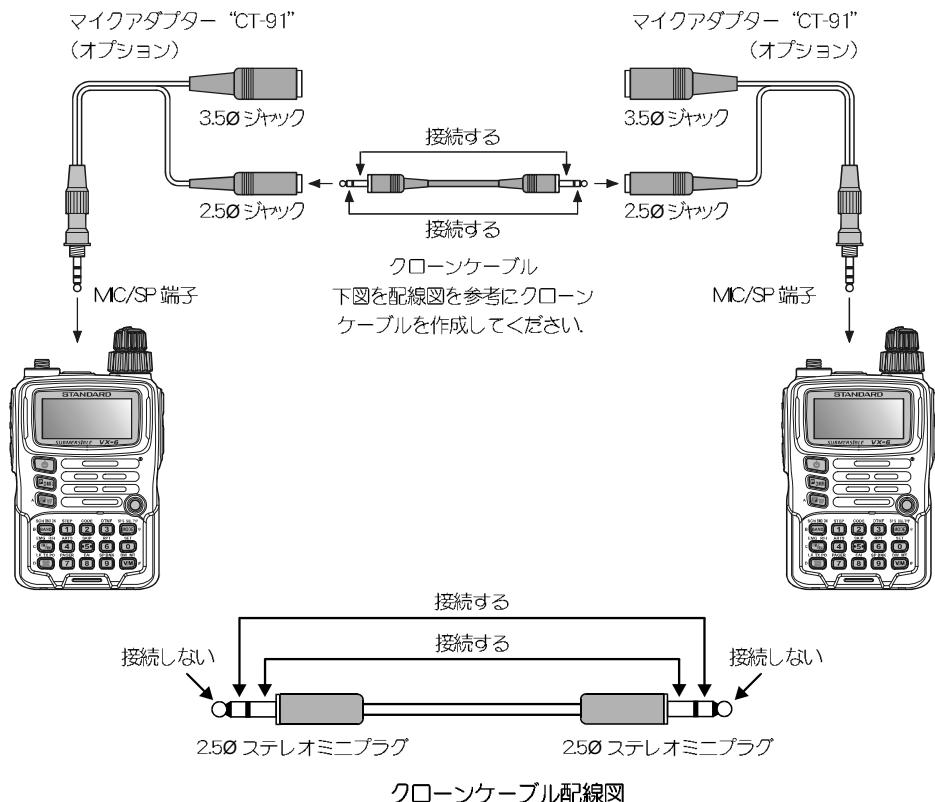
ディスプレイに “...T~~R~~...” が表示され、受け側の表示が “...R~~T~~...” に変わります。コピーが終了すると、送り側の表示は “CLONE” に戻り、受け側の表示は、送り側と同じ表示(クローンモードに入る前の表示)に変わります。

6. 電源をオフにし、クローンケーブルを外します。

◎ データの転送中に “ERROR” が表示された場合はエラーです。

クローンケーブルの接続を確認してもう一度やりなおしてください。

◎ 仕様の異なるVX-6間でのクローンはできません。詳しくは、当社カスタマーサポートまでご相談ください。



付 錄

プリセットされている放送局周波数一覧表

『スペシャルバンクにプリセットされている世界各地の放送 AM/FM ラジオ、TV 放送を聞く』の項目で放送局を呼び出したときの一覧表です。

- ⑨ を押した後に ⑨ を押します。
- スペシャルバンクの表示になりますので、⑨ を押して「RADIO」を選択します。
- DIAL ツマミをまわしてリストチャンネルを合わせると、各放送局を呼び出すことができます。

リスト チャンネル	周波数 (MHz)	E-T	表示	放送局名	国/地方	リスト チャンネル	周波数 (MHz)	E-T	表示	放送局名	国/地方
1	6.030	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	30	9.925	AM	BELGUM	Radio Vlaanderen International	ベルギー
2	6.160	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	31	11.780	AM	BELGUM	Radio Vlaanderen International	ベルギー
3	9.760	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	32	13.740	AM	BELGUM	Radio Vlaanderen International	ベルギー
4	11.930	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	33	5.955	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
5	5.995	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	34	6.020	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
6	7.235	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	35	9.895	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
7	9.735	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	36	11.655	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
8	11.955	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	37	9.590	AM	DENMRK	Radio Denmark	デンマーク
9	6.195	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	38	9.985	AM	DENMRK	Radio Denmark	デンマーク
10	9.410	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	39	13.800	AM	DENMRK	Radio Denmark	デンマーク
11	12.095	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	40	15.735	AM	DENMRK	Radio Denmark	デンマーク
12	15.310	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	41	9.780	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
13	6.045	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	42	11.960	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
14	9.790	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	43	15.555	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
15	11.670	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	44	21.655	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
16	15.525	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	45	7.270	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
17	3.955	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	46	9.520	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
18	6.075	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	47	11.920	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
19	9.545	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	48	15.585	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
20	9.735	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	49	6.090	AM	LUXBRG	Radio Luxembourg	ルクセンブルク
21	6.060	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	50	7.485	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
22	7.175	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	51	9.590	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
23	9.515	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	52	9.985	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
24	17.710	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	53	13.800	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
25	3.985	AM	SWISS	Swiss Radio International	スイス	54	6.065	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
26	6.165	AM	SWISS	Swiss Radio International	スイス	55	9.490	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
27	9.885	AM	SWISS	Swiss Radio International	スイス	56	13.625	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
28	15.220	AM	SWISS	Swiss Radio International	スイス	57	17.505	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
29	5.985	AM	BELGUM	Radio Vlaanderen International	ベルギー	58	6.120	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド

- ◎ AMラジオ放送のバンドを受信するときは、市販の外部アンテナの取り付けをおすすめします。
- ◎ 受信する時間帯や電波の状態が悪いときは、受信できない場合があります。
- ◎ 各放送局は下表以外にも受信できる周波数があります。詳しくは市販されている周波数帳などを参考にしてください。
- ◎ 本機で受信できるテレビ放送(音声)は、アナログテレビ放送の音声で、デジタル放送の音声を聞くことはできません。

アナログテレビ放送は2011年7月24日に終了しましたのでテレビ音声を聞くことはできません。

リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
59	9.630	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド	89	12.080	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア
60	11.755	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド	90	0.567	AM	NHK-1	NHK第1札幌	北海道
61	9.795	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド	91	0.747	AM	NHK-2	NHK第2札幌	北海道
62	5.940	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	92	1.287	AM	HBC	北海道放送	北海道
63	5.920	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	93	1.440	AM	STV	STVラジオ	北海道
64	7.205	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	94	80.400	WFM	AIR-G	FM北海道	北海道
65	12.030	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	95	82.500	WFM	NR-WAV	FMノースウェーブ	北海道
66	9.435	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	96	85.200	WFM	NHK-SP	NHK-FM札幌	北海道
67	11.585	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	97	95.750	WFM	TV-1CH	北海道放送	北海道
68	15.615	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	98	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	北海道
69	17.545	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	99	181.750	WFM	TV-5CH	STV	北海道
70	6.045	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	100	221.750	WFM	TV12CH	NHK教育	北海道
71	9.595	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	101	499.750	WFM	TV17CH	テレビ北海道	北海道
72	11.620	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	102	559.750	WFM	TV27CH	北海道文化放送	北海道
73	15.020	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	103	607.750	WFM	TV35CH	北海道テレビ放送	北海道
74	7.190	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	104	1.233	AM	RAB	青森放送	東北
75	5.250	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	105	80.000	WFM	AFB	FM青森	東北
76	9.855	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	106	0.684	AM	IBC	岩手放送	東北
77	11.685	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	107	76.100	WFM	FMI	FM岩手	東北
78	5.975	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	108	0.936	AM	ABS	秋田放送	東北
79	7.275	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	109	82.800	WFM	AFM	FM秋田	東北
80	9.570	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	110	0.918	AM	YBC	山形放送	東北
81	13.670	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	111	80.400	WFM	BOY-FM	FM山形	東北
82	6.155	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	112	1.458	AM	RFC	ラジオ福島	東北
83	7.200	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	113	81.800	WFM	FMF	ふくしまFM	東北
84	9.750	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	114	0.891	AM	NHK-1	NHK第1仙台	東北
85	11.850	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	115	1.089	AM	NHK-2	NHK第2仙台	東北
86	5.995	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア	116	1.260	AM	TBC	東北放送	東北
87	9.580	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア	117	77.100	WFM	DAT-FM	FM仙台	東北
88	9.660	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア	118	82.500	WFM	NHK-SD	NHK-FM仙台	東北

リット チャネル	周波数 (MHz)	E-T'	表示	放送局名	国/地方	リット チャネル	周波数 (MHz)	E-T'	表示	放送局名	国/地方
119	95.750	WFM	TV-1CH	東北放送	東北	158	86.300	WFM	FM-GNM	FMぐんま	関東
120	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	東北	159	95.750	WFM	TV-1CH	NHK総合テレビ	関東
121	181.750	WFM	TV-5CH	NHK教育	東北	160	107.750	WFM	TV-3CH	NHK教育テレビ	関東
122	221.750	WFM	TV12CH	仙台放送	東北	161	175.750	WFM	TV-4CH	日本テレビ	関東
123	589.750	WFM	TV32CH	東日本放送	東北	162	187.750	WFM	TV-6CH	TBS	関東
124	601.750	WFM	TV34CH	宮城テレビ放送	東北	163	197.750	WFM	TV-8CH	フジテレビ	関東
125	1.116	AM	BSN	新潟放送	信越	164	209.750	WFM	TV10CH	テレビ朝日	関東
126	77.500	WFM	FM-NIG	FM新潟	信越	165	221.750	WFM	TV12CH	テレビ東京	関東
127	1.098	AM	SBC	信越放送	信越	166	481.750	WFM	TV14CH	MX-TV	関東
128	79.700	WFM	FM-NGN	FM長野	信越	167	493.750	WFM	TV16CH	放送大学	関東
129	0.738	AM	KNB	北日本放送	北陸	168	625.750	WFM	TV38CH	テレビ埼玉	関東
130	82.700	WFM	FM-TYM	FMとやま	北陸	169	649.750	WFM	TV42CH	TVK	関東
131	1.107	AM	MRO	北陸放送	北陸	170	673.750	WFM	TV46CH	千葉テレビ	関東
132	80.500	WFM	FM-ISK	FM石川	北陸	171	685.750	WFM	TV48CH	群馬テレビ	関東
133	0.864	AM	FBC	福井放送	北陸	172	0.729	AM	NHK-1	NHK第1名古屋	東海
134	76.100	WFM	FM-FKI	FM福井	北陸	173	0.909	AM	NHK-2	NHK第2名古屋	東海
135	0.594	AM	NHK-1	NHK第1東京	関東	174	1.053	AM	CBC	CBCラジオ	東海
136	0.693	AM	NHK-2	NHK第2東京	関東	175	1.332	AM	TOKAI	東海ラジオ放送	東海
137	0.765	AM	YBS	山梨放送	関東	176	1.431	AM	GIFU	岐阜ラジオ	東海
138	0.810	AM	AFN	AFN東京	関東	177	77.800	WFM	ZIP-FM	FM名古屋	東海
139	0.954	AM	TBS	TBS	関東	178	78.900	WFM	FM-MIE	FM三重	東海
140	1.134	AM	BUNKA	文化放送	関東	179	79.500	WFM	RADIOI	愛知国際放送	東海
141	1.197	AM	IBS	茨城放送	関東	180	80.000	WFM	RAD-80	岐阜FM	東海
142	1.242	AM	NIPPON	ニッポン放送	関東	181	80.700	WFM	FMA	FM愛知	東海
143	1.422	AM	RF-NPN	RFラジオ日本	関東	182	82.500	WFM	NHK-NY	NHK-FM名古屋	東海
144	1.530	AM	CRT	栃木放送	関東	183	95.750	WFM	TV-1CH	東海テレビ	東海
145	76.100	WFM	INT-FM	Inter FM	関東	184	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合テレビ	東海
146	76.400	WFM	R-BERY	FM栃木	関東	185	181.750	WFM	TV-5CH	中部日本放送	東海
147	77.100	WFM	FM-UNV	放送大学	関東	186	203.750	WFM	TV-9CH	NHK教育テレビ	東海
148	78.000	WFM	BAY-FM	BAY FM	関東	187	215.750	WFM	TV11CH	名古屋テレビ	東海
149	78.600	WFM	FM-FUJ	FM富士	関東	188	547.750	WFM	TV25CH	テレビ愛知	東海
150	79.500	WFM	NACK-5	NACK 5	関東	189	607.750	WFM	TV35CH	中京テレビ	東海
151	80.000	WFM	TYO-FM	TOKYO FM	関東	190	1.404	AM	SBS	静岡放送	東海
152	80.700	WFM	NHK-CB	NHK-FM千葉	関東	191	76.100	WFM	FM-HAR	浜松FM放送	東海
153	81.300	WFM	J-WAVE	J-WAVE	関東	192	79.200	WFM	K-MIX	静岡FM放送	東海
154	81.900	WFM	NHK-YK	NHK-FM横浜	関東	193	0.558	AM	AM-KOB	ラジオ関西	近畿
155	82.500	WFM	NHK-TY	NHK-FM東京	関東	194	0.666	AM	NHK-1	NHK第1大阪	近畿
156	84.700	WFM	FM-YKH	FMヨコハマ	関東	195	0.828	AM	NHK-2	NHK第2大阪	近畿
157	85.100	WFM	NHK-UW	NHK-FMさいたま	関東	196	1.008	AM	ABC	朝日放送	近畿

リスト チャンネル	周波数 (MHz)	エ-ト-	表示	放送局名	国/地方	リスト チャンネル	周波数 (MHz)	エ-ト-	表示	放送局名	国/地方
197	1.143	AM	KBS	京都放送	近畿	236	79.200	WFM	FMY	FM山口	中国
198	1.179	AM	MBS	毎日放送	近畿	237	1.449	AM	RNC	西日本放送	四国
199	1.314	AM	OBC	大阪放送	近畿	238	78.600	WFM	FM-KGW	FM香川	四国
200	76.500	WFM	FM-CCL	関西インター・メディア	近畿	239	1.116	AM	RNB	南海放送	四国
201	80.200	WFM	FM-802	FM802	近畿	240	79.700	WFM	FM-EHM	FM愛媛	四国
202	82.800	WFM	NHK-KT	NHK-FM京都	近畿	241	1.269	AM	JRT	四国放送	四国
203	85.100	WFM	FM-OSK	FM大阪	近畿	242	80.700	WFM	FM-TKS	FM徳島	四国
204	86.500	WFM	NHK-KB	NHK-FM神戸	近畿	243	0.900	AM	RKC	高知放送	四国
205	88.100	WFM	NHK-OS	NHK-FM大阪	近畿	244	81.600	WFM	FM-KCH	FM高知	四国
206	89.400	WFM	A-STN	FM京都	近畿	245	0.612	AM	NHK-1	NHK第1福岡	九州
207	89.900	WFM	KIS-FM	兵庫FMラジオ放送	近畿	246	1.017	AM	NHK-2	NHK第2福岡	九州
208	101.750	WFM	TV-2CH	NHK総合	近畿	247	1.278	AM	RKB	RKB毎日放送	九州
209	175.750	WFM	TV-4CH	毎日放送	近畿	248	1.413	AM	KBC	九州朝日放送	九州
210	187.750	WFM	TV-6CH	朝日放送	近畿	249	76.100	WFM	LOVEFM	九州国際FM	九州
211	197.750	WFM	TV-8CH	関西テレビ	近畿	250	78.700	WFM	CRS-FM	FM九州	九州
212	209.750	WFM	TV10CH	読売テレビ	近畿	251	80.700	WFM	FM-FOK	FM福岡	九州
213	221.750	WFM	TV12CH	NHK教育	近畿	252	84.800	WFM	NHK-FK	NHK-FM福岡	九州
214	511.750	WFM	TV19CH	テレビ大阪	近畿	253	95.750	WFM	TV-1CH	九州朝日放送	九州
215	613.750	WFM	TV36CH	サンテレビ	近畿	254	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	九州
216	77.000	WFM	ERADIO	FM滋賀	近畿	255	175.750	WFM	TV-4CH	RKB毎日放送	九州
217	1.431	AM	WBS	和歌山放送	近畿	256	187.750	WFM	TV-6CH	NHK教育	九州
218	1.494	AM	RSK	山陽放送	中国	257	203.750	WFM	TV-9CH	テレビ西日本	九州
219	76.800	WFM	FM-OKY	FM岡山	中国	258	511.750	WFM	TV19CH	TXN九州	九州
220	0.702	AM	NHK-2	NHK第2広島	中国	259	619.750	WFM	TV37CH	福岡放送	九州
221	1.071	AM	NHK-1	NHK第1広島	中国	260	77.900	WFM	FMS	FM佐賀	九州
222	1.350	AM	RCC	中国放送	中国	261	1.233	AM	NBC	長崎放送	九州
223	78.200	WFM	HFM	広島FM放送	中国	262	79.500	WFM	SMILE	FM長崎	九州
224	88.300	WFM	NHK-HR	NHK-FM広島	中国	263	1.098	AM	OBS	大分放送	九州
225	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	中国	264	88.000	WFM	FM-OIT	FM大分	九州
226	175.750	WFM	TV-4CH	中国放送	中国	265	0.936	AM	MRT	宮崎放送	九州
227	193.750	WFM	TV-7CH	NHK教育	中国	266	83.200	WFM	JOY-FM	FM宮崎	九州
228	221.750	WFM	TV12CH	広島テレビ	中国	267	1.197	AM	RKK	熊本放送	九州
229	583.750	WFM	TV31CH	テレビ新広島	中国	268	77.400	WFM	FMK	FM中九州	九州
230	607.750	WFM	TV35CH	広島ホームテレビ	中国	269	1.107	AM	MBC	南日本放送	九州
231	1.431	AM	BSS	山陰放送(鳥取)	中国	270	79.800	WFM	MYU-FM	FM鹿児島	九州
232	78.800	WFM	V-AIR	FM山陰(鳥取)	中国	271	0.738	AM	RBC	琉球放送	沖縄
233	0.900	AM	BSS	山陰放送(島根)	中国	272	0.864	AM	ROK	ラジオ沖縄	沖縄
234	77.400	WFM	V-AIR	FM山陰(島根)	中国	273	87.300	WFM	FM-OKN	FM沖縄	沖縄
235	1.458	AM	KRY	山口放送	中国	-	-	-	-	-	-

アマチュア無線局免許申請書の書き方た

「無線局事項書及び工事設計書の書き方」

VX-6は技術基準適合機ですので、技術基準適合証明番号『002KN392』を記入することにより、下記記入例の「□」部分は記入を省略できます。

総務省の「電子申請・届出システム Lite」で申請する場合は、技術基準適合証明番号欄の「区分」に「工事設計認証番号」を選択し、「記号部」002KN、「番号部」392を入力してください。

無線設備の位置 場所又は施設場所		ソリダナ 都道府県・市町村・丁目	空中線電力の10Wを記入してください。										郵便する(陸上、海上及び空) 郵便しない
希望する 回数(枚数)	電波の方式		電力	周波数帯		電波の方式		周波数帯		電波の方式		周波数帯	
	1.1.9W	1 A 1 A		6.1 1200W	3 S A	4 S A	3 S F	4 S F	□	6.1 2400W	3 S A	4 S A	3 S F
1.3.5W	3 H A 4 H A	6.1 5600W	3 S A	4 S A	3 S F	4 S F	□	5.1 10.16	3 S A	4 S A	3 S F	4 S F	□
1.3.8W	13 H D 3 H D	5.1 20.40	3 S A	4 S A	3 S F	4 S F	□	5.1 24.48	3 S A	4 S A	3 S F	4 S F	□
144M, 430Mに✓印をつけてください。													
送信する場合													
送信しない													
送信する場合の分り		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
① 移動する場合は、1.半波計画 の導体に接続している送信機の内数		1 4											
② 例にアマチュア部門で、1.他の各類の送信機又は送信装置		免許の有無											
第三級アマチュア無線技士以上の方は、3VFに✓印をつけてください。 第四級アマチュア無線技士の方は、4VFに✓印をつけてください。													

■ 第四級アマチュア無線技士のかたが申請する場合

第2回版「マイクナノ無線受信機」の申請する場所					※ 登録区分
装置の区分	変更の種別	技術基準適合証明番号	無制限可能な送信の形式及び周波数の範囲		変更方式
第1 送信機	取替 撤去 変更	002KN392	F3E, F2D 144MHz帯, 430MHz帯		リアクタンス変調 2SK3476×1
第2 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更				V
第3 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更				
第4 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更				
<p>本体背面に貼り付けてある技術基準適合証明ラベルに記載されている 技術基準適合証明番号(002KN392)を記入してください. ■部分の記入を省略することができます.</p>					

■ 第三級アマチュア無線技士以上の方たが申請する場合

第一版 マイクロ無線文書上級のための申請書				※ 新規登録	
登録の区分	要件の種別	技術基準適合証明番号	登録可能な電波の型式及び周波数の範囲	登録方法	
				名前欄	複数登録
第1 送信機	二段式	002KN392	F3E, F2D, F2A 144MHz帯, 430MHz帯	リアクタンス変調	2SK3476×1 7.4 V 5
	二段式 搬送式 変更				
第2 送信機	<input type="checkbox"/> 口 略号 <input type="checkbox"/> 口 携帯 <input type="checkbox"/> 110MHz <input type="checkbox"/> 110MHz				V
	<input type="checkbox"/> 110MHz <input type="checkbox"/> 110MHz <input type="checkbox"/> 二段式 <input type="checkbox"/> 二段式				
本体背面に貼り付けてある技術基準適合証明ラベルに記載されている 技術基準適合証明番号(002KN392)を記入してください. ■部分の記入を省略することができます.					
第3 受信機	二段式	二段式			V

幕	送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	使用するアンテナの型式を記入してください.		
幕	送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	✓印をつけてください.		
送信室申請の様式			周波数測定実績の有無		
記付図面			□ 送信室系統図		その他の中間設計
					<input checked="" type="checkbox"/> <small>上記に規定する条件に合致する。</small>

- ◎ VX-6 の技術基準適合番号は、背面の技術基準適合証明シールに記載されています。
 - ◎ VX-6 固有の記載事項以外については、『アマチュア無線局(個人局)の開局申請書類の書き方』(一般社団法人日本アマチュア無線連盟発行)などを参考にして記入してください。

アマチュア無線局免許申請書の書きかた

「アマチュア局の無線設備の保証認定願」/「アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願」の書きかた(付属装置がある場合)

本機にTNCなどの付属装置を接続して申請する場合には、JARD またはTSS株式会社の「保証認定」を受けて申請してください。

《例：新規開局の場合》

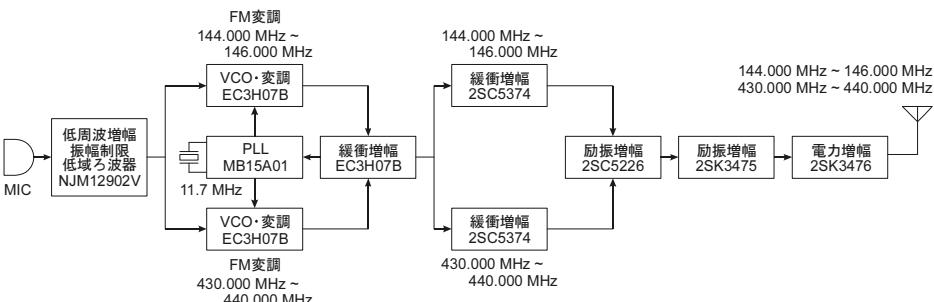
TSS 株式会社 殿

アマチュア局の無線設備の保証願書

私は、アマチュア局の免許申請に係る無線設備の保証を受けたいので、別紙の書類を添えて申込みます。		出 領 の 日	年 月 日
出 願 者	住所 社団の場合は 事務所の所在地	電話番号	
	氏名 社団の場合は 会員の氏名	F A X 番号	E メールアドレス
送信機番号 第1送信機		送信機の名称等 接続するブースタの名前等 (※ 送信機を複数持つ場合は、送信機番号を記入して、送信機名を記入する。)	附属装置の有無 (※ 送信機を複数持つ場合は、送信機番号を記入して、送信機名を記入する。)
免 許 を 申 請 す る 無 線 設 備	第2送信機		<input type="checkbox"/> 有
	第3送信機		<input type="checkbox"/> 有
	第4送信機		<input type="checkbox"/> 有
	第5送信機		<input type="checkbox"/> 有
	第6送信機		<input type="checkbox"/> 有
	第7送信機		<input type="checkbox"/> 有
	第8送信機		<input type="checkbox"/> 有
	第9送信機		<input type="checkbox"/> 有
	第10送信機		<input type="checkbox"/> 有
	その他の事項 電波法第3章に規定された条件に合致しています。		
遵守事項	1. 私は、無線設備が電波法第3章の技術基準に適合するよう、維持します。 2. 私は、責任から送付される送信設備警告、安全強制及び業務告発等の検査報告書を、免許後すみやかに提出します。 3. 私は、責任が行う管理の適正化及び正常な運用の確保のための検査に協力します。		
参考事項	1. 設備共用（設備を共用して同時に保証を申し込む者の氏名） 2. その他参考となる事項		

- ◎ 技術基準適合外の無線機と一緒に保証認定で申請（アマチュア局の無線設備の保証認定願/アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願）する場合であっても、VX-6に関しては技術基準適合機として申請できます。
- ◎ VX-6の技術基準適合番号は、背面の技術基準適合証明シールに記載されています。
- ◎ 『方式・規格』の記入事項については、お使いのTNCの取扱説明書を参照してください。

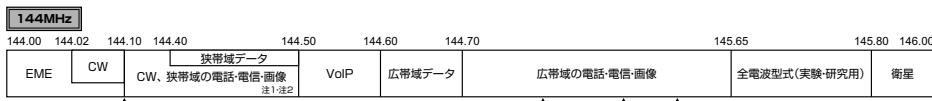
《送信機系統図》



付

録

周波数の使用区分



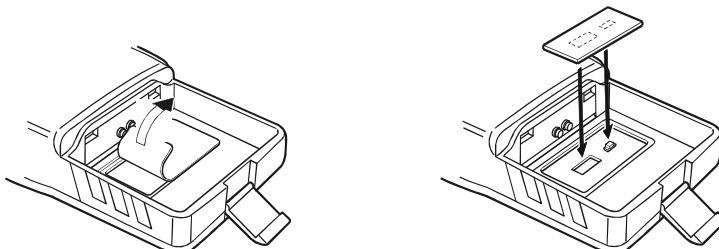
注1: 144.10MHzから144.20MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局と月面反射通信(EME)にも使用できる。この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は3kHz以下のものに限る。
注2: 144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って広帯域の電話・電信及び画像通信にも使用することができます。



狭帯域: 電波の占有周波数帯幅が3kHz以下(A3Eを除く)のもの。
広帯域: 電波の占有周波数帯幅が3kHzを超えるもの。

気圧センサユニット “SU-1” の取り付け

気圧センサユニット “SU-1” は、本格的な測定を目的として製造されたものではありません。
測定された値は、あくまで目安の値として使用してください。



電池パックを取り外し、シールをはがします。

気圧センサユニットをコネクターに差し込み、付属のシールを貼った後、電池パックを取り付けます。

故障かな？と思ったら

■電源が入らない

- 電池/パックが消耗していませんか？(7ページ)
お買い上げ直後または長期間使用していないときは、電池/パックを充電してください。
- 電池/パックは正しくセットしてありますか？(7ページ)
“電池/パックを準備する”を参照し、確実に取り付けてください。
- 外部電源の接続は間違っていませんか？(9ページ)
外部電源を使用するときには、必ずオプションのシガープラグ付外部電源アダプター“SDD-13”または外部電源ケーブル“E-DC-6”を使用してください。
- 電池/パックまたは、外部電源の電圧は正常ですか？(7, 8, 9ページ)
電池/パックの場合は、残量があること、外部電源入力の場合は、電圧がDC12～14Vであることを確認してください。

■音が出ない

- スケルチ(またはRFスケルチ)のレベルや設定が大きくなっていますか？(16, 55ページ)
モニタースイッチを押して、ザーという音が出ることを確認してください。
弱い信号を受信するときには、スケルチ(またはRFスケルチ)レベルを調整してください。
- VOLツマミを左方向にまわしすぎていませんか？(14ページ)
- トーンスケルチ、DCSまたは、新ページヤー機能がオンになっていますか？(38, 45ページ)
トーンスケルチ、DCSまたは、新ページヤー機能がオンのときには、設定したトーン周波数、DCSコード、または個別コードと同じ信号が含まれた信号を受信するまで音は出ません。

■電波が出ない

- PTTスイッチは確実に押していますか？(15ページ)
- PTTロックがオンになっていますか？(70ページ)
- BCLO機能がオンになっていますか？(56ページ)
BCLO機能がオンのときには、信号を受信しているときにPTTスイッチを押しても、電波は出ません。信号がなくなるのを待ってからPTTスイッチを押してください。
- 送信周波数はアマチュアバンドの144MHz帯と430MHz帯のFMになっていますか？(14ページ)
その他の周波数帯では送信することはできません。
- 電池/パックまたは外部電源の電圧は正常ですか？(7, 8, 9ページ)
電池/パックの残量を確認してください。
また、送信時に電圧降下を起こすような電源では、VX-6の性能を十分に発揮することはできません。

■キーやDIALツマミを操作できない

- キーロックやDIALロックがオンになっていますか？(16ページ)

以下の周波数関係で、内部発振器の高調波による内部ビート等の影響がありますが、故障ではありません。

受信周波数(MHz) = 3.579545MHz × n倍 (nは任意の整数)

受信周波数(MHz) = 11.7MHz × n倍 (nは任意の整数)

索引

A	
APO	55
ARS	17
ARTS機能	44
ATT	58
B	
BANDを選ぶ	14
BCLO機能	56
C	
CWトレーニング機能	61
CWIDの設定	60
CWIDの登録	60
D	
DCS機能	45
DCSコードサーチ	46
DCSコードを設定する	46
DMR機能	25
DTMF機能	53
DTMFコードの送出	53
DTMFコードの登録	53
E	
EAI機能	40
EAI機能で探索を行う	42
EAI機能を動作させる	42
EAI用周波数を変更する	41
F	
FRG方式(WIRES)	19
L	
LOOK	16
P	
PMS	37
R	
RFスケルチ機能	55
S	
SRG方式(WIRES)	18
SU-1の取り付け	84
T	
TOT	56
TV放送を聴く	28
TX/BUSYインジケーターを ライトとして使用する	57
V	
VFOスキャン	34
W	
WIRESで交信する	18
あ	
アーツ(ARTS)機能	44
相手局のコードを設定する	39
アッテネーター(ATT)	58
アマチュア無線局免許申請書の書きかた	82
う	
安全上のご注意	2
安定化電源を接続する	9
アンテナを取り付ける	6
え	
ウェイクアップ機能	49
お	
オープニングメッセージ	58
オールリセット	17
お使いになる前に	6
オプション	4
オンタイマー機能	55
温度を表示する	56
音量を調節する	14
か	
外部電源を接続する	9
各種の便利な機能	38
各部の名称と働き	10
簡単運用	12
乾電池ケースの使いかた	8
き	
気圧センサユニット“SU-1”的取り付け	84
気圧を表示する	51
キー操作早見表	表3
基本操作	14
緊急を知らせる	47
く	
空線信号音を消す	31
クローン操作	77
こ	
高度を表示する	51
故障かな?と思ったら	85
個別コードの設定	41
し	
シガレットライターに接続する	9
自局のコードを設定する	38
指定した周波数範囲をスマートサーチする	43
指定メモリースキャン設定	35
自動的に電源をオンにする	55
自動的に電源をオフにする(APO)	55
周波数帯(BAND)を選ぶ	14
周波数の使用区分	84
周波数をあわせる	15
受信感度を下げる	58
受信中に誤って送信しないようにする	56
使用時間の目安と残量表示	8
照明の明るさを変更する	57
照明の点灯条件を変更する	56
状態が変わらないようにロックする	16
新ページヤ機能	38

す	
スキップサーチメモリー	34
スキヤンしたくない周波数をスキップする	34
スキヤンスキップ設定	35
スキヤン操作	34
スケルチレベルを調節する	16
ステップを切り替える	59
スプリットメモリー	23
スペシャルバンクにプリセットされた 世界各地の放送 AM/FMラジオ, TV放送を聴く	29
スペシャルバンクにプリセットされた 鉄道無線を聴く	30
スペシャルバンクにプリセットされた 特定小電力無線を聴く	32
スペシャルバンクにプリセットされた ワイヤレスマイクを聴く	33
スペシャルバンクにプリセットされた TV放送を聴く	28
スマートサーチ機能	43
せ	
世界各地の放送を聴く	29
セットモード項目順一覧	64
セットモードの動作一覧	66
セットモード番号順一覧	62
セットモードリセット	66
そ	
操作音が鳴らないようにする	58
操作音の音量を設定する	58
送信出力を切り替える	16
送信する	15
た	
タイムアウトタイマー(TOT)	56
ダイレクトメモリーリコール(DMR)機能	25
ち	
チャンネルカウンター	50
て	
定格	88
ディスプレイの説明	11
鉄道無線を聴く	30
電源電圧を表示する	57
電源を入れたときの表示を変える	58
電源を入れる	14
電池電圧を表示する	57
電池パックを充電する	7
電池パックを準備する	7
電池パックを取り付ける	7
電池パックを取り外す	7
と	
トーンスケルチ機能	45
トーン周波数サーチ	46
トーンの周波数を設定する	45
同梱品	4
盗聴器発見機能サーチ	48
特定小電力無線を聴く	32
特定の局を呼び出す	39

は	
パケット通信	76
パスワード機能	54
パッテリーセーブ機能	14
ハンドストラップを取り付ける	6
ひ	
必要に応じて使う機能	52
ふ	
付属品を取り付ける	6
プライオリティ機能	52
プログラマブルキー機能	54
プログラマブルメモリースキヤン(PMS)	37
へ	
ベル機能	57
ベルトクリップを取り付ける	6
ほ	
ホームチャンネルを呼び出す	23
ホームチャンネルの周波数を変える	23
放送局周波数一覧	78
防水について	5
ま	
マイクゲインを調節する	56
マニュアルでステップを切り替える	59
マニュアルでモードを切り替える	59
め	
メモリーオンリーモード	59
メモリースキヤン	35
メモリーチャンネルに名前を付ける	24
メモリーチューン機能	22
メモリーに書き込む	21
メモリーバンクスキヤン	36
メモリーバンクに登録する	26
メモリーバンクに名前を付ける	27
メモリーバンクへの登録を解除する	27
メモリーバンクリングスキヤン	36
メモリーバンクを使う	26
メモリーバンクを呼び出す	27
メモリーを消す	22
メモリーを使う	20
メモリーを呼び出す	22
免許申請書の書きかた	82
モードを切り替える	59
も	
モードを切り替える	59
り	
リセット	17
れ	
レピータで交信する	17
連続送信時間を制限する(TOT)	56
ろ	
ロック	16
わ	
ワイヤーズで交信する	18
ワイヤレスマイクを聴く	33

定格

■一般定格

送信周波数範囲	: 144 ~ 146MHz, 430 ~ 440MHz
受信周波数範囲	: 504kHz ~ 998.99MHz (253 ~ 277MHz, 380 ~ 383MHz, 412 ~ 416MHz, 810 ~ 846MHz, 860 ~ 901MHz, 915 ~ 961MHzの周波数帯は受信できません)
送受信周波数ステップ	: 5/9/10/125/15/20/25/50/100kHz
電波型式	: F2D, F3E, F2A
通信方式	: 単信方式
周波数偏差	: ± 5ppm 以内 (-10°C ~ +50°C)
アンテナインピーダンス	: 50Ω
電 源	: 定格 DC7.4V(電池/パックFNB-80U使用時), マイナス接地 DC11.0V ~ 16.0V(充電時), マイナス接地 動作可能範囲(外部電源入力) DC5.0V ~ 16V, マイナス接地
消費電流	: 受信定格出力時 約150mA 受信スケルチ時 約60mA 受信バッテリーセーブ時 約30mA 電源オフ時(APO) 約0.2mA オンラインマー動作時 約0.9mA
使用温度範囲	: 144MHz帯送信時(5W): 約1.6A, 430MHz帯送信時(5W): 約1.8A -20°C ~ +60°C
ケース寸法	: 幅58 × 高さ89 × 奥行き 28.5mm(突起物を含まない)
本体重量	: 約270g(アンテナ, 電池パックFNB-80Uを含む)

■送信部

送信出力	: 5W(HIGH), 2.5W(LOW3), 1.0W(LOW2), 0.05W(LOW1)
変調方式	: リアクタンス変調
最大周波数偏移	: ± 5kHz
占有周波数帯域	: 16kHz以内
不要輻射強度	: 60dB以下(HIGH, LOW3), 40dB以下(LOW2, LOW1)
マイクロホンインピーダンス	: 約2kΩ(エレクトレットコンデンサ型)

■受信部

受信方式	: ダブルコンバージョンスーパーhetロダイン(AM, NFM) トリブルコンバージョンスーパーhetロダイン(WFM)
中間周波数	: 第一IF周波数 47.25MHz(AM, NFM), 45.8MHz(WFM) 第二IF周波数 450kHz(AM, NFM), 10.7MHz(WFM) 第三IF周波数 1MHz(WFM)
受信感度	: 0.5 ~ 1.8MHz (AM) 1.5µV @10dB SINAD 1.8 ~ 30MHz (AM) 1µV @10dB SINAD 30 ~ 54MHz (NFM) 0.35µV typ @12dB SINAD 54 ~ 76MHz (NFM) 0.5µV typ @12dB SINAD 76 ~ 108MHz (WFM) 1µV typ @12dB SINAD 108 ~ 137MHz (AM) 1.5µV typ @10dB SINAD 137 ~ 140MHz (NFM) 0.2µV @12dB SINAD 140 ~ 150MHz (NFM) 0.16µV @12dB SINAD 150 ~ 174MHz (NFM) 0.2µV @12dB SINAD 174 ~ 250MHz (WFM) 0.5µV typ @12dB SINAD 300 ~ 350MHz (NFM) 0.5µV @12dB SINAD 350 ~ 420MHz (NFM) 0.2µV @12dB SINAD 420 ~ 470MHz (NFM) 0.18µV @12dB SINAD 470 ~ 540MHz (WFM) 1µV typ @12dB SINAD 580 ~ 800MHz (WFM) 1µV typ @12dB SINAD 800 ~ 999MHz (NFM) 0.5µV typ @12dB SINAD
選択性	: NFM, AM: 12kHz/35kHz(-6dB/-60dB) WFM: 200kHz/500kHz(-6dB/-20dB)
低周波定格出力	: 200mW以上(@7.4V) (8Ω, THD10%) 400mW以上(@13.8V) (8Ω, THD10%)
低周波出力インピーダンス	: 8Ω
副次的に発する電波等の強度	: 4nW以下

定格値は常温・常圧時の値です。

キー操作早見表

キー&スイッチ	直接押す	2秒以上押す	【F1】を押した後に押す
PTT	送信	←	一時ハイパワー送信
モニター	スケルチオフ	←	スケルチレベル調整
【P】DMR	プログラマブルキー (要登録)	DMR機能	—
【F1】	ファンクションモード	メモリー書き込みモード	ファンクションモードの解除
【BAND】	周波数帯の選択(アップ)	スキャン	周波数帯の選択(ダウン)
【HM/RV】	ホームチャンネル呼び出し	エマージエンシー機能	リバース (レピータ動作時のみ)
【S】	インターネットモード	キーロック	送信出力の変更
【MODE】	受信モードの切り替え	スペシャルサーチ	トーンスケルチまたはDCS選択
【V/M】	VFO/ メモリーモードの切り替え	デュアルワッチ	メモリーチューン (メモリーモード時のみ) (L1~U50 時はPMS動作)
【0】	0を入力	DMR“0”に書き込み	セットモード
【1】	1を入力	DMR“1”に書き込み	周波数ステップの選択
【2】	2を入力	DMR“2”に書き込み	トーンまたはDCSコード選択 (トーンまたはDCS動作時のみ)
【3】	3を入力	DMR“3”に書き込み	DTMF送出モード切り替え
【4】	4を入力	DMR“4”に書き込み	ARTS機能
【5】	5を入力	DMR“5”に書き込み	メモリーチャンネルの スキップ / 指定の設定
【6】	6を入力	DMR“6”に書き込み	レピータシフト方向の切り替え
【7】	7を入力	DMR“7”に書き込み	新ページヤー機能
【8】	8を入力	DMR“8”に書き込み	EAI専用チャンネル呼び出し
【9】	9を入力	DMR“9”に書き込み	スペシャル/パンク

YAESU

The radio

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号 0120-456-220

受付時間 平日 9:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 18:00

©2017 八重洲無線株式会社

無断転載・複写を禁ず

1701E-HO



E H O 2 1 M 0 1 0

八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル